

2026年度

福山市新涯町二丁目及び新涯町四丁目地内

新涯ポンプ場ポンプ設備取替工事 実施設計書

工
事
概
要

- ポンプ設備取替工
- PM(プラント機械設備工事)
立軸斜流ポンプφ1800(付帯設備含む)×1基
仮設工(揚重工)×1式
 - A(建築工事)
地下タンク室(基礎杭含む)×1式

2026年度

福山市新涯町二丁目及び新涯町四丁目地内

新涯ポンプ場ポンプ設備取替工事 実施設計書

工
事
概
要

ポンプ設備取替工
1. PM(プラント機械設備工事)
立軸斜流ポンプφ1800(付帯設備含む)×1基
仮設工(揚重工) ×1式

仕 様 書

第1章 総則

第1節 適用

1. 本特記仕様書は、新浜ポンプ場ポンプ設備取替工事（プラント機械設備工事に限る）に適用する。

第2節 留意事項

1. 本特記仕様書に記載のない事項については、「福山市工事請負契約約款（契約書を含む）」、「設計図書（別冊図面、仕様書、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書をいう）」、「福山市上下水道局建設工事施行規程」、「福山市上下水道局工事検査技術基準」、「福山市下水道構造標準図」、「下水道土木工事共通仕様書(案)-2021年版-（(公社)日本下水道協会）」、「広島県土木工事共通仕様書（令和7年8月）」、その他関係規則によるものとする。
2. 施工にあたり、日本国の関係諸法令、諸官公庁の通達、施工に関する協定事項等を遵守し、諸官公署への届出及び許可等の手続きを速やかに行ない、監督員に報告すること。
3. 施工にあたり、必要な事項及び固有の条件等は、この特記仕様書によるもののほか、別紙、施工条件表のとおりとする。なお、施工条件に変更が生じた場合は、監督員と協議すること。
4. 契約約款第3条に基づき、契約締結後14日以内に工程表を作成し、提出すること。
5. 着工前に地元関係者と本工事の施工方法等について、十分に打合せ等を行い理解を得て円滑に工事が完成するよう努めること。
6. 工事開始日以降40日以内に着手すること。
7. 本工事は、法定外の労災保険契約の保険料を見込んでいる。

第3節 事業損失防止

1. 施工に伴い通常避けることができない地盤沈下、振動等を原因として生じた、建物等の損害等の補償に関しては、「福山市上下水道局建設工事損失補償事務特記仕様書」によるものとする。
2. 発注者が近接する建物等の調査を実施する場合は、受注者は発注者の行う調査の範囲を把握し、近接する区間の施工には、細心の注意を払い施工すること。
3. 発注者が調査を実施しない建物等について、受注者は必要に応じて事前に建物等の調査を実施すること。なお、調査箇所等を変更をする必要がある場合は、別途、協議すること。
4. 事業損失が発生する可能性があるときは、監督員と協議すること。

第4節 主任（監理）技術者の配置等

1. 主任（監理）技術者の専任期間等

専任が義務付けられた工事に配置される技術者の専任期間について、次に掲げる場合で、打合せ簿等により、その旨を明確にしたときは専任を要しないものとする。なお、工期の終期が到来する前に工事完成検査が終了した場合の配置期間は、引渡しを受けた日までとする。

- ①契約書上の工期の始期から現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入または仮設工事等が開始されるまでの間）
- ②工事用地等の確保が未了、自然災害の発生又は埋蔵文化財調査等により、工事を全面的に一時中止している期間
- ③橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であって、工場から現地へ工場の現場が移行する時点

なお、工場製作の過程を含む工事の工場製作過程においても、建設工事を適正に施工するため、主任（監理）技術者がこれを管理する必要があるが、当該工場製作過程において、同一工場内で他の同種工事に係る製作と一元的な管理体制のもとで製作を行うことが可能である場合は、同一の主任（監理）技術者がこれらの製作を一括して管理することができる。

- ④工事完成後、検査が終了し、事務手続きなどの残務があり、引渡しを受けるまでの期間

2. 主任（監理）技術者の変更の特例

次に掲げる場合で、打合せ簿等により、その旨を明確にしたときは、主任（監理）技術者の変更ができるものとする。

- ①技術者の死亡、傷病、出産、育児、介護による就業不能、または退職等の真にやむを得ない理由により交代が必要と認められるとき
- ②受注者の責によらない理由により工事中止または工事内容の大幅な変更が発生し工期が延長されたとき
- ③橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であって、工場から現地へ工事の現場が移行する時点

なお、いずれの場合も発注者と受注者との協議により、交代の時期は工程上一定の区切りと認められる時点とするほか、交代前後における主任（監理）技術者の技術力が同等以上に確保されるとともに、工事の規模、難易度等に応じ一定期間重複して工事現場に設置するなど、工事の継続性、品質確保等に支障がないと認められることが必要である。

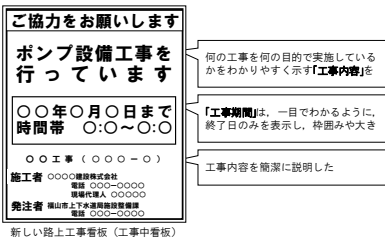
第2章 施工

第1節 安全対策

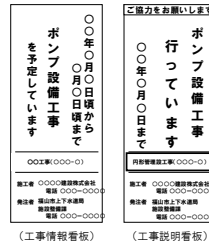
1. 片側交互通行及び通行止め等の交通制限を行う場合は、関係官公署の許可条件を遵守し、安全かつ円滑な交通を確保して事故発生のないように努めること。
2. 作業現場、作業用地内の整理整頓に留意して必要な安全施設の設置等を行い、関係者以外の立入りを禁止して危険防止に努めること。
3. 路面の補修及び転落防止対策に努めるなど、交通及び保安上の十分な措置を講じること。
4. 作業時間外（夜間等）に交通制限を行う場合は、その範囲を最小限とし夜間の保安施設は注意灯、回転灯及び防護柵等を設置して十分に配慮すること。
5. 施工に伴い事故が発生した場合は、迅速に所要の措置を講じるとともに、事故発生の原因及び経過、並びに事故による被害の内容等について、速やかに「事故等速報」等により、監督員に報告すること。

第2節 現道工事における保安施設

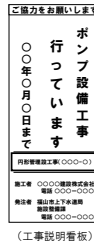
1. 保安施設は、「広島県土木工事共通仕様書」による現道工事における保安施設配置図（案）及び保安施設設置基準を基本とし、現場条件等に応じ適切に実施すること。ただし、「工事表示板」及び「工事情報看板」、「工事説明看板」、「まわり道案内表示板」の標準様式については、次のとおりとすること。なお、この標準様式によらない場合は、監督員と協議すること。
2. 保安施設のうち工事情報看板の設置時期については、工事現場周辺の住民及び道路利用者等に十分周知の図れるよう事前に設置すること。また、その他の保安施設の設置時期は、現場着手にあわせて適切な時期に設置すること。
3. 作業中止中（休日等）で通行に支障のない場合は、作業のないことの周知が図れるように標識等を撤去またはシート等でかくす等、措置すること。
4. 施工に伴い止むを得ず路面に段差が生じた状態で交通開放する場合は、通行者に周知が図れるよう警戒看板等を設置するとともに、通行者の安全に十分配慮すること。
5. 台風等により暴風雨等が予測される場合は、保安施設（工事看板等）が頑丈に固定されていることを確認するとともに、設置場所等の状況によっては、一時撤去し、飛散しないように最善の策を講ずること。
6. 「工事表示板」、「工事情報看板」、「工事説明看板」、「まわり道案内表示板」の標準様式については、次のとおりとする。なお、看板の寸法は、現場条件等に応じて適切な大ききとすること。



新しい路上工事看板（工事中看板）



（工事情報看板）



（工事説明看板）



第3節 交通誘導警備員

1. 交通誘導警備員を配置するにあたって、安全かつ円滑な交通が確保できるよう状況を十分に把握し、現場条件に応じた適正人員の確保及び配置を行うこと。また、交通誘導警備員に対して、現場条件に関する教育等を行うこと。
2. 受注者は工事現場の交通状況を十分に把握し、交通誘導警備員の休憩、休息時間において交通誘導警備員が必要な場合は、監督員と協議を行って交替要員を配置するものとし、必要と認められる場合は契約変更できるものとする。
3. 交通誘導警備員の積上げ人数は、交通誘導の対象となる施工量に対し、作業当日標準作業量から必要な人数を見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き、施工実績等による交通誘導警備員の積み上げ人数の増員に対する変更は行なわない。また、工事実績の交通誘導警備員が減った場合は、実績数量により変更を行なう。ただし、交通誘導警備員の対象となる施工量に増減等が生じた場合はこの限りでない。
4. 交通誘導警備員Aとは、警備業者の警備員（警備業法第2条第4項に規定する警備員をいう。）で、交通誘導警備業務（警備員等の検定等に関する規則第1条第4項に規定する交通誘導警備業務をいう。）に従事する交通誘導警備業務に係る一級検定合格警備員又は二級検定合格警備員をいう。
5. 交通誘導警備員Bとは、警備業者の警備員で、交通誘導警備員A以外の交通の誘導に従事するものをいう。
6. 「警備員等の検定等に関する規則」により、広島県公安委員会から認定告示（2020年10月1日広島県公安委員会告示第73号）のあった路線に係る交通誘導を実施する場合については、交通誘導警備員Aを誘導日あたり1名以上配置すること。

第4節 現場管理

1. 土留工の施工は、地盤変動に留意して適切に設置撤去すること。また、設置撤去の不良により地下埋設物、通行者及び隣接物等に損害を与えた場合は、受注者の責任により速やかに対処すること。
2. 埋戻工の施工は、十分な締固めを行うこと。また、埋戻し及び締固めの不良により地下埋設物、通行者及び隣接物等に損害を与えた場合は、受注者の責任により速やかに対処すること。
3. 施工方法、建設機械の騒音及び振動の大きさ、発生実態、発生機構等について十分理解し、工事現場及び現場周辺の状況に留意して施工すること。
4. 施工に伴い通常避けることができない損害等の発生が予見される場合は、速やかに監督員に協議すること。
5. 小黒板情報電子化対応ソフトウェアを使用する場合は、「土木工事共通仕様書（広島版）」に従い、工事契約後に監督員の承諾を得たうえで、使用する機器・ソフトウェア等について工事着手までに提出すること。また、工事完成時に小黒板情報の電子的記入を行った写真の偽信憑性確認を行い、その結果を監督員へ提出すること。

第5節 地下埋設物

1. 工事着手前には、地下埋設物及び地下構造物の調査を行うとともに、当該管理者に立会を求めてその位置を確認し、管理者の指示を遵守して埋設物及び構造物に損害を与えないよう注意して施工すること。
2. 必要に応じて試掘を実施し、その位置を確認すること。また、当該管理者との協議及び試掘の結果を発注者へ提出すること。

第6節 環境対策

1. 施工に伴う騒音、振動、大気汚染、水質汚濁等について、関係法令及び仕様書の規定を遵守の上、周辺地域の環境保全に努めるものとする。また、施工計画及び工事実施の各段階において十分検討して必要な措置を講ずること。
2. 受注者は、大気汚染防止法に基づき本工事が特定工事に該当するかについて、事前調査（設計図書その他の書面による調査、特定建築材料の有無の目視による調査等）を行いその結果を監督員に説明し、事前調査結果（受注者の名称、調査終了年月日、調査方法、調査結果等）を現場の公衆に見やすい場所に掲示すること。なお、掲示物の大きさは長さ42.0cm以上、幅29.7cm以上（A3用紙以上、縦長横長問わず）とする。また、監督員への説明書面の写し、及び事前調査の記録は、工事完了後3年間保存すること。
3. 資機材等の運搬にあたっては、運搬経路及び作業時間帯に留意すること。
4. 施工方法、建設機械の騒音及び振動の大きさ、発生実態、発生機構等について十分理解して、工事現場及び現場周辺の状況に留意すること。
5. 広島県土木工事共通仕様書（令和7年8月）『1-1-1-34 環境対策』で使用を義務付けている排出ガス対策型建設機械においては、第3次基準値以上の建設機械の使用に努めること。なお、使用する排出ガス対策型建設機械について、基準値による設計変更は行わない。

第7節 工事用地

1. 本工事に必要な現場事務所及び資材置場等の用地は、全て受注者の責任と負担において確保すること。

第8節 情報共有システムの利用

1. 情報共有システムとは、業務の効率化を図り、受発注者間の情報を電子的に交換・共有するものであり、本工事が対象であるかは施工条件表を参照すること。
2. 本工事で使用する情報共有システムは次とする。
広島県工事中情報共有システム <http://www.hdobokuk.or.jp/koujijiyoushishutemu2.html>
3. 受注者は、情報共有システムの利用対象としないことを希望する場合は、契約後すみやかに発注者にその旨を協議し、承諾を得ること。
4. 受注者は、情報共有システムの利用に当たり、（一社）広島県土木協会に利用申込みを行い、利用料を支払うものとする。
5. 受注者は、情報共有システムの利用に当たり、「情報共有システム利用手引（土木工事）」に基づき運用すること。

第3章 建設副産物

第1節 特定建設資材廃棄物（アスファルト塊、コンクリート塊等）

1. 特定建設資材廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という）を遵守し、適正に処理しなければならない。
2. 特定建設資材廃棄物は、広島県及び廃棄物処理法政令市が、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設へ搬出し再資源化しなければならない。
3. 搬出先においては、許可看板と処分状況が確認できるよう、写真撮影を行なうとともに、伝票等を提出すること。また、必要に応じて現地確認、立入り調査等を行なうこと。
4. 再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、広島県及び廃棄物処理法政令市が「廃棄物処理法」に基づき許可した適正な施設のうち受入条件が合うものの中から、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き再資源化に要する費用（単価）は変更しない。

第2節 産業廃棄物の場外保管

1. 本工事に発生する産業廃棄物を事業場の外（建設工事現場以外の場所）において300m²以上の面積で保管する場合には、保管場所を所管する都道府県知事に事前の届出を行うこと。また、届出事項を変更する場合は事前に変更届を、保管をやめたときは30日以内に廃止届を提出すること。ただし、産業廃棄物処理業等の許可施設における保管は届出対象外とする。

第3節 再生資源利用計画

1. 受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

第4章 熱中症対策

本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う工事である。

1. 工期（工事の始期日から工事の終期日までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日及び後片付け期間の合計をいう。なお、検査期間13日間、年末年始6日間（12月29日～1月3日）、夏季休暇3日間（国民の祝日である山の日の次の日から土曜日、日曜日及び振替休日を除く3日間とする。）、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。）期間中の真夏日の状況に応じて、変更契約時に現場管理費の補正を行うものとする。
2. 真夏日とは、日最高気温が30度以上の日をいう。また、日最高暑さ指数（WBGT）が25度以上の日をいう。ただし、夜間工事の場合は、作業時間帯の最高気温又は最高暑さ指数（WBGT）を対象とする。
3. 気温の計測箇所及び結果は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温又は環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）を用いることを標準とする。
なお、本工事において、上記地上観測所及び観測地点は、「福山」とすることを標準とする。
4. 受注者は、工事期間中における気温の計測箇所、用いる計測値及び計測期間（計測開始日、計測終了予定日）を明記した施工計画書を工事着手前に提出し、計測結果を工事完成時までに監督員に提出すること。
5. 受注者は、計測終了日について、工事完成時までに監督員と協議するものとする。
6. 積算方法は次のとおりとする。
 - （1）補正方法
 - ア 受注者より提出された計測結果の資料を基に、補正値を算出し現場管理費率に加算する。ただし、現場管理費率の補正は、「積算寒冷地域で施工時期が冬期となる場合の補正」、「緊急工事の場合」及び本通知の補正値を合計し、2%を上限とする。
 - イ 真夏日率＝工期期間中の真夏日÷工期
 - ウ 補正値（%）＝真夏日率×1.2
 - （2）補正値の計算結果は、パーセント表示で小数点3位を四捨五入して2位止めとする。
7. 受注者より、熱中症対策に資する現場管理費の補正が不要である旨の協議があった場合は、補正を行う工事から対象外とすることが出来る。
8. 検査員から修補の指示があった場合、修補期間は対象外とする。

第5章 その他

1. 本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項、または、疑義が生じた場合は、その都度、速やかに監督員と協議を行なうこと。

施 工 条 件 表

対象工事名 : 新涯ポンプ場ポンプ設備取替工事（プラント機械設備工事に限る）

項目	事 項	該 当	内 容			
① 計 画 準 備 関 係	施工計画書等の提出	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	現場着手に先立ち、「広島県土木工事共通仕様書」に基づき施工計画書を作成し、監督員の確認を得ること。			
		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	現場着手に先立ち、「広島県土木工事共通仕様書」に基づき主要資材承認書を作成し、監督員の確認を得ること。			
	変更図面の作成	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	設計図書に基づき現地の測量等を行い、試験掘りの結果及び地下埋設物等の状況について照査し、管路の法線及び高さ等に変更が生じた場合は、変更図面を作成し、提出すること。			
	取付ますの設置	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	取付ますを設置できる権利がある関係者に対し、あらかじめ取付管及び取付ますの設置に関して十分に説明し、設置の有無及び設置場所の確認等を行い、「取付管及び取付ます設置確認書」を取得し、施工すること。また、取付ますの深さについても、十分検討すること。 なお、取得した「取付管及び取付ます設置確認書」は、完成図書とあわせて提出すること。			
	誓約書の提出	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	試験掘りに先立ち、水道管、ガス管、その他の地下埋設物に対し、施工による不測の事態に対処するため、各管理者に誓約書を提出すること。また、その誓約書の写しを提出すること。 なお、福山市上下水道局に提出する誓約書には、福山市上下水道局指定の配水本管工事施工資格業者を誓約業者として指定すること。			
	協議	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	次のとおり、関係機関及び地域住民等との協議を行うこと。			
			関係機関	事項	協議の内容	備考
段階確認	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	施工の重要な段階において、監督員の段階確認を受け、適切に実施すること。 なお、段階確認の工種及び時期、箇所等については、監督員と事前に協議すること。				
情報共有システム	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	設計金額3,500万円以上の工事は、原則として情報共有システムを利用する。				

項目	事項	該当		内容				
② 工程関係	工事期間	●あり	○なし	工事期間は、次のとおりの期間の合計としている。また、本工事着手までの準備期間とし40日間を、検査期間は14日間を見込んでいる。 なお、この工事期間には、雨天、休日等（作業期間内の全土曜日及び日曜日、並びに休暇等）を含んでいる。				
				<input checked="" type="checkbox"/> 準備期間	<input checked="" type="checkbox"/> 本工事施工期間	<input type="checkbox"/> 建物等調査期間	<input checked="" type="checkbox"/> 変更協議期間	<input type="checkbox"/>
				<input checked="" type="checkbox"/> 後片付け期間	<input checked="" type="checkbox"/> 検査期間	<input type="checkbox"/> 水道管移設期間	<input type="checkbox"/> ガス管移設期間	<input type="checkbox"/>
	関連する別途工事	●あり	○なし	本工事に関連して、次の工事が施工、施工予定とされているため、相互に連絡・調整等を密にし施工すること。				
				関連工事の名称	発注者名	予定期間	備考	
				新涯ポンプ場除塵設備取替工事	福山市上下水道事業管理者	2026年6月頃から2028年3月31日まで		
				新涯ポンプ場電気設備取替工事	福山市上下水道事業管理者	2026年6月頃から2028年3月31日まで		
	制約条件	●あり	○なし	施工時期、施工時間及び施工方法に制約条件があるため、次のとおり、適切な処置を行うこと。				
				場所	制約の要因	制約の内容	備考	
				全体	円滑な交通の確保	施工時間帯は昼間とし、道路使用許可条件を遵守するものとする。		
	○あり	●なし						
③ 用地関係	借地	○あり	●なし	次のとおり、借地を見込んでいる。				
				場所	目的	面積	使用後の処置	備考
	工事用地	○あり	●なし	工事区間において、次のとおり、一部未処理用地がある。				
				場所	面積	協議内容	完了見込時期	備考
	○あり	●なし						

項目	事項	該当		内容				
④ 周辺環境保全関係	建設公害の処置	●あり	○なし	騒音・振動・粉塵・その他の防止のため、次のとおり、適切な処置を行うこと。				
				項目	処理方法	備考		
				建設機械（全般）	排ガス対策型の使用			
	建物等の調査	○あり	●なし	一部の区間において、第三者に何らかの影響を及ぼすことが懸念されるため、次のとおり、発注者において近接する建物等の調査を実施する予定としている。 なお、調査箇所等を変更する必要がある場合は、別途、協議すること。				
				調査内容	調査項目	数量	備考	
	井戸の調査及びその他の調査等	○あり	●なし	一部の区間において、第三者に何らかの影響をおよぼすことが懸念されるため、次のとおり、事前に井戸調査及びその他の調査等を実施し、調査結果（計量証明書等）を監督員に提出すること。 なお、調査箇所等を変更する必要がある場合は、別途、協議すること。				
				調査内容	調査項目	数量	備考	
	六価クロム溶出試験の実施	○あり	●なし	次のとおり、「六価クロム溶出試験」を実施し、試験結果（計量証明書）を監督員に提出すること。 試験方法は、セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領による。 なお、土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合は、監督員と協議すること。				
場所				工種	配合設計段階検体数	施工後段階検体数	工法	備考
濁水・湧水の処理	○あり	●なし	施工に伴い発生する濁水・湧水は、水槽等の沈砂池により適切に処理し、排水すること。					
	○あり	●なし						

項目	事項	該当		内容			
⑤ 安全対策関係	近接施工	○あり	●なし	重要施設に近接した施工となるため、次のとおり、適切に管理を行うこと。また、そのチェックリストを提出すること。			
				場所	近接する施設	条件	備考
	作業時間内の埋戻復旧	○あり	●なし	作業時間外は交通開放するため、掘削・埋戻は即日を実施すること。 また、作業時間内に埋戻し・仮復旧を完了させ、作業時間外は掘削に伴う開口部を残さないこと。 なお、不測の事態により、埋戻復旧ができない場合は、警察等の関係機関へ連絡し、監督員に報告すること。 掘削・埋戻・仮復旧に係る割増を見込んでいる。			
⑥ 埋戻関係	処理土	○あり	●なし	処理土の購入先は、建設発生土リサイクルプラントを見込んでいる。			
	流用土（現場内流用）	●あり	○なし	埋戻土は、現場発生土の一部を流用することとしている。			
	流用土（他工事流用）	○あり	●なし	埋戻土は、次のとおり、他工事の発生土を流用する予定としている。 なお、止むを得ない事情により、これにより難しい場合は、別途、協議すること。			
				他工事名	搬入場所	搬入時期	備考
	真砂土	○あり	●なし				
品質管理	○あり	●なし	品質管理頻度	埋戻土量・試験回数		(次のいずれか)	
				埋戻土量500m3につき1回 ただし、50m3未満の場合は省略できる。	試験方法	簡易貫入試験 (土研式円すい貫入試験)	市道 14回以上/10cm 県道 17回以上/10cm
					現場密度試験	90%以上	(複数回の場合異なる層、位置で実施)

項目	事項	該当		内容			
⑦ 建設副産物関係	建設発生土	<input type="radio"/> あり	<input checked="" type="radio"/> なし	当該工事により発生する建設発生土は、広島県が公表する建設発生土処分先一覧表に記載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）に搬出するものとする。			
	建設汚泥（泥土）	<input type="radio"/> あり	<input checked="" type="radio"/> なし	建設汚泥（泥土）は、次の運搬先を見込んでいる。			
				種別	搬出場所	運搬距離	備考
	建設汚泥（泥水）	<input type="radio"/> あり	<input checked="" type="radio"/> なし	建設汚泥（泥水）は、次の運搬先を見込んでいる。			
				種別	搬出場所	運搬距離	備考
	特定建設資材の廃棄物	<input checked="" type="radio"/> あり	<input type="radio"/> なし	特定建設資材の廃棄物は、次の運搬先を見込んでいる。			
種別				搬出場所	運搬距離	備考	
コンクリート殻				福山市箕島町字長浜6184-1	1.4km		
アスファルト殻				同上	同上		
残土				同上	同上		
建設副産物情報交換システム	<input checked="" type="radio"/> あり	<input type="radio"/> なし	建設副産物情報交換システムの登録対象工事である。				
広島県土砂の適正処理に関する条例	<input type="radio"/> あり	<input checked="" type="radio"/> なし	「広島県の土砂の適正処理に関する条例」に係る届出及び許可の対象となる工事である。				
	<input type="radio"/> あり	<input checked="" type="radio"/> なし					
	<input type="radio"/> あり	<input checked="" type="radio"/> なし					

項目	事項	該当		内容				
⑧ 仮設関係	土留	○ あり	● なし	次のとおり、土留を見込んでいる。なお、開削工における建込土留については任意仮設とする。仮設方法は土質条件・現場条件および周辺環境を考慮し施工管理・出来形管理を行うこと。				
				場所	工法	土留種別	備考	
	仮設(土留)材料の残置	○ あり	● なし	次のとおり、工事終了後も仮設(土留)材料を残置すること。				
				場所	仮設材料名	残置の形態	数量	備考
	路面覆工	○ あり	● なし	作業時間以外は交通開放するため、次のとおり、路面覆工を見込んでいる。				
				場所	覆工幅	覆工延長	仕様	備考
覆工材料の残置	○ あり	● なし	別途工事で引き続いて使用するため、次のとおり、工事終了後も覆工材料を残置すること。					
			場所	仕様	数量	付属部材	備考	
水替	○ あり	● なし						
仮設電力設備	○ あり	● なし	次のとおり、仮設電力設備を見込んでいる。					
			場所	設備の種類			備考	
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
一般搬入道路	● あり	○ なし	一般道路を搬入路として使用するにあたり、次のとおり、適切に処置すること。					
			搬入道路	期間	時間	工事中・後の処置	備考	
			全ての道路	工事期間	8時～17時	随時路面等の清掃、工事後舗装等の欠損部補修	処置は使用に伴い影響があった場合	
仮設道路	○ あり	● なし	仮設道路を設置・使用するにあたり、次のとおり、適切に処置すること。					
			期間	安全施設	使用中の処置	使用後の処置	備考	

現場説明書（技術的事項）

工事名 新涯ポンプ場ポンプ設備取替工事

1 現場の状況

工事場所は、中国四国安全衛生技術センター付近です。

工事期間中は、新涯ポンプ場は取替対象以外の一部を除く施設が稼働中です。

2 工事内容

主ポンプ設備（付帯設備含む）及び地下タンクを取替します。

3 留意事項

- (1) 本工事の受注者は、地元企業・地場製品の活用に努めてください。
- (2) 工事施工上必要な官公署への手続きは、受注者の責任において速やかに行ってください。
- (3) 工事期間中は、適切な安全対策を講じ、職員、施設維持管理業者及び第三者の安全確保に細心の注意を払ってください。
- (4) 契約後、実施工程表は14日以内に提出するとともに、施工計画書等の承諾は速やかに受けてください。
- (5) 工事で既存工作物、設備等に損傷を与えないよう対策を講じてください。
- (6) 施設は稼働中であり、施工時、警報の発報など管理運営に支障のないよう対応してください。
- (7) 既設構造物等に劣化、腐食等が発覚した場合は速やかに局監督員に報告をしてください。
- (8) 構成の違いなどにより他の機器等の更新などが必要な場合は、本工事に含むものとし、現行の機能、表示、操作が可能なよう施工を行ってください。
- (9) 本工事場所の浸水位は流入渠側 TP+2.83m、吐口側 TP+3.62m と設定しています。

4 別途関連工事

新涯ポンプ場除塵設備取替工事

新涯ポンプ場電気設備取替工事

新涯ポンプ場放流渠耐震化工事

5 法定外の労災保険の付保について

本工事は、法定外の労災保険を見込んでいます。

新涯ポンプ場ポンプ設備取替工事

特記仕様書

(プラント機械設備工事に限る)

令和8年4月

福山市上下水道局施設整備課

目 次

第1章 総則	1
第2章 機器仕様	5
§ 1 No.1 排水ポンプ	5
§ 2 No.1 減速機	9
§ 3 No.1 原動機	11
§ 4 No.1 消音器	16
§ 5 No.1 空気槽	16
§ 6 No.1 吐出弁	17
§ 7 No.1 逆流防止弁	19
§ 8 No.1～2 空気圧縮機	20
§ 9 No.1 燃料貯留槽	21
§ 10 No.1 燃料小出槽	23
§ 11 No.1～2 燃料移送ポンプ	25
§ 12 No.3～4 燃料移送ポンプ	27
§ 13 No.1～2 冷却水ポンプ	29
§ 14 高架水槽	32
§ 15 耐震強度	34
第3章 複合工	35
第4章 据付工	38
第5章 塗装工	39
第6章 配管工	41
第7章 撤去工	46
第8章 工事計画	50
第9章 検査および試験	51

第1章 総 則

1. 適用

本仕様書は、新涯ポンプ場ポンプ設備取替工事に適用する(プラント機械設備工事に限る)。

2. 工事場所

工事場所 福山市新涯町二丁目及び新涯町四丁目地内

3. 準拠基準

(1) 本設備の設計ならびに施工については、以下の諸規定に準拠するものとする。

- ①揚排水ポンプ設備技術基準(案)同解説
- ②揚排水ポンプ設備設計指針(案)同解説
- ③高Ns・高流速ポンプ設備計画設計技術指針
- ④下水道施設計画・設計指針と解説
- ⑤国土交通省大臣官房官庁営繕部公共建築工事標準仕様書
- ⑥日本産業規格(JIS)
- ⑦労働安全衛生規則
- ⑧消防法・同施行令・同施行規則・本市災害予防条例
- ⑨クレーン等安全規則
- ⑩大気汚染防止法、騒音規制法・振動規制法
- ⑪福山市上下水道局給水装置標準設計施工事務取扱要綱
- ⑫広島県土木工事共通仕様書
- ⑬その他、下水道事業団仕様書・関係法規・規定など

(2) 受注者は契約書・仕様書・設計書ならびに図面に従い、誠実に工事施工に当たるのは勿論のこと、発注者の指定する監督員の指示に従わなければならない。

(3) 重要な指示事項は全て文書によって処理し、発注者受注者双方とも確認しておくものとする。

(4) 本仕様書以外の事項

本仕様書に明記されていない事項についても、機能上当然必要と認められるものは全て受注者が充足するものとする。

4. 工事概要

立軸斜流ポンプφ1800(付帯設備含む)×1基

仮設工(揚重工) ×1式

5. 施工範囲

本工事の施工範囲は、新涯ポンプ場におけるNo.1排水ポンプ等の取替を行うものであり、付帯設備として補機類その他必要なもの一切を設けるものとする。

設計、製作、塗装及び搬入・据付け、調整、試運転までの一切であり、これによって生ずる手直しまでの施工、仮設工事等の付帯工事も含むものである。

No.1排水ポンプ等の取替に係わる機器の製作、据付	1式
その他補機類取替等に係わる機器の製作、据付	1式
その他付随する配管、鋼製品、複合工、仮設工および撤去工の施工	1式

6. 提出図書および報告書

受注者は施工に先立って以下の図書を提出し、発注者の承諾を得るものとする。尚、承諾後の変更事項についても、その都度発注者の承諾を得なければならない。

- ①機器製作計画書(契約後60日以内)
- ②現場施工計画書(現場着工30日以内)
- ③検査要領書
- ④主要資材一覧表
- ⑤製作仕様書(発注・製作仕様対比表含む)
- ⑥設計計算書
- ⑦機器据付図・基礎図(耐震計算含む)
- ⑧各機器外形寸法図・構造図
- ⑨写真集(製作工程工事順)及び電子データ 各1部
- ⑩完成図書(工事完成時、検査成績書・取扱説明書含む) 3部
- ⑪完成(施工)図面 電子データ 1部
- ⑫その他発注者が必要と認めた図書

7. 外注品

外注品を使用する場合は、外注品リストを提出し承諾を受けなければならない。

8. 検査

各種の検査を行うに必要な経費は全て受注者の負担とする。

9. 受渡し

試験検査完了合格後、発注者検査員の立会のもとで試運転を行い、機能的にも良好であることの確認をもって合格とし、受渡しを行う。

10. 保証

工事契約書による。

11. 安全対策

施工にあたっては、労働安全衛生規則を守り、就業者に対して、常にこれを徹底するよう留意するとともに、安全作業に対する十分な対策をなし、安全責任者を定めて、これを管理すること。

尚、万一の災害については、全て受注者の責任で処置するものとする。

12. 仮設物

受注者詰め所、倉庫等の仮設工作物を設置する場合は、設置場所等について、事前に発注者の承諾を得なければならない。

13. 工事用の水および電力

工事用の水及び電力は、その手続き、設置など全て受注者の負担とする。

14. 疑義事項

本仕様書で疑義ある事項については、発注者受注者協議の上決定するものとする。

15. その他

(1)受注者は、関係官庁及びその他と交渉を要する時及び交渉を受けた時は速やかにその旨を発注者に申し出て、その指示を受けるものとする。

その他、工事施工上必要な所轄官庁への手続きは全て受注者が行うものとする。

(2)受注者は、既設構造物その他に損傷を与えないよう又は機能を阻害しないよう適切な保護を行うこと。これらの損傷又は損失を与えたとき、並びに施工便宜上取壊し、もしくは移設等を行うときは、発注者の指示に従い、事後受注者の負担に於いて復旧すること。

第2章 機器仕様

§ 1 No.1 排水ポンプ

1. 使用目的

本機は、スクリーンを通過し砂等を除去した雨水を揚水するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 型式	立軸斜流ポンプ	I型
(2) ポンプ口径	φ 1,800mm	
(3) 吐出量	456m ³ /min	
(4) 全揚程	5.2m	
(5) ポンプ効率	85%以上	
(6) 原動機出力	539kW	参考
(7) 回転数	145min ⁻¹	参考
(8) コラム長さ	6.7m	スラブ面から吸込口まで(参考)
(9) 中間軸受	0箇所	中間床設置軸受
(10) 設置方式	二床式	
(11) 流量制御	有(~ %Q) ・ 無 [○]	
(12) 台数	1台	
(13) その他項目	1)ポンプ推力 ポンプ受け 2)潤滑水回収装置 無 3)水中軸受 セラミックス軸受 4)封水装置 無注水シール	

3. 構造概要

本ポンプは、雨水を揚水するもので、連続運転に耐える堅ろうな構造とすること。

ポンプは、振動や騒音が少なく、円滑に運転できるとともに、特に有害なキャビテーション現象が発生しないような構造とすること。

4. 製作条件

- (1) 流入水は、スクリーンを通過し、砂等を除去した雨水とする。
- (2) ポンプの運転は、起動時締切り運転が可能であること。

5. 各部の構造

5-1. 駆動装置

- (1) 動力伝達軸系に設ける軸継手の構造については、本設備に最も適合したもので振動、偏心、捩れに十分耐え、かつ原動機への伝播を緩衝する構造とする。なお、ポンプと原動機の据付け位置が離れている場合は連結軸を用いること、連結軸は回転速度、トルクを十分考慮した安全なものでなければならない。
- (2) 連結軸及び軸継手には、安全用カバー又は安全柵等を付けること。カバーは給油に便なる構造とし、内部の状態を確認できて取外し容易な構造とすること。

5-2. 本 体

(1) ケーシング

- 1) ケーシングは、内部圧力及び振動等に対する機械的強度並びに腐食・摩耗を考慮した良質の鋳鉄製品とする。
- 2) 吊下げ管は、分解、組立に便利なように適当に分割し、フランジ接続とすること。
また、吐出しケーシングと一体のフランジを設け、円形のフランジ形固定ベースに取り付ける構造とすること。
- 3) ケーシングと羽根車との摺動部に、摩耗の際、容易に取り替えられる構造のライナをケーシング側に取付けること。
- 4) グランド部及び必要により設けられる各部軸受部の点検に便利なように、梯子及び点検台を必要により設けること。
- 5) ポンプの吐出側には、ルーズフランジが取付く構造とすること。

(2) 羽 根 車

羽根車は、良質強靱なる製品とし、固形物の混入に対し、堅ろうであること。

羽根車の型式は、オープン型として極力羽根数を少なくし、平衡を十分とるとともに羽根車の表面を滑らかに仕上げること。

(3) 主 軸

- 1) 主軸は、伝達トルク及び振り振動に対しても十分な強度を有すること。
- 2) 軸封部及び水中軸受部は、耐摩耗性を有する十分な厚さの軸スリーブを装着し、摩耗、腐食した時はその部分のみ容易に取り替えられる構造とすること。
- 3) 主軸保護管は、主軸とのすき間が十分な内径とし、主軸が直接原水に接するのを防止するとともに、水中軸受潤滑水の注水管として使用すること。セラミックス軸受の場合、保護管は不要とする。
- 4) 軸継手は、分解、組立が容易であり、十分釣合いのとれたものとし、適切な軸継手を使用すること。

(4) 軸 受

- 1) 水中軸受は、セラミックス軸受とし、外部注水を不要とする。
- 2) 水中軸受は、長時間の連続運転に耐えるものとする。
- 3) 外部軸受が必要な場合には、良質な材料を使用し、分解、点検が便利なように、また円滑なる潤滑ができる構造とする。
- 4) 回転部質量及び羽根車に生じたスラストは、ポンプ上部に設けたスラスト軸受ケース内に強固に取り付けられた、軸受にて支持することを原則とし、長時間の連続使用に耐え、円滑なる自己潤滑ができる構造とすること。

(5) ポンプのグランド

- 1) 軸封装置の型式は次のとおりとする。

取扱い液	水中軸受	軸封装置
雨 水	セラミックス軸受	無注水シール

- 2) グランド等の排水部はすべて太いドレンパイプを取り付け、ポンプ井に排水すること。

(6) 架 台

減速機架台は、形鋼製品とし、原動機床面に設けて減速機及び連結軸の質量を支持すること。

架台の空間部は、取り外し可能な縞鋼板等を設けること。蓋の取付け部は山形鋼にてコンクリート部と十分密着するように施工すること。

(7) フランジ

ポンプ本体の吐出側のフランジ寸法は、JIS G 5527:2014(7.5K)に準ずること。

6. 使用材料

使用材料は次による。

部品名	材 質
吐出ケーシング	FC250
吐出ボウル	FC250
吊下げ管	FC250
吸込ベルマウス	FC250
羽根車	SCS13
ラ イ ナ	SUS304,SUS403,SCS1 又は SCS13
主 軸	SUS403
スリーブ	SUS304 又は SCS13
保護管	SUS304
中間軸	炭素鋼
水中軸受部 スリーブ	超硬合金

7. 保護装置

(1) 機械的保護装置

軸封水装置その他は、運転操作条件として考慮する。

(2) その他の保護装置

回転部等の危険個所には、安全対策を考慮するとともに点検等に便利な構造とする。

8. 試験、検査

本ポンプの検査は、機械設備工事一般仕様書に基づいて行なうものとし、製作工場にて組立完了後 JIS B 8301 に準拠した性能試験を行う。

吐出量、揚程については、JIS B 8301 判定基準による能力とする。なお、本仕様書で指示するポンプ効率、規定回転数・規定全揚程における表示であり、これを下回ってはならない。

9. 据付け

据付けに当たっては、水準器等によって正確に芯出し調整を行なう。

10. 他工事との区分

(1) 土木、建築工事との区分

原則として機械コンクリート基礎、一部はつり工及び孔部分の復旧工事は本工事に含む。

(2) 電気設備工事との区分

集合端子箱又は各機器の端子箱を設け、二次側の配線とともに本工事とする。また、封水用継電器、電動弁に端子台がない場合には、機械側で端子箱を設ける。なお、それ以降の配線接続は電気設備工事とする。

11. 標準付属品(1台につき)

1) 連結軸及び軸継手	1組
2) 減速機架台	1式
3) 基礎ボルト・ナット	1式
4) 縞鋼板等	1式
5) 軸継手ガード	1式
6) 連成計(隔膜式)	1個
7) 自動空気抜弁	1個(必要な場合)
8) ポンプ周り小配管	1式
9) 軸受温度計(指示、接点付)	1個

§ 2 No.1 減速機

1. 使用目的

本機は、No.1 原動機の回転速度を歯車の組合せで No.1 排水ポンプの回転速度に減速するとともに、No.1 原動機の水平軸を No.1 排水ポンプの垂直軸に連結して、動力を伝達するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 型式	直交軸傘歯車減速機	
(2) 原動機出力	539kW	参考
(3) 減速比	6.207	参考
(4) 原動機回転数	900min ⁻¹	参考
(5) ポンプ回転数	145min ⁻¹	参考
(6) 潤滑及び冷却方式	強制潤滑方式、水冷式	
(7) 台数	1台	
(8) その他項目	1)ポンプ推力 ポンプ受け 2)油圧クラッチ 有(形式:複合式)	

3. 構造概要

傘歯車減速機は、内燃機関の回転速度を、歯車の組合せでポンプの回転速度に減速するとともに、内燃機関の水平軸をポンプの垂直軸に連結して動力を伝達するもので、振動や騒音が少なく円滑に運転できる構造とする。

また、傘歯車減速機に設けるクラッチは、油圧クラッチとし、この嵌合時間を 5 秒以上とする。

4. 製作条件

使用状態、据付条件等を十分考慮し、歯車の製作は日本産業規格(JIS)に基づくこと。

5. 各部構造

(1) ケーシング

ケーシングは、全閉で油留めを兼ねるものとし、外部への油漏れのない構造で、内部点検用の透明板を取付け、分解が簡単な構造であること。

(2) 歯車

歯車は、使用状態に適合する良質な材料を使用し、歯面には精密な加工(JIS B 1701、JIS B 1704)を施して強度的にも十分で、騒音の少ない連続運転が行えるものとする。

(3) 軸及び軸受

軸は、負荷の変動などを十分に考慮する。軸受はころがり軸受又はすべり軸受を使用して円滑なる潤滑ができる構造とする。

(4) 潤滑方式

歯車及び軸受に対する潤滑油の供給は、強制循環給油方式とする。なお、油潤滑冷却装置が必要な場合は、長時間の連続運転に耐える信頼性の高いものを設置すること。

(5) 冷却方式

油冷却方式は、水冷式とする。

6. 使用材料

ケーシング	鋳鉄又は鋼板製
歯車	特殊鋼
ピニオン	特殊鋼
軸	炭素鋼

なお、歯車には、必要に応じて高周波焼入又は浸炭焼入の表面処理を行う。

7. 保護装置

(1) 機械的保護装置

ディーゼル機関と減速機の間に可とう継手を設ける。

(2) 電氣的保護装置

操作条件として故障、警報を出す。

8. 運転概要

起動条件を満足して起動指令を受けて、起動用潤滑油ポンプを起動した後、内燃機関を起動し、動力を伝達する。

9. 試験、検査

歯車減速装置は、機械設備工事一般仕様書に基づいて行う。

10. 据付け

据付けに当たっては、水準器等によって水平を調べ、正確に水平及び軸芯調整を行う。その他については機械設備工事一般仕様書に基づいて行うものとする。

11. 他工事との区分

(1) 土木、建築工事との区分

原則として機械コンクリート基礎、一部研り工及び孔部分の復旧工事は本工事に含む。

(2) 電気設備工事との区分

電気設備工事との区分は機器の据え付けまで本工事とし、電気設備との取合いは機器の端子渡しとし、それ以降の配線接続は電気設備工事とする。

12. 標準付属品(1台につき)

(1) 起動用潤滑油ポンプ	1台
(2) 内蔵潤滑油ポンプ	1台
(3) ウイングポンプ	1台
(4) 油冷却器	1式
(5) ストレーナ	1式
(6) 温度計	1式
(7) 油面計	1式
(8) 圧力計	1式
(9) 流水継電器	1個
(10) 潤滑油温度継電器	1個
(11) 圧力開閉器又は油流継電器	1個

§ 3 No.1 原動機

1. 使用目的

本機は、No.1 排水ポンプの駆動のために使用するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 型式	立形単動 4 サイクル直接噴射式	
(2) 定格出力	539kW	参考
(3) 定格回転数	900min ⁻¹	参考
(4) 使用燃料	A 重油	(LSA)
(5) 燃料消費率	0.25kg/kW・h 以下	100%負荷
(6) 台数	1 台	
(7) その他項目	<ul style="list-style-type: none"> ・防振台床 無 ・起動方式 圧縮空気起動 ・操作方法 自動 ・冷却方式 強制循環水冷式 ・消音装置 要 (60dB) ・動力伝達装置 フレキシブル継手 ・温水循環装置 	

3. 構造概要

本内燃機関は、主ポンプを駆動するディーゼル機関であり、起動が容易で取扱いが簡便であること、また主ポンプへの動力伝達が容易に行われ、主ポンプの運転が円滑にできなければならない。

4. 製作条件

ディーゼル機関の製作は、日本産業規格 (JIS)、電気調査会標準規格 (JEC)、日本電機工業会規格 (JEM)、発電用火力設備に関する技術基準、消防関係法規、公害防止法令、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編)、日本下水道事業団電気設備工事一般仕様書等の規格、記載内容に適合すること。

機器の定格、性能を規定する標準的な使用条件は、「揚排水ポンプ設備技術基準 (案) 同解説・設計指針 (案) 同解説」に準拠し、室内周囲温度 5～40℃、周囲湿度 40～85% RH、大気圧 920hPa 以上とする。

なお、過給機を使用するものは、排気タービン式で、無過給を0とした場合、過給率 180%以下を原則とする。また、ディーゼル機関は寒冷地においても起動が容易であるものとし、4 サイクルとする。過負荷出力は 110%1時間、速度変動率は整定 5%以下とする。

5. 各部構造

5-1. 本体

(1) シリンダ及びシリンダヘッド

シリンダは、良質の鋳鉄製であって、クランクケースと一体型とし、ライナを挿入する構造でライナは耐摩耗性の特殊鋳鉄とする。また、シリンダヘッドは、十分な強度を有する鋳鉄製又はマグネシウム・アルミニウム合金鋳物製とする。

(2) 潤滑油溜り及び主軸受

台板又はオイルパンの底部は、潤滑油溜りとする。主軸受はケルメットメタル(ケルメットメタルを鑄込んだ鋼を含む)もしくはアルミ合金とする。

(3) 接続棒及びクランク軸

接続棒及びクランク軸は、ともに十分な強度を有する鋼材を鍛造したもの又は特殊鑄鉄製とする。

(4) ピストン

ピストンには、ピストンリング及びオイルリングを備え、高温、高圧並びに側圧に対して十分な強度、耐久性及び耐摩耗性を有するものとする。

(5) 燃料噴射装置

燃料ポンプは、気筒ごと又は一体型とし、プランジャにより燃料噴射量を調整する機構とする。

(6) 調速装置

ガバナは機械式又は油圧式若しくは電子式とし、鋭敏確実なもので負荷の変動に応じ、自動的に燃料ポンプに作動して燃料の噴射量を調節する機構とする。

(7) 潤滑油装置

潤滑油ポンプによる強制潤滑方式とする。

(8) 冷却水装置

冷却水ポンプによる強制冷却方式とする。ディーゼル機関の冷却には、比較的多量の水を必要とするので、冷却水量、補給水、水質には特に注意が必要であり、冷却方式に水槽循環方式を採用する場合は、十分な容量をとること。

5-2. 防振装置

ディーゼル機関の共通台床は、耐震を十分考慮したものとする。

また、振動は、定格運転状態で防振装置取付け部の上部近傍位置における上下方向、軸方向及び軸と直角の水平方向について、それぞれ両振幅で 0.3mm 以下とする。

5-3. 起動装置

ディーゼル機関起動装置は、空気起動式とする。

空気起動式は分配弁方式又はエアモータ方式とし、ディーゼル機関 1 台ごとに空気槽 2 本を装備し、その内 1 本は予備とする。空気槽の規定圧力は 2.94MPa とし、連続操作で 3 回以上起動可能な容量とする。空気槽は鋼板又は鋼管製とし、圧力継電器(自動運転用及び警報表示用)を付属する。

5-4. 動力伝達装置

ディーゼル機関と減速機との連結は、フレキシブル継手で連結する。

5-5. 消音装置

ディーゼル機関設置場所の周囲条件により適切な消音器の選定を行う。

消音器の型式は、据置型とする。

なお、消音器は、現地据付完了後、断熱処理としてロックウールブランケット等を使用し、鉄線で固定してカラー亜鉛鉄板で巻上げるものとする。

6. 使用材料

- (1) 各機器は、良質で容易に入手できる材料で構成し、十分耐久性にとみ堅固な取付けができるものとする。また使用される部品、材料は関係規格に適合又はこれに準ずるものとする。
- (2) 金属材料の主なものは、JIS 規格、規格のないものは、市場優良品で一般に認められたものを使用すること。

7. 保護装置

- (1) 機械的保護装置

回転部分はカバー等を取り付け、容易に触れられない構造とする。

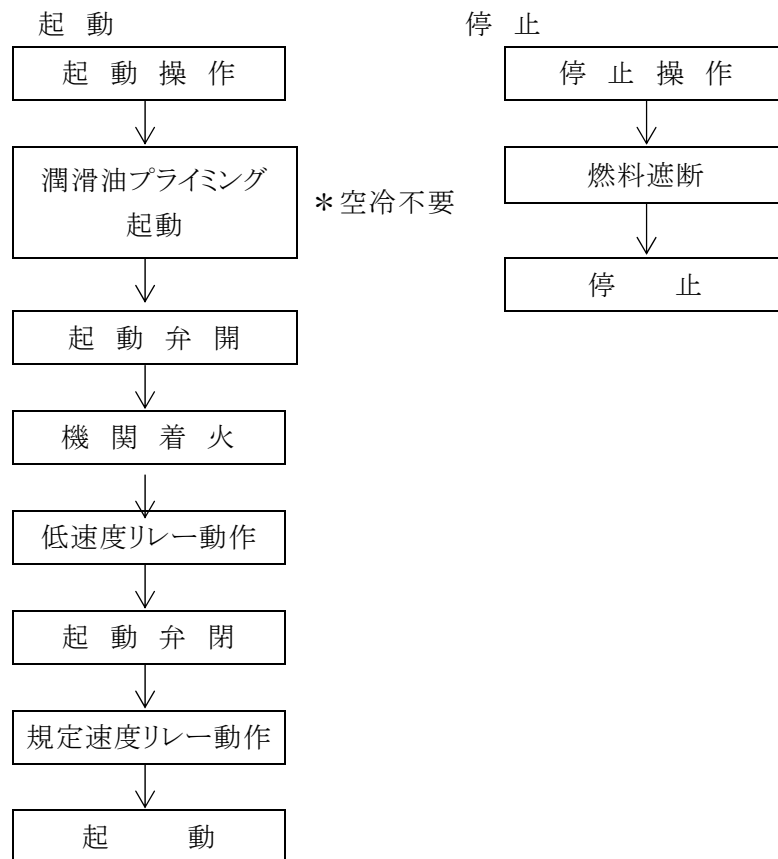
- (2) 電氣的保護装置

運転操作条件として考慮するものとし、その他別途電気設備により安全対策を行うものとする。

8. 運転概要

次を標準とする。

自動運転及び手動運転



9. 試験、検査

試験、検査は、機械設備工事一般仕様書、JIS 等に基づいて行う。

10. 据 付

機械設備工事一般仕様書による。

11. 他工事との区分

(1) 土木、建築工事との区分

原則として機械コンクリート基礎、一部はつり工及び孔部分の復旧工事は本工事に含む。

(2) 電気設備工事との区分

電気設備工事との区分は機器の据付けまで本工事とし、電気設備との取合いは機器の端子渡しとし、それ以降の配線接続は電気設備工事とする。

12. 標準付属品(1台につき)

(1) 冷却水ポンプ(機付)	1台分
(2) 潤滑油ポンプ(機付)	1台分
(3) 燃料噴射ポンプ	1台分
(4) 冷却水流水検視器(フローサイト)	1台分
(5) 冷却水流水継電器(フローリレー)	1台分
(6) 点検歩廊(必要により設ける)	1台分
(7) 調速機	1台分
(8) 機関基礎ボルト	1台分
(9) 燃料こし器	1 個
(10) 潤滑油こし器	1 個
(11) 潤滑油プライミング装置	1 個
(12) ターニング装置	1 個
(13) 潤滑油冷却器	1 個
(14) 潤滑油圧力調整弁	1 個
(15) 回 転 計	1 個
(16) 冷却水圧力計	1 個
(17) 潤滑油圧力計	1 個
(18) 潤滑油圧カススイッチ	1 個
(19) 給気圧力計(過給機付機関のみ)	1 個
(20) 冷却水温度計	1 式
(21) 潤滑油温度計	1 式
(22) 排気温度計	1 式
(23) 機関付属配管(可とう管含む)	1 式
(24) 機関付属継手(弾性継手)	1 式
(25) ノズルテスト	1 式
(26) 燃料用積算流量計	1 個
(27) 燃料用積算流量計ストレーナ	1 個
(28) 始動用空気槽(200L)	2本1組
(29) 消音器(横置二連式、60dB(A))	1 式

(30) 温水循環装置(配管及び弁類含む) 1 式

13. 特記事項

原動機内の冷却水を適正な温度に保ち、低温時に発生する原動機の始動失敗を防止するための温水循環装置(総合出力 5.25kW(参考))を付属とする。

§ 4 No.1 消音器

1. 使用目的

本機は、原動機の排気音を減衰させるものである。

2. 仕 様

項 目	仕 様	備 考
(1) 形 式	鋼板製円筒横置形(二連式)	
(2) 減 音 性 能	吐出出口より1mで60dB(A)以下	
(3) 設 置 方 式	横置形	
(4) 台 数	1台	

3. 使用材料

(1)本体 :SS400

4. 特記事項

・本機は、No.1 原動機付属品とする。

§ 5 No.1 空気槽

1. 使用目的

本機は、ディーゼル機関始動用空気を一時貯留するものである。

2. 仕 様

項 目	仕 様	備 考
(1) 型 式	鋼板製高圧二連式空気槽	
(2) 容 量	200L	
(3) 貯 留 圧 力	2.94MPa	
(4) 数 量	1組(2本/組)	

3. 特記事項

・本機は、No.1 原動機付属品とする。

§ 6 No.1 吐出弁

1. 使用目的

本機は、必要に応じて止水および吐出量を制御するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 型式	電動蝶形弁	
(2) 口径	φ 1,800mm	
(3) 使用圧力	0.06MPa	ポンプ吐出圧力
(4) 電動機出力	3.7kW	参考
(5) 周波数	60Hz	
(6) 電圧	200V	
(7) 開閉時間	3分以内	
(8) 電動機定格	15分以上	
(9) 台数	1台	
(10) その他項目	1)使用水 雨水 2)直結・二床式の区別 直結 3)フランジ規格 7.5K 4)据付脚 有 5)開度発信器 (R/I 変換器内蔵型)	

3. 構造概要

本弁は、ポンプの吐出側に設け、止水、流量調整等に使用するもので、摩耗、腐食に耐える構造とすること。

4. 製作条件

- (1) 流入水はスクリーンを通過し、砂等を除去した雨水とする。
- (2) 弁の操作は電動開閉式とする。

5. 各部の構造

- (1) 弁本体は JWVA B-138 に準ずること。
- (2) 電動機の回転は平歯車及びウォーム歯車により減速し、歯車は良質強靱なる材料を使用して製作し、効率よく確実に動力伝達を行うものとする。
- (3) 電動、手動切替装置を備え、手動操作の切替えは人力にて簡単にでき、手動操作中は電動操作ができないように電気回路を遮断する構造とする。また、電動時には手動ハンドルは回転しない構造とする。
- (4) 電動開閉機は、全開、全閉リミットスイッチ及びトルクスイッチを設け、スペースヒータを内蔵すること。
- (5) 開度指示は、ダイヤル式とし、開度発信器 (R/I 変換器内蔵型) を設ける。なお開度指示目盛は%表示とする。
- (6) 減速機はグリース潤滑密閉型とする。
- (7) 電動機の仕様は、屋外防じん防噴流形 (IP55)・空冷外被表面冷却自冷形、15 分定格以上、4P、ブレーキ無しとする。

6. 使用材料

- (1) 弁箱、弁体 FC200 以上
- (2) 弁棒 SUS403 又は SUS304
- (3) 弁座 クロロプレンゴム、硬質クロムメッキ、又はステンレス溶射

7. 運転・操作概要

(1) 電動開閉の場合

弁全開、全閉時はリミットスイッチによる停止を行う。ただし、異常トルク発生の場合はトルクスイッチにより電動機を停止するとともに、警報を発する。

(2) 手動開閉の場合

手動ハンドル付属の切替装置を手動にし、手動操作で弁開閉を行う。同時に電源はインターロックされる。

8. 試験、検査

本弁の検査は機械設備工事一般仕様書に基づいて行なうものとし、製作工場にて組立完了後、JWWA B-138 に準拠した試験を行う。

9. 塗 装

機械設備工事一般仕様書による。

10. 据 付

機械設備工事一般仕様書による。

11. 他工事との区分

(1) 土木、建築工事との区分

原則として機械コンクリート基礎、一部はつり工及び孔部分の復旧工事は本工事に含む。

(2) 電気設備工事との区分

開度発信器、リミットスイッチ、集合端子箱又は接点箱は二次側の配線とともに本工事に含む。

なお、それ以降(一次側)の配線接続及び受信器は電気設備工事とする。その他については機械設備工事一般仕様書による。

12. 標準付属品(1台につき)

- (1) 基礎ボルト・ナット 1 式

§ 7 No.1 逆流防止弁

1. 使用目的

本機は、ポンプ吐出端に設けポンプ停止時の逆流を防止するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 型式	SUS製フラップ弁	
(2) 口径	1,800mm×2,600mm	
(3) 台数	1台	
(4) その他項目	使用水 内水)雨水 外水)海水	

3. 構造概要

本弁は、ポンプが停止した場合に逆流防止を行うものとする。

4. 製作条件

ポンプ停止時の水の逆流を防止するため、強い衝撃に耐える堅ろうな構造とし、腐食・摩耗に耐えるよう肉厚を十分考慮すること。またポンプ運転時の損失を極力少なくするものとし、衝撃緩和のため弁を分割してもよい。設計水深は、10mとする。

5. 各部の構造

本弁は、スイング式構造とし、ケーシングおよび弁体は、ステンレス鋼板製で、腐食及び摩耗を考慮すること。

6. 使用材料

弁体	SUS304
ケーシング	SUS304
ピン	SUS304

7. 試験、検査

本弁の検査は外観寸法検査を行うものとする。

8. 据付

据付にあたっては、水準器等によって正確に芯出し調整を行う。その他については機械設備工事一般仕様書による。

§ 8 No.1～2 空気圧縮機

1. 使用目的

本機は、ディーゼル機関始動用空気を供給するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 機関名	ディーゼル機関	
(2) 空気圧縮機	6m ³ /hr×2.94MPa×3.7kW(参考)	
(3) 空気圧縮機用冷却装置	空冷式	
(4) 空気圧縮機台数	2台	

3. 構造概要

本機は、内燃機関の起動で、空気起動式(分配弁方式又はエアモータ方式)の空気槽の充気に使用する。

4. 製作条件

圧縮機の吐出圧力は 2.94MPa とし、内燃機関の空気槽 1 本を 1 時間以内に大気圧から規定圧力まで充気できる容量とする。

5. 各部の構造

圧縮機は空冷 2 段圧縮式とし、駆動は電動機直結又は V ベルトを介して行われる。ベルト駆動式の場合はプーリの前後面をエキスパンドメタル等の金属製カバーで覆う。

6. 使用材料

本体 SS400 又は同等品以上

7. 保護装置

安全弁

8. 運転操作概要

自動及び操作スイッチによる手動(吐出側残圧処理を施すことなく、容易に始動できること)

9. 試験・検査

圧縮機は、JIS 試験法(空気圧縮機 JIS B 8341)に基づき、性能試験(圧力、吐出空気量)を工場において行う。

10. 塗装

製作者標準塗装とする。

11. 据付

一般事項については機械設備工事一般仕様書による。

12. 他工事との区分

一般事項については機械設備工事一般仕様書による。

13. 標準付属品(1台につき)

- (1) V ベルト及び V プーリ、同カバー(ベルト駆動のみ) 1式
- (2) 圧力計 1式
- (3) 安全弁 1式
- (4) 基礎ボルト・ナット 1式

§ 9 No.1 燃料貯留槽

1. 使用目的

本機は、燃料油を安全に貯蔵するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 型式	鋼製プラスチック製二重殻タンク	地下埋設式
(2) 容量	40kL	
(3) 寸法	φ 2,700mm×長さ 7,900mm	概略寸法
(4) 数量	1 基	

3. 構造概要

本タンクは、ポンプ等駆動用燃料油を安全に貯蔵するためのものである。

4. 製作条件

本タンクは製作に当っては消防法等関係法令に基づき行うものとする。機材及び施工にあたっては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）」及び同標準図に準拠する。

5. 各部の構造

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）」及び同標準図に準拠する。

- (1) 本体は鋼製強化プラスチック製二重殻タンクとし、安定した燃料供給の行える容量をもつものとする。
- (2) 本タンクには注油口、給油口、空気抜、オーバーフロー、ドレン口、マンホール、水抜、フロート式油面計、その他一切の必要品を具備するものとする。
- (3) フロート式油面計は、現場指示、中央への 4～20mA 出力が可能なものとする。

6. 使用材料

本体(内殻)	鋼板
本体(外殻)	強化プラスチック
配管	SGP
ハンドホール蓋	FC 製

7. 保護装置

油面の上限、下限にてフロート式油面計により警報ができるものとする。

8. 試験・検査

水圧試験値は、70kPa 以上とし、保持時間は10分間とする。

一般事項については機械設備工事一般仕様書による。

9. 塗装

一般事項については機械設備工事一般仕様書による。

10. 据付

一般事項については機械設備工事一般仕様書による。

11. 他工事との区分

- (1) 土木、建築工事との区分

本タンクの保護コンクリート構築物は建築工事とする。

(2) 電気設備工事との区分

安全装置にかかわる2次側配線、ならびに端子箱を含め本工事とする。

12. 標準付属品(1基につき)

- | | |
|--------------------------------------|----|
| (1) マンホールプロテクタ | 1式 |
| (2) マンホール蓋 | 1式 |
| (3) 検知管 | 1式 |
| (4) フロート式油面計(現場指示、4~20mA発信) | 1式 |
| (5) 漏洩検知器(検出部及び変換器部) | 1式 |
| (6) その他タンク組込み付属品などの製作者標準付属品 | 1式 |
| (7) 屋外液面指示計(自立型ボックス含む) | 1式 |
| (8) 機側配管 | 1式 |
| (9) 配管用フレキシブルチューブ | 1式 |
| (10) 壁付形注油口ボックス(注油口、ローリーアース付き。接地極含む) | 1式 |
| (11) 注油ボックス内弁、配管 | 1式 |

§ 10 No.1 燃料小出槽

1. 使用目的

本機は、No.1 原動機へ供給する燃料を一時貯留するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 型式	鋼板製角形槽	
(2) 最大貯留量	800L	危険物の規制に関する政令の「容量」
(3) 有効容量	600L 以上	
(4) 台数	1 基	

3. 構造概要

本タンクは、No.1 燃料貯留槽より上部で、燃料小出槽の底部が機関燃料噴射ポンプより高い位置に設置するものとする。燃料小出槽には見やすい位置にレベル計(単位目盛板)を設けるものとする。なお、点検作業の安全のための踊場、手すり等を設けるものとする。

4. 製作条件

原動機への供給に対し、十分な容量とするとともに、消防法、条例等を遵守するものとする。

5. 各部の構造

- (1) 本体は、鋼板製溶接構造にして、角形とし、架台を設け必要な高さの位置に設置するものとする。
- (2) 本体には、点検蓋、注油口、給油口、リターン口、通気口、ドレン抜、油面計、フロートスイッチ、梯子等を具備するものとする。
- (3) 既設防油堤に設置する。
- (4) 油面計はフロート式とする。

6. 使用材料

本体 SS400(4.5 mm厚以上)
架台 SS400

7. 試験・検査

一般事項については機械設備工事一般仕様書によるほか、水張り漏洩試験を行う。

8. 据付け

一般事項については機械設備工事一般仕様書による。

9. 他工事との区分

- (1) 土木、建築工事との区分
機器コンクリート基礎、一部はつり、孔部復旧モルタル仕上げ、防油堤は本工事とする。
- (2) 電気設備工事との区分
制御盤までの2次側配線は本工事とする。

10. 標準付属品

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) フロート及びフロートスイッチ | 1個 |
| (2) フロート式油面計 | 1個 |
| (3) ドレン弁, 給油弁 | 各1個 |
| (4) 通気口 | 1式 |
| (5) 点検蓋 | 1個 |

§ 11 No.1～2 燃料移送ポンプ

1. 使用目的

本機は、No.1 燃料貯留槽からNo.1 燃料小出槽へ重油を移送するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 型式	横軸歯車ポンプ	
(2) 口径	φ 20mm	
(3) 吐出量	10L/min	
(4) 全揚程	0.3MPa	
(5) 電動機出力	0.4kW	参考
(6) 電源	200V×60Hz	
(7) 台数	2台	
(8) その他項目	ウイングポンプ 有	

3. 構造概要

本ポンプは、燃料貯留槽より、燃料小出槽へ重油を移送するためのものである。

4. 製作条件

油の漏洩がなく連続運転に耐える堅ろうな構造とする。

5. 各部の構造

- (1) 本ポンプは、歯車式とし、要部は衝撃、摩耗、腐食に対し、十分余裕のある肉厚を有するものとする。
- (2) 運転中は、振動騒音を生ずることなく、長時間の連続運転に対し十分耐え得る構造とすること。
- (3) 本ポンプは、吸込側にオイルストレーナを設け、また、吸込、吐出の両側には可とう管を具備するものとする。
- (4) 電動機の仕様は、屋内防爆全閉防まつ形・空冷外被表面冷却自力形・安全増防爆構造・温度等級 T₁、連続定格とする。
- (5) ウイングポンプは、本体、羽根、ハンドル等により構成され、ハンドル操作により生じる圧力差を利用して液体を圧送する手動ポンプであり、燃料移送ポンプの電源断時等に燃料貯留槽より燃料小出槽へ重油を移送するためのものである。

6. 使用材料

- | | |
|--------|------------------|
| (1) 本体 | FC 製 |
| (2) 歯車 | 炭素鋼 |
| (3) 軸 | 炭素鋼 |
| (4) 配管 | SGP |
| (5) 弁類 | FCMB、FCD 又は SC 製 |

7. 運転・操作概要

燃料小出槽液位計の上・下限の信号により自動起動、停止するものとする。

8. 試験・検査

工場において JIS 試験法 (JIS B 8312) により性能試験を行う。一般事項については機械設備工事一般仕様書による。

9. 塗 装

一般事項については、機械設備工事一般仕様書による。カップリング外周は防錆油を塗付する。

10. 据付け

一般事項については、機械設備工事一般仕様書による。

11. 他工事との区分

(1) 土木、建築工事との区分

機器コンクリート基礎、一部はつり、孔部復旧、管理設工事、モルタル仕上げは本工事とする。

(2) 電気設備工事との区分

原則として機器の据え付までを本工事とし、電気設備工事との取合いは機器の端子渡しとし、それ以降の配線接続は電気工事とする。

12. 標準付属品(1台につき)

(1) 電動機	1台
(2) カップリング又はVベルトカバー	1個
(3) 連成計	1個
(4) ウイングポンプ	1個

§ 12 No.3～4 燃料移送ポンプ

1. 使用目的

本機は、No.1 燃料貯留槽からNo.2 燃料小出槽へ重油を移送するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 型式	横軸歯車ポンプ	
(2) 口径	φ 32mm	
(3) 吐出量	70L/min	
(4) 全揚程	0.4MPa	
(5) 電動機出力	2.2kW	参考
(6) 電源	200V×60Hz	
(7) 台数	2台	
(8) その他項目	ウイングポンプ 有	

3. 構造概要

本ポンプは、燃料貯留槽より、燃料小出槽へ重油を移送するためのものである。

4. 製作条件

油の漏洩がなく連続運転に耐える堅ろうな構造とする。

5. 各部の構造

- (1) 本ポンプは、歯車式とし、要部は衝撃、摩耗、腐食に対し、十分余裕のある肉厚を有するものとする。
- (2) 運転中は、振動騒音を生ずることなく、長時間の連続運転に対し十分耐え得る構造とすること。
- (3) 本ポンプは、吸込側にオイルストレーナを設け、また、吸込、吐出の両側には可とう管を具備するものとする。
- (4) 電動機の仕様は、屋内防爆全閉防まつ形・空冷外被表面冷却自力形・安全増防爆構造・温度等級 T₁、連続定格とする。
- (5) ウイングポンプは、本体、羽根、ハンドル等により構成され、ハンドル操作により生じる圧力差を利用して液体を圧送する手動ポンプであり、燃料移送ポンプの電源断時等に燃料貯留槽より燃料小出槽へ重油を移送するためのものである。

6. 使用材料

- | | |
|--------|------------------|
| (1) 本体 | FC 製 |
| (2) 歯車 | 炭素鋼 |
| (3) 軸 | 炭素鋼 |
| (4) 配管 | SGP |
| (5) 弁類 | FCMB、FCD 又は SC 製 |

7. 運転・操作概要

燃料小出槽液位計の上・下限の信号により自動起動、停止するものとする。

8. 試験・検査

工場において JIS 試験法 (JIS B 8312) により性能試験を行う。一般事項については機械設備工事一般仕様書による。

9. 塗 装

一般事項については、機械設備工事一般仕様書による。カップリング外周は防錆油を塗付する。

10. 据付け

一般事項については、機械設備工事一般仕様書による。

11. 他工事との区分

(1) 土木、建築工事との区分

機器コンクリート基礎、一部はつり、孔部復旧、管理設工事、モルタル仕上げは本工事とする。

(2) 電気設備工事との区分

原則として機器の据え付までを本工事とし、電気設備工事との取合いは機器の端子渡しとし、それ以降の配線接続は電気工事とする。

12. 標準付属品(1台につき)

(1) 電動機	1台
(2) カップリング又はVベルトカバー	1個
(3) 連成計	1個
(4) ウイングポンプ	1個

§ 13 No.1～2 冷却水ポンプ

1. 使用目的

本機は、No.1 原動機、No.1 減速機及び高架水槽へ冷却水を移送するものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 型式	水中用水ポンプ	
(2) 吐出口径	φ 80mm	
(3) 吐出量	0.7m ³ /min	
(4) 揚程	27m	
(5) 電動機出力	5.5kW	参考
(6) 周波数	60Hz	
(7) 電圧	200V	
(8) ケーブル長	12m 以上	
(9) 冷却水槽底から上部	8.6m	
(10) 台数	2 台	
(11) その他項目	配管接続形式 据置式	

3. 構造概要

本ポンプは、上水等を揚水するためのもので、水中において連続運転に耐える堅ろうな構造とする。

ポンプは、振動や騒音が少なく、円滑に運転できるとともに、特に有害なキャビテーション現象が発生しないような構造とすること。

4. 製作条件

- (1) 取扱液は、上水等とする。
- (2) ポンプは締切起動が可能であること。

5. 各部の構造

5-1. 駆動装置

ポンプに使用する電動機は、乾式水中型誘導電動機とする。

5-2. 本体

(1) ケーシング

- 1) ケーシングは、内部圧力及び振動等に対する機械的強度並びに腐食・摩耗を考慮した良質の鋳鉄製品とする。
- 2) ケーシングは分解、組立が容易な構造とし、配管との接続はケーシング下部に支持台を設け、水槽床に設置する。

(2) 羽根車

- 1) 羽根車は、良質強靱なる製品とし、固形物の混入に対し、堅ろうであること。
- 2) 羽根車は、極力羽根数を少なくし、平衡を十分とるとともに、表面を滑らかに仕上げる。

(3) 主軸

主軸は電動機軸を延長したもので、伝達トルク及び振り振動に対しても十分な強度を有すること。

(4) 軸封装置

- 1) 軸封部には、メカニカルシールを用い、運転中、停止中を問わず、異物が電動機内に侵入しないよう中間に油を密封した二段構造とすること。
- 2) また、シール等の取替えが容易に行える構造とすること。

(5) 軸受

回転部質量及び水力スラストは、電動機に内装した軸受にて支持するものとし、長時間の連続運転に耐え、円滑なる自己潤滑ができる構造とすること。

(6) フランジ

- 1) 配管との接続フランジ寸法は、JIS B 2239 (10k) に準ずること。
- 2) 水槽内配管及び分解用フランジのボルト、ナットは SUS304 とし、冷却水配管との電飾防止処置を講ずること。

6. 使用材料

使用材料は次による。

部 品 名	材 質
ケーシング	FC200 以上
羽根車	FC200 以上
主 軸	13Cr ステンレス鋼

7. 安全装置

- (1) 異常温度上昇を検知するサーマルスイッチ等を内蔵すること。
- (2) 油、水が電動機内に浸入しないよう、浸水溜り室を設けること。

8. 試験、検査

ポンプの検査は、機械設備工事一般仕様書に基づいて行うものとし、製作工場にて組立完了後、JIS B 8301 に準拠した性能検査を行う。

9. 塗 装

機械設備工事一般仕様書による。

10. 据付け

- (1) 据付けに当たっては、水準器等によって、十分に芯出し調整を行うこと。
- (2) 水中ケーブルはポンプの吊上げ、分解時に必要な長さとし、端子箱は原則として床上 1.2m 以上に取り付けること。
- (3) 水槽内には水中ケーブル及び吊上げ用チェーンの支持金具 (SUS304) を取り付けること。

11. 他工事との区分

(1) 土木、建築工事との区分

原則として機械コンクリート基礎、一部はつり工及び孔部分の復旧工事は本工事に含む。

(2) 電気設備工事との区分

端子箱及び端子箱までの水中ケーブルの配線接続は本工事とし、それ以降の配線接続は電気設備工事とする。

12. 標準付属品(1台につき)

- | | |
|--------------------------|----|
| (1) 水中ケーブル(端子箱まで) | 1式 |
| (2) 連成計(隔膜式) | 1個 |
| (3) 自動空気抜弁(必要な場合) | 1個 |
| (4) 動力ケーブル用端子箱(取付架台含む) | 1個 |
| (5) 台板(吐出し曲管、基礎ボルト、ナット付) | 1式 |

§ 14 高架水槽

1. 使用目的

本機は、停電時に No.1 原動機及び No.1 減速機へ供給する冷却水を一時貯留するものである。

2. 仕 様

項 目	仕 様	備考
(1) 型 式	組立式樹脂製立形タンク	
(2) 寸 法	巾 1,000mm×長さ 1,000mm×高さ	概略寸法
(3) 最大貯留容量	0.85m ³ (参考)	有効容量 0.7m ³ 以上
(4) 数 量	1 槽	
(5) その他項目	1)パネル 単板パネル	

3. 構造概要

本機は、停電時に供給する冷却水を安定供給するために、一時貯留するもので組立式の樹脂製立形タンクとし、タンク本体、マンホール、各種接続口及び取付座、梯子等よりなる。

4. 各部の構造

(1) 本体

- 1) パネルタンクは、不飽和ポリエステル樹脂とガラス繊維とを用いて作られたガラス繊維強化ポリエステル(以下、FRP)で成形したパネル(以下、単板パネル)をボルト締結により組立てたタンクとする。単板パネルからなるタンクを単板型パネルタンクとする。
- 2) 本タンク製造に用いる不飽和ポリエステル樹脂は、JIS K 6919(強化プラスチック用液状不飽和ポリエステル樹脂)に規定する UP-G 等耐水性、耐候性の優れたものとする。ガラス繊維は、JIS R 3411～3417 に規定する無アルカリ性のもの及びこれらを原料として加工したものとする。合成樹脂発泡体は、硬質で独立気泡とする。充てん材料及び着色材料を使用する場合には、その品質及び使用量が製品の品質及び水質に害を与えるものであってはならない。
- 3) 本タンクには、接続配管等の接続口及び電極等の取付座を設ける。なお、接続口、取付座はフランジ形とする。ただし、合成樹脂、青銅等腐食及び強度を考慮した材料による通気管、電極取付座はフランジ形としなくてよい。
- 4) パネルの接合に使用するシール材料は、合成樹脂製又は品質が JIS K 6353(水道用ゴム)に適合する合成ゴム製とする。
- 5) 補強は、外部補強方式、内部補強方式又はこれらの組合せ方式とする。内部補強は側板と底板を筋かい状に金属で締結する構造、側板と側板を並行又は筋かい状に金属で締結する構造、又はこれらを組み合わせた構造とし、その底板接合部は架台と直結する構造とする。

(2) 組立用ボルト、ナット

- 1) タンクの外部に使用するボルト及びナットは、屋内で使用する場合は鋼製ボルトを使用してもよい。なお、ステンレス鋼製ボルトの材質は SUS304、鋼製ボルト材質は棒鋼

(SS400)に JIS H 8641(溶融亜鉛めっき)に規定された2種 35 以上のめっきを施したものとす。

2) タンク内部に使用するボルトは、ステンレス製又は耐腐食性を考慮した材質とする。

(3) ボルト、ナット以外の金属材料

1) タンク外部に使用する材料は、鋼製で JIS H 8641(溶融亜鉛めっき)に規定された2種 35 以上のめっきを施したものとす、塗装は不要とする。

2) タンク内部に使用する材料は、ステンレス製又は耐腐食性を考慮した材質とする。

5. 使用材料

(1) 本体 FRP

(2) 組立用ボルト・ナット SU304 又は、SUS304 同等品

(3) 据付架台 SUS304 又は、SS400+溶融亜鉛めっき

6. 据付け

機械設備工事一般仕様書による。

7. 他工事との区分

機械設備工事一般仕様書による。

8. 標準付属品

- | | |
|--|----|
| (1) 鋼製架台(溶融亜鉛めっき仕上) | 1式 |
| (2) マンホール(施錠式 φ600) | 1式 |
| (3) はしご(タンク内は合成樹脂製、タンク外は鋼製(溶融亜鉛めっき仕上)、ステンレス鋼製又は FRP 製) | 1式 |
| (4)電極棒用防波筒 | 1式 |
| (5) 基礎ボルト・ナット(SUS304 又は同等品) | 1式 |

§ 15 耐震強度

1. 設計震度 K_H

$$K_H = Z \cdot K_S$$

Z : 地域別補正係数 = 1.0 (JS 工事必携より)

K_S : 設計用標準震度

対象機器および設計震度

対象機器名	Z	K_S	K_H
No.1 排水ポンプ	1.0	1.0	1.0
No.1 原動機	1.0	1.0	1.0
No.1 減速機	1.0	1.0	1.0
No.1 吐出弁	1.0	1.0	1.0
No.1 消音器(1次+2次)	1.0	1.0	1.0
No.1 空気槽	1.0	1.0	1.0
No.1~2 空気圧縮機	1.0	1.0	1.0
No.1~2 冷却水ポンプ	1.0	1.0	1.0
高架水槽	1.0	1.5	1.5
No.1~4 燃料移送ポンプ	1.0	1.0	1.0
No.1 燃料小出槽	1.0	1.5	1.5

2. 基礎ボルトの許容応力度

基礎ボルトの許容応力度

単位: kN/cm²

ボルト材質	長期許容応力度		短期許容応力度	
	引張(f_t)	せん断(f_s)	引張(f_t)	せん断(f_s)
SS400	11.7	6.78	17.6	10.1
SUS304	10.5	6.08	15.8	9.12

第3章 複合工

§1 鋼製加工品類

1. 鋼製加工品仕様および施工範囲

番号	名称	設置場所	主寸法	材質	数量	備考
1	チェッカー蓋(1)	B1F 配管室	設計図 による	SS400+屋内塗装	1	
2	チェッカー蓋(2)	B1F 配管室	設計図 による	SS400+屋内塗装	1	
3	消音器設置架 台	B1F 配管室	設計図 による	SS400+屋内塗装	1	
4	ホンプ点検歩 廊、階段	B1F 配管室	設計図 による	SS400+屋内塗装	1	
5	燃料小出槽 点検歩廊	1F ホンプ室	設計図 による	SS400+屋内塗装	1	
6	高架水槽 点検歩廊	1F ホンプ室	設計図 による	SS400+屋内塗装	1	
7	グレーチング歩廊	1F 重油タンク室	設計図 による	SS400+Znメッキ	1	
8	仕舞板(1)	1F ホンプ室	設計図 による	SUS304	1	
9	仕舞板(2)	B1F 配管室	設計図 による	SUS304	1	
10	配管カバー	屋外	設計図 による	SS400+Znメッキ	1	
11	配管サポート	各所	—	屋内:屋外 SS400+塗装 槽内:SUS	1式	

2. 機械設備工事一般仕様書(日本下水道事業団)を準拠すること。

3. 特記事項

1)詳細は、設計図面による。

§2 基礎工

1. 基礎工仕様および施工範囲

番号	名称	設置場所	主寸法	数量	備考 (防食塗装, 防水等)
1	No.1 排水ポンプ基礎	B1F 配管室	設計図 による	1	
2	No.1 減速機基礎	1F ポンプ室	設計図 による	1	
3	No.1～2 燃料移送ポンプ基礎	1F ポンプ室	設計図 による	2	
4	No.3～4 燃料移送ポンプ基礎	1F 重油タンク室	設計図 による	1	
5	燃料移送ポンプ基礎	1F 重油タンク室	設計図 による	1	耐油塗装
6	No.1 燃料小出槽基礎	1F ポンプ室	設計図 による	1	
7	No.1～2 空気圧縮機基礎	1F ポンプ室	設計図 による	1	
8	No.1 空気槽基礎	1F ポンプ室	設計図 による	1	
9	高架水槽基礎	1F ポンプ室	設計図 による	1	
10	No.1 排水管基礎	B1F 配管ピット	設計図 による	1	
11	配管貫通部	各所	設計図 による	1 式	防水
12	排気管貫通部	排気管 貫通部	設計図 による	1 式	ロックウール保温材充填
13	鋼製架台脚部基礎	B1F 配管ピット	設計図 による	1 式	
14	ポンプ点検階段基礎	B1F 配管ピット	設計図 による	1 式	
15	配管サポート基礎	各所	—	1 式	

2. 機械設備工事一般仕様書(日本下水道事業団)を準拠すること。

3. 特記事項

1)詳細は、設計図面による。

§3 土工

1. 土工仕様および施工範囲

番号	名称	設置場所	主寸法	数量	備考
1	側溝土工	屋外	U型側溝 300A	29.5m	燃料受入管(65A) 燃料通気管(32A) 燃料引抜管(25A) 燃料戻り管(32A)
2	鋼製グレーチング	屋外	T-25 細目	29.5m	
3	側溝土工	屋外	U型側溝 400A	11.0m	燃料引抜管(25A,50A) 燃料戻り管(32A,65A)
4	鋼製グレーチング	屋外	T-25 細目	11.0m	
5	排水管	屋外	SGP50A	14.0m	燃料配管ピット用 排水管

2. 機械設備工事一般仕様書(日本下水道事業団)を準拠すること。

3. 特記事項

1)詳細は、設計図面による。

2)建築工事(No.1 燃料貯留槽の新設)同一敷地での施工となるため、掘削・埋戻し等は重複することのないよう工程調整すること。

第4章 据付工

本設備が十分に機能を発揮し、雨水排水が支障無く行えるよう図面及び仕様書に従って設備機器一切の据付・配管布設等を行うものとする。

1. 概要

- (1) 機器一切の据付にあたっては、工事工程表に基づいて行うのは勿論のこと発注者の指示に従わなければならない。
- (2) 据付に当たっては、必ずそれぞれの担当技術者による指導を行わせること。
- (3) 機器基礎台コンクリート、埋込ボルト、はつり工及び孔部分の復旧等一切は受注者が施工するものとし、基礎ボルト本締めはコンクリート充填後十分な経過時間をとり発注者の立会のもとに精密芯出しを行うものとする。
- (4) 現場据付の着手に先立ち官公署等の諸手続を完了し、承諾および許可を受けた後、着工するものとする。
- (5) 現場据付工事には、熟練する現場責任者を常駐させ、発注者の指導監督のもとに作業を行い週報を提出するものとする。
- (6) 工事に際して構造物等に損害を与えないようにするのは勿論、万一損傷した場合には発注者の指示に従い、受注者の負担により復旧すること。
- (7) 工事の都合上、既設物の一部の取り壊しの必要が生じた場合は予め発注者の承諾を得て行うものとし、工事完了後は受注者の負担で発注者の指示により速やかに原形に復旧するものとする。
- (8) 管の接続は、原則としてフランジ継手とし必要に応じてユニオン・可とう継手などを用いるもので、接続部にはゴムパッキンまたはコーキング材により水密を保つものとする。
- (9) 各小配管は、配管完了後十分なフラッシング・漏水・耐圧検査を行うものとする。
- (10) 各小配管は主要機器の性能を十分に発揮し得るよう施工するものとし、機器の取扱・分解・組立・点検に便利なよう、継手・弁類を適宜取り付けるものとする。
- (11) 配管貫通部などの漏水の恐れのあるコンクリート充填部には、特に入念に施工するとともに防水モルタル仕上げを行うものとする。

2. 各機器の据付

各機器は、所定の位置のコンクリート基礎上に、アンカーボルトで強固に据付芯出し調整を十分行った後据付けるものとする。

3. 芯出し調整

据付箇所の建築基準線より距離、高低を実測しアンカーボルト孔の位置を照合、確認しながら芯出し及び調整を行う。

第5章 塗装工

1. 機器、材料

各種機器材料の塗装仕様は下記による。

表 1 素地調整基準

下地処理の程度		下地処理の状態	使用用具
1種ケレン	原板ブラスト	加工前に表面処理 (ISO Sa2 1/2) し、その後プライマ処理を行う。	ショットブラスト グリットブラスト カットワイヤブラスト サンドブラスト
	製品ブラスト	ミルスケール、錆等を完全に除去し清浄な金属面(ISO Sa2 1/2)とする。	ショットブラスト グリットブラスト カットワイヤブラスト サンドブラスト
2種ケレン		完全に付着したミルスケール等以外の旧塗装錆等を除去する。(ISO St3)	ディスクサンダ スクレーパ ハンマ
3種ケレン		浮き、錆、はく離等を除去する。	サンドペーパー
4種ケレン		錆、溶接のスパッタを除去する。	ワイヤブラシ

表 2 塗装基準 (I)

適用区分		塗装系	素地調整	備考
水上部	屋内	フタル酸樹脂系 (鉛・クロムフリー)	1種ケレン	ただし鋳鉄部分は2種ケレンとする。
	屋外	ポリウレタン樹脂系	〃	
乾湿交番部 水上部腐食性ガス雰囲気内		ポリウレタン樹脂系	〃	
耐候・耐水・耐薬品		ポリウレタン樹脂系	〃	
水中部 耐薬品部		エポキシ樹脂系	〃	

- (注) 1. 1種ケレンを指定した機器は、1種ケレンを施した鋼材を用いてもよい。ただし、この場合は、鋼材のケレン証明書を添付する。
2. 鋼材の主要構成部材は、1種ケレンを施す。ただし、歩廊、手摺、配管架台等付帯部分は2種ケレンとする。
3. 軽金属は各適用区分による。素地調整は3種ケレンとする。

表3 塗装基準(Ⅱ-1)

塗装系	施工場所	工程	塗料名	標準膜厚 (μm)	塗装間隔 夏(30°C) 冬(5°C)
エポキシ樹脂系	耐薬品部・水中部	第1層(下塗)	ジンクリッチペイント (有機)	75	1D~6M
		第2層(下塗)	エポキシ樹脂塗料 (水中部用)	100	
		第3層(中塗)	エポキシ樹脂塗料 (水中部用)	100	1D~7D、2D~7D
		第4層(上塗)	エポキシ樹脂塗料 (水中部用)	100	1D~7D、2D~7D
ポリウレタン樹脂系	耐候耐水薬品乾湿 交番部(屋外)	第1層(下塗)	ジンクリッチペイント (有機)	75	1D~6M
		第2層(下塗)	エポキシ樹脂塗料 (大気部用)	60	
		第3層(中塗)	ポリウレタン樹脂塗料用 中塗り	30	1D~7D、2D~7D
		第4層(上塗)	ポリウレタン樹脂塗料 上塗り	25	1D~7D、2D~7D
フタル酸樹脂系	水上部(屋内)	第1層(下塗)	鉛・クロムフリー 錆止めペイント	35	1D~7D、2D~7D
		第2層(下塗)	鉛・クロムフリー 錆止めペイント	35	1D~6M、2D~6M
		第3層(中塗)	フタル酸樹脂塗料中塗り	30	1D~7D、2D~7D
		第4層(上塗)	フタル酸樹脂塗料上塗り	25	

H:時間、D:日、M:月

(注) 1. その他、機械設備工事一般仕様書(日本下水道事業団)による。

表4 塗装基準(Ⅱ-2)亜鉛めっき鋼板(管)の仕上げ塗装

ポリウレタン樹脂系	耐候耐水薬品乾湿交 番部(屋外)	素地調整	ISO St 2		
		第1層(下塗)	亜鉛めっき面用 エポキシ樹脂塗料	50	1D~7D、2D~7D
		第2層(中塗)	ポリウレタン樹脂塗料用中塗り	30	1D~7D、2D~7D
		第3層(上塗)	ポリウレタン樹脂塗料用上塗り	25	

H:時間、D:日、M:月

第6章 配管工

1. 配管仕様および施工範囲

番号	配管名	材 質	口 径 (A、φ)	施 工 範 囲 (~)	備 考 (配管被覆)
1	No.1 排水管	DCIP	φ 1,800～ 2,600×1,800	No.1 排水ポンプ～ No.1 逆流防止弁	
2	冷却水管(1)	SUS SGPW	100～80	No.1～2 冷却水ポンプ° ～No.1 原動機、高架水槽	
3	冷却水管(2)	SGPW	100	高架水槽～ No.1 原動機	
4	冷却水戻り管	SUS SGPW	100	No.1 原動機～ 冷却水槽、ポンプ井	
5	排気管	STPY400 SGP	400～300	No.1 原動機～煙道	屋内被覆
6	燃料受入管	SGP	65	受入ボックス～ No.1 燃料貯留槽	
7	燃料引抜管	SGP	25～20	No.1 燃料貯留槽～No.1～2 燃 料移送ポンプ°	
8	燃料移送管	SGP	25～20	No.1～2 燃料移送ポンプ°～No.1 燃料小出槽～No.1 原動機	
9	燃料戻り管	SGP	32～25	No.1 燃料小出槽、 No.1 原動機 ～No.1 燃料貯留槽	
10	通気管(1)	SGP	32	No.1 燃料貯留槽～屋外	
11	通気管(2)	SGP	25	No.1 燃料小出槽～屋外	
12	空気管	SUS	25	No.1～2 空気圧縮機 ～No.1 空気槽～No.1 原動機	
13	燃料引抜管	SGP	50～32	No.1 燃料貯留槽～ No.3～4 燃料移送ポンプ°	
14	燃料移送管	SGP	40～32	No.3～4 燃料移送ポンプ°～No.2 燃料小出槽	
15	燃料戻り管	SGP	65	No.2 燃料小出槽～ No.1 燃料貯留槽	
16	通気管	SGP	32	No.2 燃料小出槽～屋外	
17	上水管	SGP-VA	50	既設取合～既設取合	屋内被覆

2. 設計ならびに施工については、以下の諸規定に準拠するものとする

- 1) 機械設備工事一般仕様書(日本下水道事業団)
- 2) 国土交通省大臣官房官庁営繕部公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)
- 3) 福山市上下水道局給水装置標準設計施工事務取扱要綱

3. 特記事項

- 1) 詳細は、図面による。
- 2) 機能上必要な弁類等一式を含む。

4. 防錆及び塩害対策

各種配管材料の防錆の仕様は下記による。

(1) ダクタイル鋳鉄管

ダクタイル鋳鉄管の塗装は JSWAS G-1-2016 に規定する塗装を施すが、詳細は以下による。

1) 内面塗装(表 1、2)

ア 直管(フランジ形ダクタイル長管を含まない)並びに切管(直管を切断したもの)の内面は、JSWAS G-1(下水道用ダクタイル鋳鉄管)規格の付属書 2 の 3 に規定するエポキシ樹脂粉体塗装又は付属書 2 の 4 に規定する液状エポキシ樹脂塗装を施す。

イ フランジ形ダクタイル長管及び異形管の内面は、特に規定のない場合、JSWAS G-1 規格の付属書 2 に規定するエポキシ樹脂系塗装を施す。

2) 外面塗装(表 3、4、5)

ア 管の外面の塗装仕様は〔露出用(屋内)〕、〔露出用(屋外)〕、〔水中配管及び高湿度露出用〕とする。

イ 塗装場所については、原則工場塗装とする。搬入据付により塗装面を損傷した場合及び現地接合部は、適正な下地処理を加え、正規な塗装状態と同程度に補修塗装を行うこと。

表 1 内面エポキシ樹脂粉体塗装

工 程	塗 料 名	標準膜厚 (μ m)	塗装場所
下地処理	第 2 種ケレン以上		
全層 1 回塗	エポキシ樹脂粉体塗料	300	工場塗装

注 1 塗料は、JSWAS G-1 規格の付属書 2 の 3(内面エポキシ樹脂粉体塗装)に規定するエポキシ樹脂粉体塗料を用いる。

2 塗装間隔は、塗料製造業者の指定する間隔とする。

3 標準膜厚は、最小膜厚とする。

表 2 内面液状エポキシ樹脂塗装

工 程	塗 料 名	標準膜厚 (μm)	塗装場所
下地処理	第 2 種ケレン以上		
全層 1 回塗	液状エポキシ樹脂塗料	300	工場塗装

注 1 塗料は、JSWAS G-1 規格の附属書 2 の 4(内面液状エポキシ樹脂塗装)に規定する液状エポキシ樹脂塗料を用いる。

2 塗装間隔は、塗料製造業者の指定する間隔とする。

3 標準膜厚は、最小膜厚とする。

表 3 外面〔露出用(屋内)〕配管塗装仕様

工 程	塗 料 名	標準膜厚 (μm)	塗装場所
下地処理	第 2 種ケレン以上		
第 1 層-下塗	亜鉛溶射又はジンクリッチペイント	(20)	工場塗装
第 2 層-下塗	現地塗装のアクリル NAD 系艶有塗料	80	工場塗装
第 3 層-中塗	アクリル NAD 系艶有塗料	15	現地塗装
第 4 層-上塗	アクリル NAD 系艶有塗料	15	現地塗装

注 1 塗料は、JSWAS G-1 規格の附属書 4 の 2 外面塗装 3(外面特殊塗装)BB に規定する亜鉛溶射又はジンクリッチペイント、現地塗料のアクリル NAD 系艶有塗料に適した合成樹脂塗料及びアクリル NAD 系艶有塗料を用いる。

2 第 1 層の塗布量は、(亜鉛溶射の場合:130g/m² 以上、ジンクリッチペイントの場合:150g/m² 以上)を基準とし、塗膜厚さ 20 μm (換算値)とする。

3 塗装間隔は、塗料製造業者の指定する間隔とする。

4 膜厚は、計測した平均値が標準膜厚以上であること。また、計測した最低値は標準膜厚の 75%以上であること。なお、検査方法は JSWAS G-1 規格の附属書 4 の 5.4.3 による。

表 4 外面〔露出用(屋外)〕配管塗装仕様

工 程	塗 料 名	標準膜厚 (μm)	塗装場所
下地処理	第 2 種ケレン以上		
第 1 層-下塗	亜鉛溶射又はジنگリッチペイント	(20)	工場塗装
第 2 層-下塗	エポキシ樹脂塗料	50	工場塗装
第 3 層-下塗	エポキシ M.I.O 塗料又は エポキシ樹脂塗料	50	工場塗装
第 4 層-中塗	ポリウレタン樹脂塗料	20	現地塗装
第 5 層-上塗	ポリウレタン樹脂塗料	20	現地塗装

注 1 塗料は、JSWAS G-1 規格の附属書 4 の 2 外面塗装 3 (外面特殊塗装) CC に規定する亜鉛溶射又はジنگリッチペイント、エポキシ樹脂塗料、エポキシ M.I.O 塗料及びポリウレタン樹脂塗料を用いる。

2 第 1 層の塗布量は、(亜鉛溶射の場合: $130\text{g}/\text{m}^2$ 以上、ジنگリッチペイントの場合: $150\text{g}/\text{m}^2$ 以上)を基準とし、塗膜厚さ $20\mu\text{m}$ (換算値)とする。

3 塗装間隔は、塗料製造業者の指定する間隔とする。

4 膜厚は、計測した平均値が標準膜厚以上であること。また、計測した最低値は標準膜厚の 75%以上あること。尚、検査方法は、JSWAS G-1 規格の附属書 4 の 5.4.3 による。

表 5 外面〔水中配管及び高湿度露出〕配管塗装仕様

工 程	塗 料 名	標準膜厚 (μm)	塗装場所
下地処理	第 2 種ケレン以上		
第 1 層-下塗	亜鉛溶射又はジングリッチペイント	(20)	工場塗装
第 2 層-下塗	エポキシ樹脂塗料	50	工場塗装
第 3 層-下塗	エポキシ M.I.O 塗料又は エポキシ樹脂塗料	50	工場塗装
第 4 層-中塗	エポキシ樹脂塗料	20	現地塗装
第 5 層-上塗	エポキシ樹脂塗料	20	現地塗装

注 1 塗料は、JSWAS G-1 規格の附属書 4 の 2 外面塗装 3 (外面特殊塗装) DD に規定する亜鉛溶射又はジングリッチペイント、エポキシ樹脂塗料、エポキシ M.I.O 塗料を用いる。

2 第 1 層の塗布量は、(亜鉛溶射の場合: $130\text{g}/\text{m}^2$ 以上、ジングリッチペイントの場合: $150\text{g}/\text{m}^2$ 以上)を基準とし、塗膜厚さ $20\mu\text{m}$ (換算値)とする。

3 塗装間隔は、塗料製造業者の指定する間隔とする。

4 膜厚は、計測した平均値が標準膜厚以上であること。また、計測した最低値は標準膜厚の 75% 以上あること。尚、検査方法は、JSWAS G-1 規格の附属書 4 の 5.4.3 による。

(2)鋼管

1) 下水用 JIS G 3443-1、3443-2、3443-3、3443-4 の規格による。

2) その他

ア) 亜鉛メッキ鋼管に溶接を施したときは、その部分に高濃度亜鉛塗装を施す。

イ) 塩ビライニング鋼管については、JWWAK-116 及び WSP-011 による。ネジ接合配管の接続は、「公共建築工事標準仕様書 機械設備工事編」による。

第7章 撤去工

§1 共通事項

1. 一般事項

- 1) 詳細は、設計図面による。
- 2) 撤去工事において不要となる基礎については、床面から30mm程度までを研り、床面をモルタル仕上げの上、復旧のこと。
- 3) 撤去品については、きれいに整理し、SUS, SS品等に分類すること。
- 4) 撤去工事等において発生した産業廃棄物については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規定に基づき、受注者の責任の下に適正に処理すること。
- 5) 撤去品にはアスベストが含有されているおそれがあるため、関係法令を遵守の上、調査等を実施し、適切に除去・処分を行うこと。なお、本事項については、発注者の承諾をもって変更対象とする。

§2 撤去機器

1. 撤去機器リスト

番号	名称	数量 (台)	備考
1	No.1排水ポンプ	1	
2	No.1吐出弁	1	
3	No.1逆流防止弁	1	
4	No.1減速機	1	
5	No.1原動機	1	
6	No.1消音器	1	
7	No.1燃料貯留槽	1	地下式 15kL 内部洗浄含
8	No.1～2燃料移送ポンプ	2	
9	燃料小出槽	1	
10	No.1～2空気圧縮機	2	
11	No.1空気槽	1	
12	No.1～2冷却水ポンプ	2	
13	No.1～2高架揚水ポンプ	2	
14	高架水槽	1	屋上

§3 撤去鋼製品類

1. 鋼製加工品仕様および施工範囲

番号	名称	設置場所	主寸法	材質	数量	備考
1	冷却水ポンプ 据付架台	B1F 配管室	設計図 による	SS400	1	
2	高架揚水ポンプ 据付架台	B1F 配管室	設計図 による	SS400	1	
3	消音器設置架台	B1F 配管室	設計図 による	SS400	1	
4	ポンプ点検歩廊、 階段	B1F 配管室	設計図 による	SS400	1	
5	燃料小出槽 点検歩廊	1F ポンプ室	設計図 による	SS400	1	
6	チェッカー蓋	1F ポンプ室	設計図 による	SS400	1	
7	グレーチング歩廊	1F 重油タンク室	設計図 による	SS400	1	
8	受入箱	屋外	設計図 による	SUS304	1	
9	配管サポート	各所	—	屋内:屋外 SS400+塗装 槽内:SUS	1式	

§ 4 撤去基礎工

1. 基礎工仕様および施工範囲

番号	名称	設置場所	主寸法	数量	備考 (防食塗装, 防水等)
1	No.1 排水ポンプ基礎	B1F 配管室	設計図 による	1	
2	No.1 減速機基礎	1F ポンプ室	設計図 による	1	
3	No.1～2 燃料移送ポン プ基礎	1F ポンプ室	設計図 による	2	
4	No.1～2 空気圧縮機 基礎	1F ポンプ室	設計図 による	1	
5	No.1 空気槽基礎	1F ポンプ室	設計図 による	1	
6	高架水槽基礎	1F ポンプ室	設計図 による	1	
7	No.1 排水管基礎	B1F 配管ピット	設計図 による	1	
8	配管貫通部	各所	設計図 による	1 式	
9	鋼製架台脚部基礎	B1F 配管ピット	設計図 による	1 式	
10	階段基礎	B1F 配管ピット	設計図 による	1 式	
11	配管サポート基礎	各所	—	1 式	

§5 撤去配管工

1. 配管仕様および施工範囲

番号	配管名	材質	口径 (A、φ)	施工範囲 (～)	備考 (配管被覆等)
1	No.1 排水管	DCIP	φ 1,800～ 2,600×1,800	No.1 排水ポンプ～ No.1 逆流防止弁	
2	冷却水管(1)	SGPW	200～50	No.1～2 冷却水ポンプ° ～No.1 原動機、ポンプ井	
3	冷却水管(2)	SGPW	100	高架水槽～ No.1 原動機	
4	冷却水揚水管	SGPW	65	No.1～2 高架水槽 揚水ポンプ°～高架水槽	
5	冷却水戻り管	SGPW	100～50	No.1 原動機、No.1 排水ポン プ°～冷却水槽	
6	排気管	SGP	350	No.1 原動機～煙道	被覆撤去含 排気逆止弁撤去含
7	燃料引抜管	SGP	32	No.1 燃料貯留槽～No.1～2 燃料移送ポンプ°	管内洗浄含
8	燃料移送管	SGP	25	No.1～2 燃料移送ポンプ°～ 燃料小出槽	管内洗浄含
9	燃料戻り管	SGP	40	燃料小出槽 ～No.1 燃料貯留槽	管内洗浄含
10	燃料供給管	SGP	32～25	燃料小出槽～ No.1 原動機	管内洗浄含
11	通気管(1)	SGP	40	No.1 燃料貯留槽～屋外	管内洗浄含
12	通気管(2)	SGP	32	燃料小出槽～屋外	管内洗浄含
13	空气管	Cut	25	No.1～2 空気圧縮機～No.1 空気槽～No.1 原動機	
14	ドレン管、排水管	SGPW	80～65	高架水槽～側溝	
15	燃料受入管	SGP	65	受入ボックス～ No.2 燃料貯留槽	

第8章 工事計画

8.1 工事概要

本工事中は、新涯ポンプ場としての機能はNo.2,3 排水ポンプで行うものとする。

8.2 工事方法

機器名	工事中の対応	備考
No.1 排水ポンプ	屋内より仮設クレーンで吊り上げる。	仮設クレーン、クレーン 設置架構設置
No.1 吐出弁		
No.1 減速機		
No.1 原動機		
No.1 消音器		
No.1～2 冷却水ポンプ		
No.1 空気槽	コロ引きで所定の位置に据え付ける。	仮設不要
No.1～2 空気圧縮機		
高架水槽		
No.1～2 燃料移送ポンプ		
No.1 燃料小出槽		
No.3～4 燃料移送ポンプ	既設重油タンクを維持とし、先に本ポンプの据付工事をおこなう。	仮設不要
No.2 燃料小出槽	既設重油タンクを部分改造し燃料小出槽とする。	仮設不要
No.1 燃料貯留槽	既設重油タンクを撤去後、据え付ける。	仮設不要
No.1 逆流防止弁	角落し設置及び仮締切排水工により止水可能。	仮設不要 角落し(支給品)

8.3 仮設計画(任意仮設)

本工事に伴う以下の内容の仮設工は、参考図に見込んでいる。なお、参考図は任意仮設の積算内容を示したものであり、工事目的物を完成させるための一切の手段については、受注者の責任において定めるものとする。

仮設クレーン 手動式チェンブロック 15t 吊×2 台(ポンプ最大吊上重量約 27t)

クレーン設置架構は、ポンプおよび消音器搬入用、原動機搬入用、吐出弁および吐出管搬入用をそれぞれ設置し、仮設クレーンは 15t 吊を適宜吊り替える。

- ・原動機吊上重量 約 12t(15t 吊 1 台):参考
- ・吐出弁吊上重量 約 7t(15t 吊 1 台):参考
- ・消音器吊上重量 約 2t(15t 吊 1 台):参考
- ・吐出管最大吊上重量 約 2.1t(15t 吊 1 台):参考

9章 検査および試験

1. 一般事項

- (1) 各機器の試験結果は、試験・検査成績表として完成図書に添付するものとする。
- (2) 検査ならびに試験結果は、発注者が立会のもとに行うことを原則とするが、材料及び部品等については規格証明書のある場合はこの限りではない。

2. 部品検査

主要部品については、JIS規格等に基づく検査を行うものとする。

3. 工場検査及び試験

(1) 各機器

- 1) 材料検査
- 2) 水圧検査
- 3) 外観・寸法検査
- 4) 塗装検査
- 5) 性能検査

(2) 各種補機

各種補機その他は、JIS規格等に準じて性能検査を行うものとする。

4. 中間検査及び試験

工事請負契約締結後、中間検査の回数及び内容について監督員から通知する。

5. 完成検査及び試験

本設備は現地据付完了後、又は各段階において以下の試験を行うものとする。

- (1) 機器据付外観検査
- (2) 配管工事検査
- (3) 機器試運転及び調整
- (4) 塗装検査
- (5) その他関係諸官庁検査
- (6) その他機器の機能検査

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系	0 70 福山市 00-08.04.01(0) F 下水道機械設備	凡例 Co … コンクリート As … アスファルト DT … ダンプトラック BH … バックホウ CC … クローラクレーン TC … トラッククレーン RTC… ラフテレーンクレーン
	当世代	前世代
復興補正区分 前払金支出割合区分 週休補正区分 契約保証区分	00 補正なし 00 補正無し 00 補正なし 01 金銭的保証(0.04%)	
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。		

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
設備工（機器費）					Y1800F レベル1
ポンプ設備工	1	式			Y28003F レベル2
ポンプ設備工	1	式			Y280031F レベル3
設計技術費対象	1	式			Y48003101F レベル4 A=0, D=0, G=0
No.1排水ポンプ 立軸斜流ポンプ 1800 456m ³ /min × 5.2m	1	基			F000000100 00
No.1吐出弁 電動蝶型 1800	1	基			F000000200 00
No.1逆流防止弁 2,600 × 1,800mm ステンレス製	1	台			F000000300 00
No.1減速機 直交軸傘歯車 1:6.207（参考）	1	基			F000000500 00

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
No.1原動機 立形単動4サイクル直接噴射式 539kW(参考) 900min-1(参考)	1	基			F00000600 00
No.1燃料貯留槽 鋼製プラスチック製二重殻タンク(地下埋設) 40kL A重油	1	槽			F00000700 00
No.1~2燃料移送ポンプ 横軸歯車ポンプ 20×10L/min×0.3MPa×0.4kW ウイングポ	1	式			F00000800 00
No.3~4燃料移送ポンプ 横軸歯車ポンプ 32×70L/min×0.4MPa×2.2kW ウイングポ	1	式			F00000900 00
No.1燃料小出槽 鋼板製角形槽 800L	1	槽			F00001000 00
No.1~2空気圧縮機 空冷2段圧縮式 6m ³ /hr×2.94MPa×3.7kW	2	基			F00001100 00
No.1~2冷却水ポンプ 水中用水ポンプ 80×0.7m ³ /min×27m×5.5kW	2	基			F00001200 00
高架水槽 組立式樹脂製立形タンク 有効容量0.7m ³	1	槽			F00001300 00
** 機器費 **					

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
設備工					Y1900F レベル1
	1	式			
ポンプ設備工					Y29003F レベル2
	1	式			
輸送費					Y390031F レベル3
	1	式			
輸送費 製作工場～工事箇所（福山市新涯町）					F000008400 00
	1	式			
材料費					Y390032F レベル3
	1	式			
直接材料費					Y49003201F レベル4
	1	式			
大口径鋳鉄管 異形管 類 屋内 1 8 0 0					F000001700 00
	4,090	kg			
大口径鋳鉄管 異形管 類 屋外 1 8 0 0					F000001800 00
	8,160	kg			
大口径鋳鉄管 異形管 類 屋内 1 8 0 0					F000001900 00
	4,760	kg			

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
大口径鋳鉄管 異形管 類 水中 1800 - 1800×2600	4,140	kg			F000002000 00
大口径鋳鉄管 フランジ接合材 (SS) 1800	10	組			F000002100 00
大口径鋳鉄管 フランジ接合材 (SUS) 1,800×2,600	1	組			F000002200 00
可とう管 1800 100mm偏心	1	個			F000002300 00
大口径鋼管 90° ロングエルボ 400A	1	個			F000002500 00
大口径鋼管 フランジ 400A	3	枚			F000002700 00
大口径鋼管 フランジ接合材 400A	2	組			F000002800 00
小配管鋼管 SGP (黒) ねじなし 300A	24	m			F000003400 00
小配管鋼管 SGP (黒) ねじなし 65A	51.9	m			F000003500 00

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
小配管鋼管 SGP(黒)ねじなし 50A	57.5	m			F000003600 00
小配管鋼管 SGP(黒)ねじなし 40A	8.32	m			F000003700 00
小配管鋼管 SGP(黒)ねじなし 32A	121	m			F000003800 00
小配管鋼管 SGP(黒)ねじなし 25A	112	m			F000003900 00
小配管鋼管 SGP(黒)ねじなし 20A	20.9	m			F000004000 00
小配管鋼管 SGPW 100A	115	m			F000003100 00
小配管鋼管 SGPW 80A	2.21	m			F000003200 00
小配管鋼管 SGPW 50A	14.9	m			F000003300 00
小配管鋼管 SGP-VA 50A	1.21	m			F000004100 00

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
小配管鋼管 SGP-VD 65A	44.1	m			F000004200 00
小配管鋼管 SGP-VD 50A	45.7	m			F000004300 00
小配管鋼管 SUS304TP 100A	2.19	m			F000004400 00 Sch20S
小配管鋼管 SUS304TP 80A	19.4	m			F000004500 00 Sch20S
小配管鋼管 SUS304TP 25A	22.8	m			F000004600 00 Sch40
小配管弁類 JIS10K 仕切弁 100A FC/SUS	2	個			F000004700 00
小配管弁類 JIS10K 仕切弁 80A FC/SUS	2	個			F000004800 00
小配管弁類 JIS10K 仕切弁 50A FCMB	2	個			F000002900 00
小配管弁類 JIS10K 仕切弁 32A FCMB	7	個			F000004900 00

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
小配管弁類 JIS10K 仕切弁 25A FCMB	1	個			F000005000 00
小配管弁類 JIS10K 仕切弁 20A FCMB	6	個			F000005100 00
小配管弁類 JIS10K 仕切弁 65A SCS	1	個			F000005500 00
小配管弁類 JIS30K 仕切弁 25A SCS	2	個			F000006000 00
小配管弁類 JIS10K 逆止弁 80A FC/SUS	2	個			F000005600 00
小配管弁類 JIS10K 逆止弁 32A FCMB	3	個			F000005700 00
小配管弁類 JIS10K 逆止弁 20A FCMB	2	個			F000005800 00
小配管弁類 JIS30K 逆止弁 25A SCS	2	個			F000005900 00
小配管弁類 JIS10K 電動ボール弁 50A	1	個			F000006100 00

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
小配管弁類 JIS5K 伸縮継手 300A SUS	4	個			F000005200 00
小配管弁類 JIS10K 伸縮継手 65A SUS	5	個			F000006200 00
小配管弁類 JIS10K 伸縮継手 50A SUS	3	個			F000006300 00
小配管弁類 JIS10K 伸縮継手 32A SUS	4	個			F000006400 00
小配管弁類 JIS10K 伸縮継手 25A SUS	2	個			F000006600 00
小配管弁類 オイルストレーナ 複式 50A	1	組			F000005300 00
小配管弁類 オイルストレーナ 複式 25A	1	組			F000005400 00
バルブボックス 止水弁用 B-1	2	個			F000001600 00
埋設標識シート 150mm シングル 水抜き穴なし	14	m			F000006500 00

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
鋼製加工品 SS400 材料 + 加工 + 塗装 架台類	1,900	kg			F000006700 00
鋼製加工品 SS400 材料 + 加工 + 塗装 蓋類	118	kg			F000006800 00
鋼製加工品 SS400 材料 + 加工 + 塗装 サポート類	84.7	kg			F000006900 00
鋼製加工品 SS400 材料 + 加工 + 塗装なし 蓋類	580	kg			F000007000 00
鋼製加工品 SUS304 材料 + 加工 蓋類	24.9	kg			F000007100 00
鋼製加工品 SUS304 材料 + 加工 サポート類	139	kg			F000007200 00
鋼製グレーチング FB25 × 3	4.16	m2			F000007300 00
補助材料費	1	式			Y49003202F レベル4
補助材料費（率分）	1	式			SY49202F 00 機械設備 単第0 -0001 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
労務費					Y390033F レベル3
	1	式			
一般労務費					Y49003301F レベル4
	1	式			
普通作業員					R0020 00
	215	人			
設備機械工					R0367 00
	164	人			
配管工					R0360 00
	304	人			
溶接工					RTPC00019 00
	2	人			
機械設備据付労務費					Y49003302F レベル4
	1	式			
機械設備据付工標準賃金					R1130 00
	341	人			A
複合工費					Y390034F レベル3
	1	式			

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
塗装・被覆工					Y49003401F レベル4
	1	式			
耐油塗装					F000007500 00
	5.18	m2			
ロックウール保温材充填 排気管貫通部 300A					F000008300 00
	0.17	m3			
鋳鉄管塗装 屋内 アクリルNAD系艶有塗料 3・4層					F000008900 00
	22.3	m2			
鋳鉄管塗装 屋外 ポリウレタン樹脂塗料 4・5層					F000009000 00
	37.9	m2			
鋳鉄管塗装 水中 エポキシ樹脂塗料 4・5層					F000009100 00
	6.16	m2			
被覆 給水 50A b・口・ 機械室					F000007600 00
	0.5	m			
被覆 排気管 400A,300A t=75mm					F000007400 00
	17.7	m2			
地下タンク等撤去工					Y49003402F レベル4
	1	式			

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
燃料貯留槽清掃 地下タンク(15kL)・小出槽(700L)・燃料	1	式			F000007700 00
土工	1	式			Y49003403F レベル4
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 24-12-25(20)BB コンクリートポンプ車打設	23.7	m3			SPK25040157 00 単第0 -0002 表
モルタル工 普通	1.99	m3			SPK25040158 00 単第0 -0003 表
鉄筋工 SD345_D13 一般構造物 [規]10t未満	0.987	t			SS000099 00 単第0 -0004 表
構造物とりこわし工(無筋構造物) 人力施工	1.25	m3			SDT00031 00 単第0 -0005 表
構造物とりこわし工(鉄筋構造物) 人力施工	27.7	m3			SDT00033 00 単第0 -0006 表
型枠 一般型枠 鉄筋・無筋構造物	48.1	m2			SPK25040159 00 単第0 -0007 表
側溝土工	1	式			V9999 00 単第0 -0008 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
側溝本体、蓋 材工共	1	式			V9998 00 単第0 -0020 表
殻運搬 Co(鉄筋)構造物とりこわし DID区間無し 運搬距離1.6km以下	27.7	m3			SPK25040155 00 単第0 -0025 表
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間無し 運搬距離1.6km以下	1.70	m3			SPK25040155 00 単第0 -0026 表
殻運搬 舗装版破碎 DID区間無し 運搬距離1.5km以下(1.0km超)	4.13	m3			SPK25040155 00 単第0 -0027 表
鋼製加工品	1	式			Y49003404F レベル4
溶融亜鉛めっき<JISH8641> HDZT77,無加工品 鉄骨,単体(形鋼類)	0.58	t			TH013230 00
直接経費	1	式			Y390035F レベル3
機械経費	1	式			Y49003503F レベル4
機械経費(率分)	1	式			SY49503F 00 機械設備 単第0 -0028 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
仮設費					Y390036F レベル3
	1	式			
仮設費(率分) ポンプ設備工					SY396F 00
	1	式			機械設備 単第0 -0029 表
仮設工 揚重工					F000008100 00
	1	式			
** 直接工事費 **					
準備費					Z0002
設計経費					#0048
再資源化施設受入費 鉄筋Co殻					F000000400 00
	27.7	m3			
再資源化施設受入費 無筋Co殻					F000001400 00
	1.70	m3			
再資源化施設受入費 As殻					F000001500 00
	4.13	m3			

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
処分費 残土	22.7	m3			F000008200 00
スクラップ 鉄屑 ヘビ-H1	86.5	t			F000008500 00
スクラップ 鉄屑 ヘビ-H2	29.1	t			F000008600 00
スクラップ ステンレス 18-8	85.9	kg			F000008700 00
スクラップ 銅くず 下銅	16.3	kg			F000008800 00
共通仮設費率分					Z0010
計算情報..... 対象額..... 率.....					対象額合計...
** 共通仮設費 **					
** 純工事費 **					

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
現場管理費 計算情報..... 対象額..... 率.....					対象額合計...
据付間接費 計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 据付工事原価 **					
設計技術費 計算情報..... 対象額..... 率.....					対象額合計...
** 工事原価 **					
一般管理費率分額 計算情報..... 対象額..... 率.....		機器補正率...			前払補正率... 対象額合計...
契約保証費 計算情報..... 対象額..... 率.....					当初請対額 当初対象額
** 一般管理費計 **					
** 工事価格計 **					

位置図

S=1:10000

工事場所

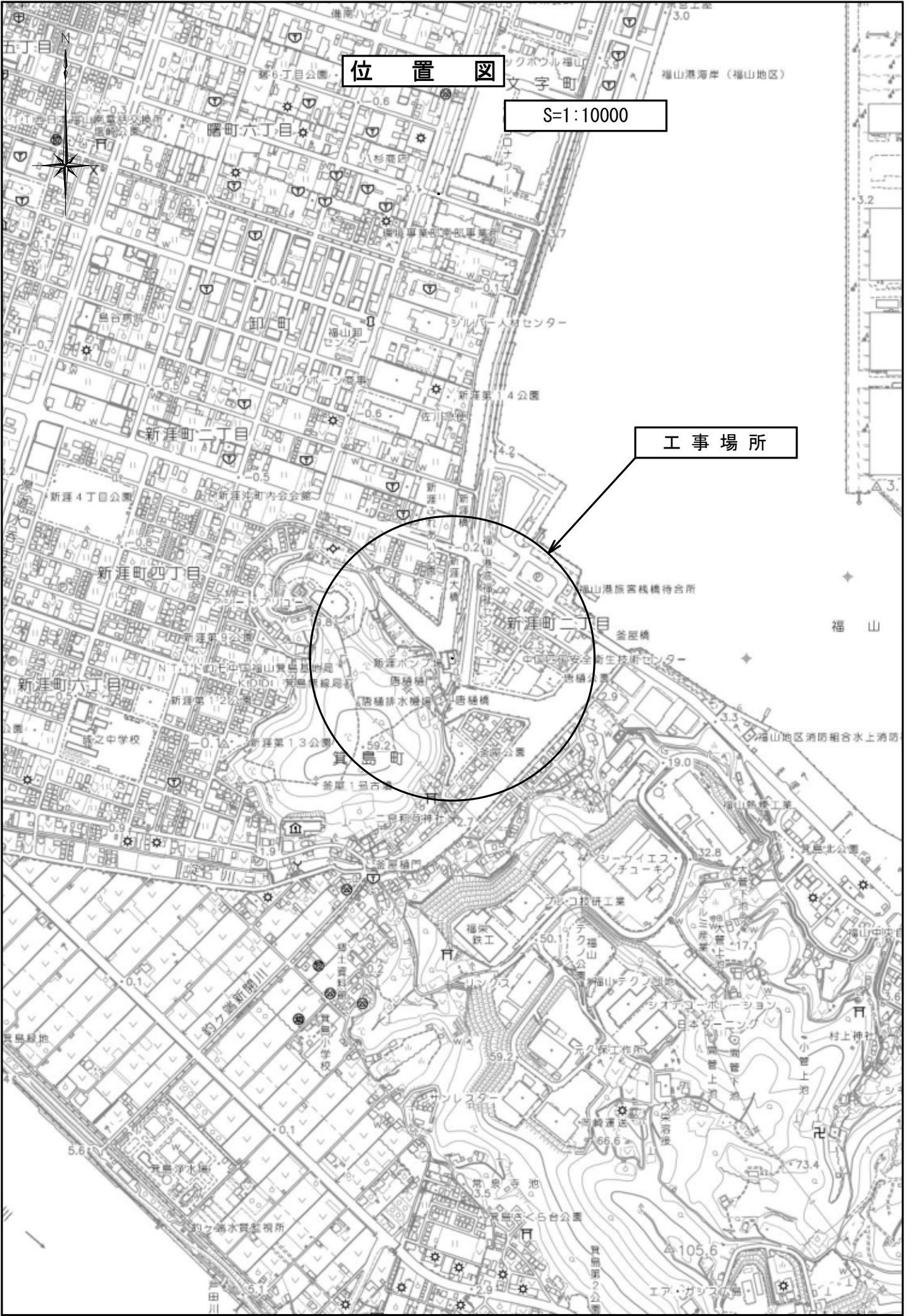
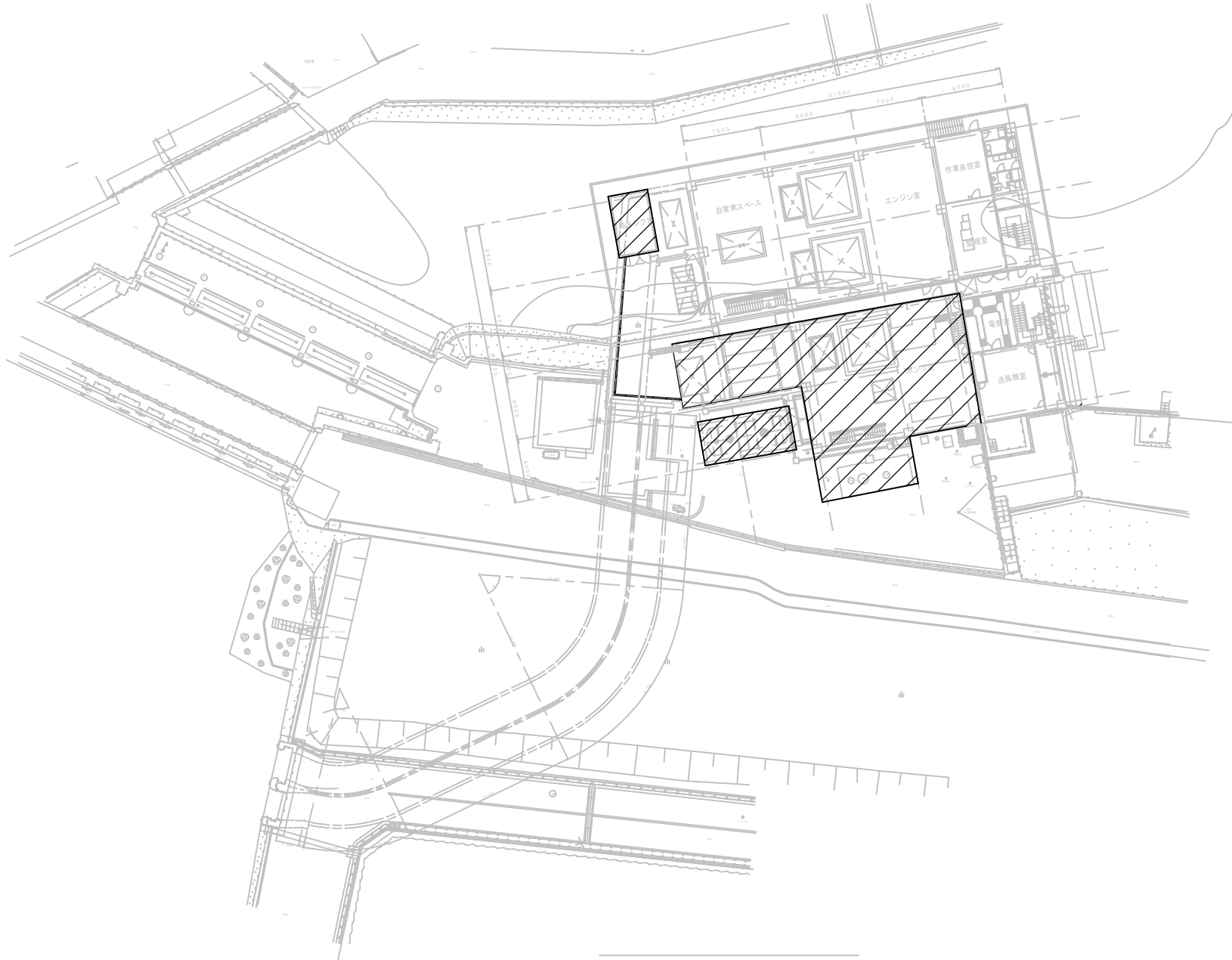



図 面 目 録

(プラント機械)

図 番	図 面 名 称	縮 尺	図 番	図 面 名 称	縮 尺
M-1	一般平面図	1/200	M-17	ポンプ設備フローシート(撤去)	NONE
M-2	水位関係図	1/100	M-18	水路機器配置配管平面図(撤去)	1/100
—			M-19	B1F(下部)機器配置配管平面図(撤去)	1/100
M-4	ポンプ設備フローシート	NONE	M-20	B1F(上部)機器配置配管平面図(撤去)	1/100
M-5	水路機器配置配管平面図(更新)	1/100	M-21	1F機器配置配管平面図(撤去)	1/100
M-6	B1F(下部)機器配置配管平面図(更新)	1/100	M-22	2F機器配置配管平面図(撤去)	1/100
M-7	B1F(上部)機器配置配管平面図(更新)	1/100	M-23	3F機器配置配管平面図(撤去)	1/100
M-8	1F(下部)機器配置配管平面図(更新)	1/100	M-24	機器配置配管断面図(1)(撤去)	1/100
M-9	1F(上部)機器配置配管平面図(更新)	1/100	M-25	機器配置配管断面図(2)(撤去)	1/100
M-10	機器配置配管断面図(1)(更新)	1/100	M-26	機器配置配管断面図(3)(撤去)	1/100
M-11	機器配置配管断面図(2)(更新)	1/100	M-27	機器配置配管断面図(4)(撤去)	1/100
M-12	機器配置配管断面図(3)(更新)	1/100	M-28	機器配置配管断面図(5)(撤去)	1/100
M-13	機器配置配管断面図(4)(更新)	1/100	—		
M-14	機器配置配管断面図(5)(更新)	1/100	M-30	ポンプ設備仮設架構造設置平面図(参考)	1/100
M-15	機器配置配管断面図(6)(更新)	1/100	M-31	ポンプ設備仮設架構造設置断面図(参考)	1/100
—			—		
			参考図 1	B1F箱穴図	1/100
			参考図 2	1F箱穴図	1/100



福山市上下水道局			
工事名称	新設ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新渡町二丁目及び新渡町田目地内		
図面番号	M-1	縮尺	1/200
一般平面図			

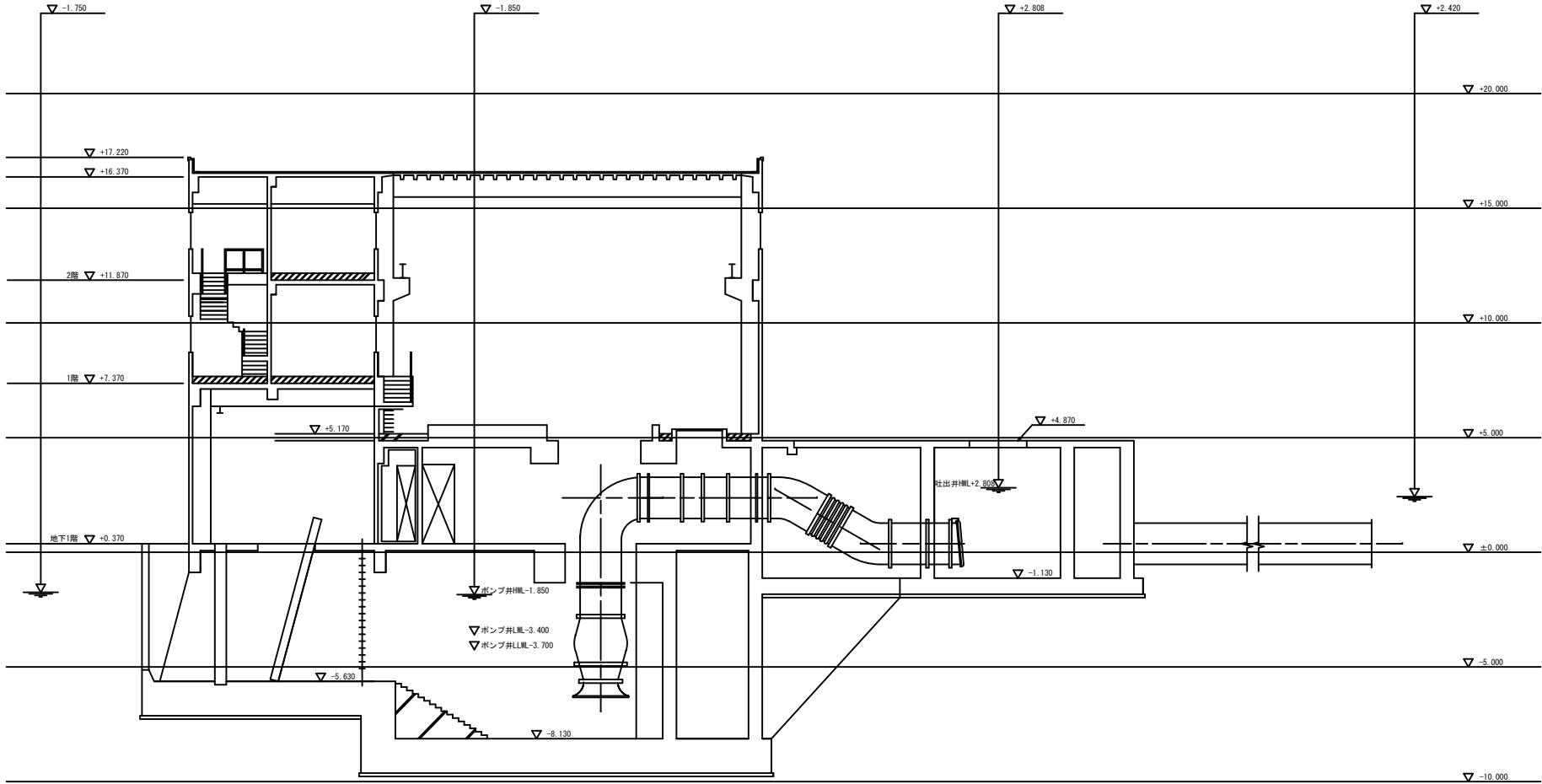
設計年月：2026年4月
注 記
1. 図中  は今回箇所を示す。

一般平面図 S=1/200

新涯ポンプ場旧棟 水位関係図

福山市上下水道局			
工事名称	新涯ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新涯町二丁目及び新涯町四丁目地内		
図面番号	M-2	縮尺	1/100
水位関係図			

設計年月：2026年4月



スクリーン

除塵機

ポンプ井

吐出井

放流渠

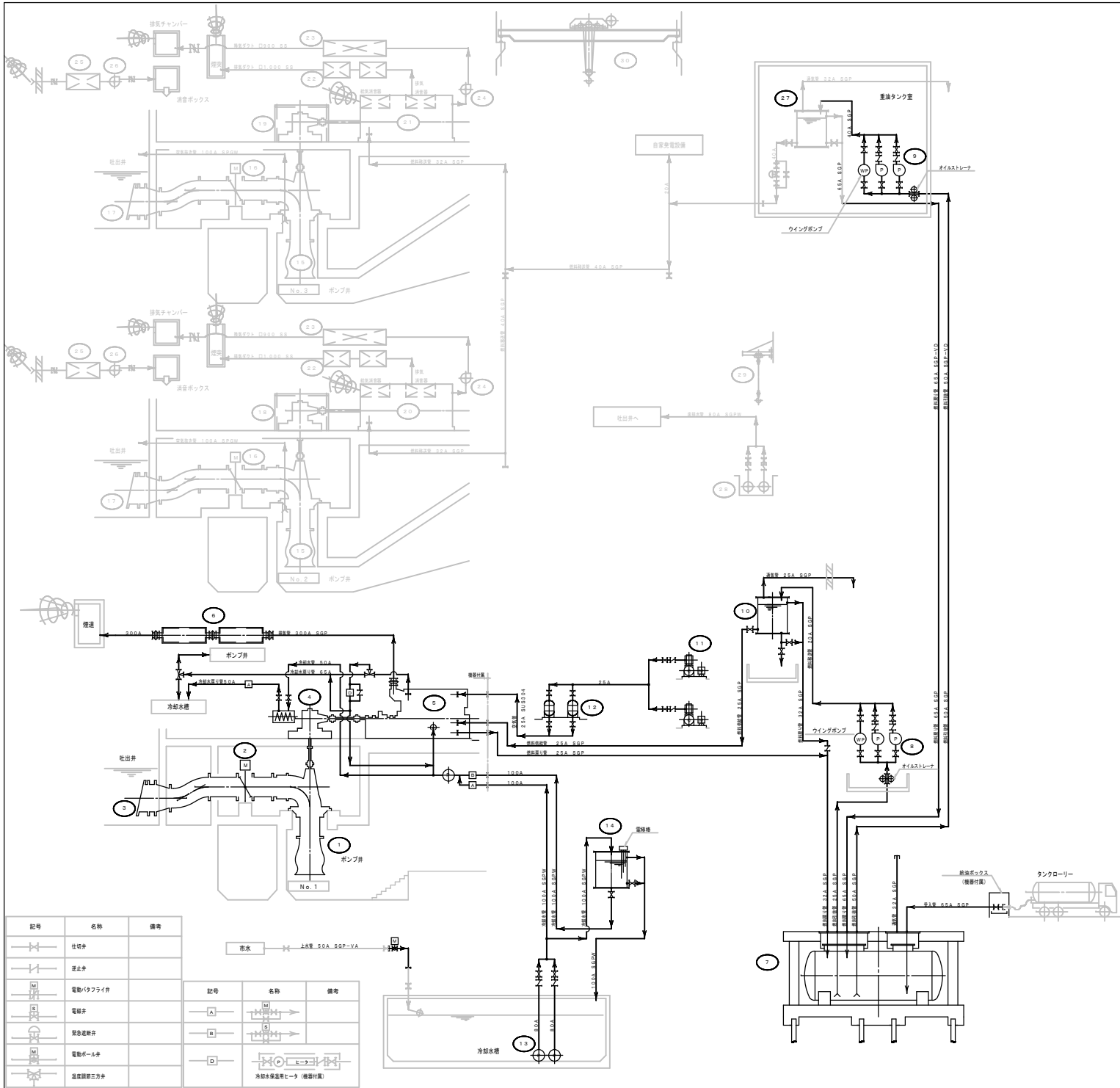
福山港

工事名称	給排水ポンプ場設備取替工事		
工事場所	福山市新築物工区及び新築物出た目内		
図面番号	M-4	縮尺	NON.

ポンプ設備フローシート

設計年月: 2026年4月

注 記
1. 途中 ー は今回箇所を指す。



機材の主要数量は2.0のV.A.M.Pとする。

記号	名称	仕様	数量	単位	備考
20	天吊走行クレーン	電動式1ドリ駆動天吊走行クレーン 3.51m	3.9.9	1	1
29	循環水ポンプ地上装置	手動チェーンブロック 0.51m	-	1	1
28	循環水ポンプ	水中水ポンプ (連続式) φ88×φ93mm/分 ³ 7m	1.5	2	2
27	No. 2燃料小出機	縦形製丸形機 19L	-	1	1
26	No. 2-3送風機	低速全軸流ファン 7.90m ² /分×270P.S.	1.1	2	2
25	No. 2-3ダクトサイレンサー	ダクト形フランジタイプ 7.90m ² /分×24Pa	-	2	2
24	No. 2-3送風ファン	バックアップ用ファン 2.23m ² /分	5.0	2	2
23	No. 2-3排水消音器	縦形製機型型 φ04B (A)	-	2	2
22	No. 2-3排水消音器	縦形製機型型 (二連式) φ04B (A)	-	2	2
21	No. 3送風機	縦形製スターベンシエンジ (2軸式) φ70KW×1000mm ²	1.5	1	1
20	No. 2送風機	縦形製スターベンシエンジ (2軸式) φ80KW×1000mm ²	1.5	1	1
19	No. 3減速機	空弁式減速機非歯車減速機 (二級減速) 減速比5.24 (11000/191)	2.2	1	1
18	No. 2減速機	空弁式減速機非歯車減速機 (二級減速) 減速比6.72 (1000/148)	2.2	1	1
17	No. 2-3逆流防止弁	SUS製フラップ弁 1.200W×2.000H	-	2	2
16	No. 2-3吐出弁	電動式蝶弁 φ2.000	5.5	2	2
15	No. 2-3排水ポンプ	立軸型排水ポンプ (二連式) φ2.000×φ270mm/分 ³ 9m	-	2	2
14	高気圧槽	縦立式樹脂製立形タンク 貯留容量1m ³	-	1	1
13	No. 1-2排水ポンプ	水中型水ポンプ φ80×0.7m ² /分×27m	5.5	2	2
12	No. 1空気機	縦形製高圧二連式空気機 200L	-	1	1
11	No. 1-2空気圧縮機	立形空冷二段式 6m ² /分×2.9MPa	3.7	2	2
10	No. 1燃料小出機	縦形製丸形機 貯留容量600L	-	1	1
9	No. 3-4燃料移送ポンプ	縦形製車ポンプ φ32×70L ² /分×0.4MPa	2.2	2	2
8	No. 1-2燃料移送ポンプ	縦形製車ポンプ φ20×10L ² /分×0.3MPa	0.4	2	2
7	No. 1燃料貯留槽	縦形ガラスプラスチック製二重壁タンク 400L	-	1	1
6	No. 1消音器	縦形製円筒機型型 (二連式) φ04B (A)	-	1	1
5	No. 1送風機	立形製4サイクル高圧機材式 5.39KW (733P.S.)×900mm ²	1.5	1	1
4	No. 1減速機	減圧クラッチ付減速機非歯車減速機 減速比6.207 (900/145)	5.25	1	1
3	No. 1逆流防止弁	フラップ弁 (SUS製) 2.600W×1.800H	-	1	1
2	No. 1吐出弁	電動式蝶弁 (連続式) φ1.800	3.7	1	1
1	No. 1排水ポンプ	立軸型排水ポンプ (1型、二連式) φ1.800×456mm ² /分 ³ 2m	-	1	1

記号	名称	備考
(Symbol)	仕切弁	
(Symbol)	止弁	
(Symbol)	電動バクサイ弁	
(Symbol)	電磁弁	
(Symbol)	緊急遮断弁	
(Symbol)	電動ボール弁	
(Symbol)	温度調整三方弁	

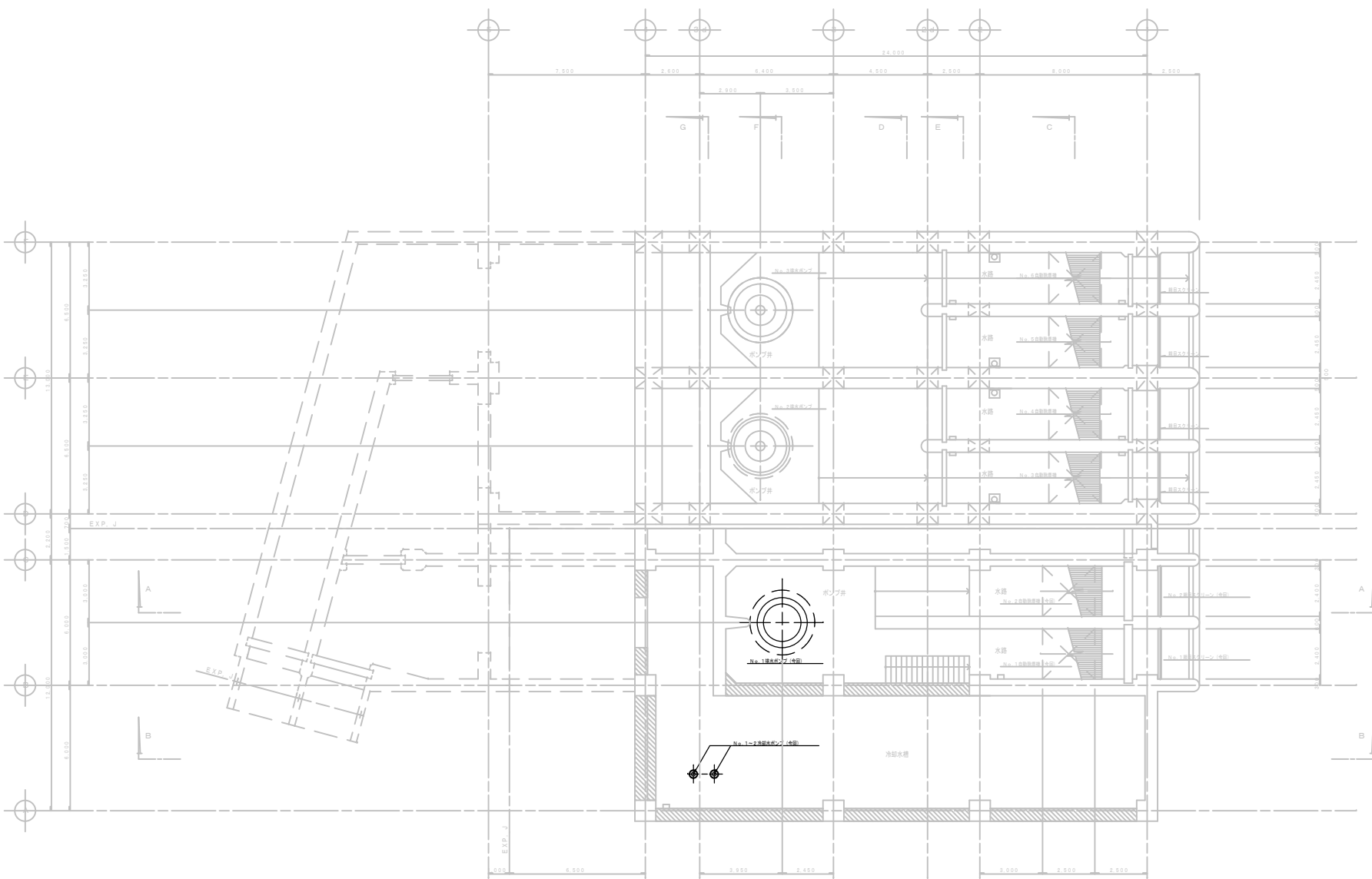
記号	名称	備考
(Symbol)	冷却水保通ヒータ (機器付属)	

福山市上下水道局

工事名称	新造ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新渡町二丁目及び新渡町四丁目地内		
図面番号	M-5	縮尺	1/100
水路機器配置配管平面図(更新)			

設計年月：2026年4月

注 記
 1. 図中 — は今回箇所を示す。



水路 平面図 S=1/100

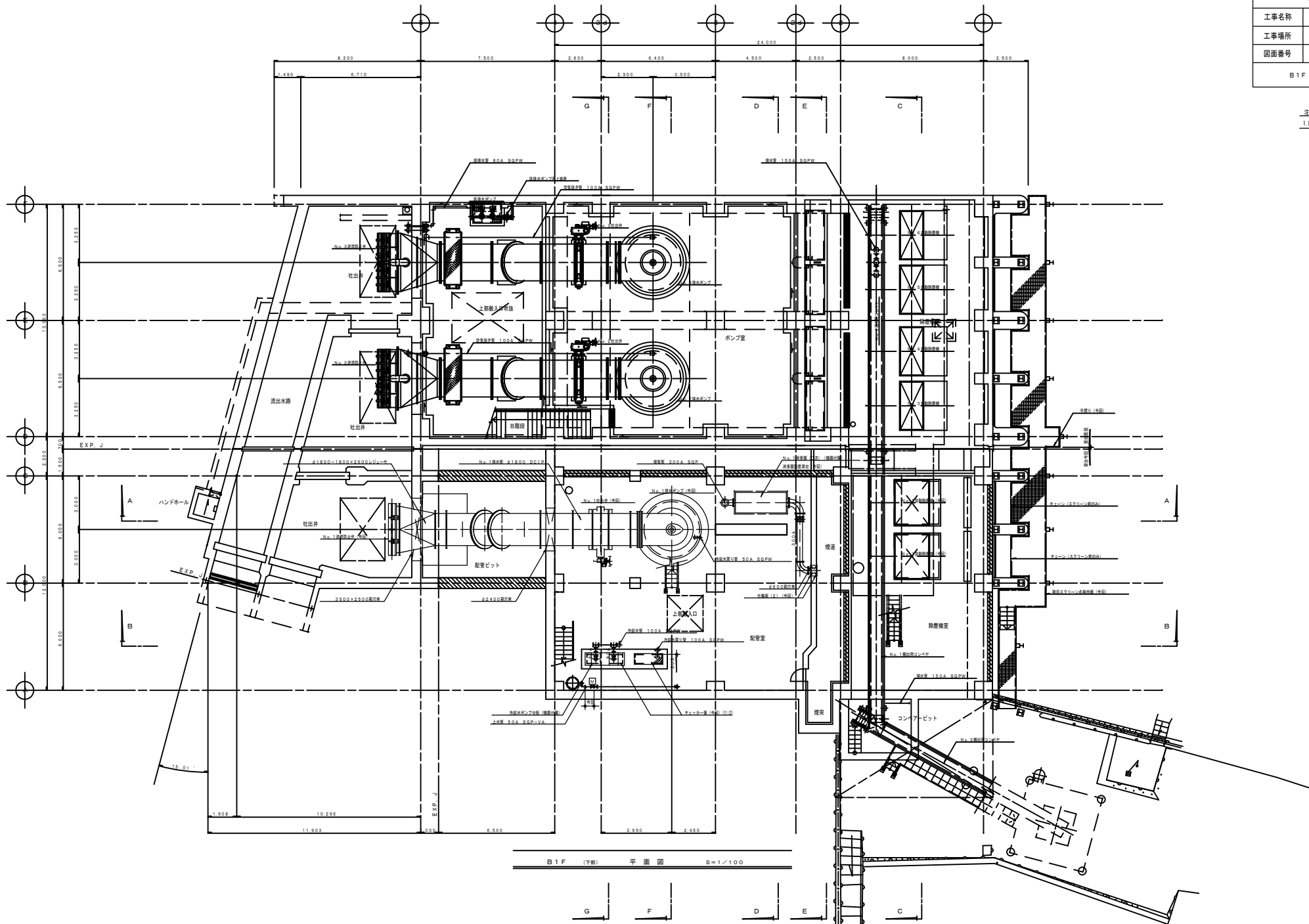


福山市上下水道局

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	M-6	縮尺	1/100
B1F (下部) 機器配置配管平面図			

設計年月：2026年4月

注 記
 1 図中 〃 は今回箇所を示す。

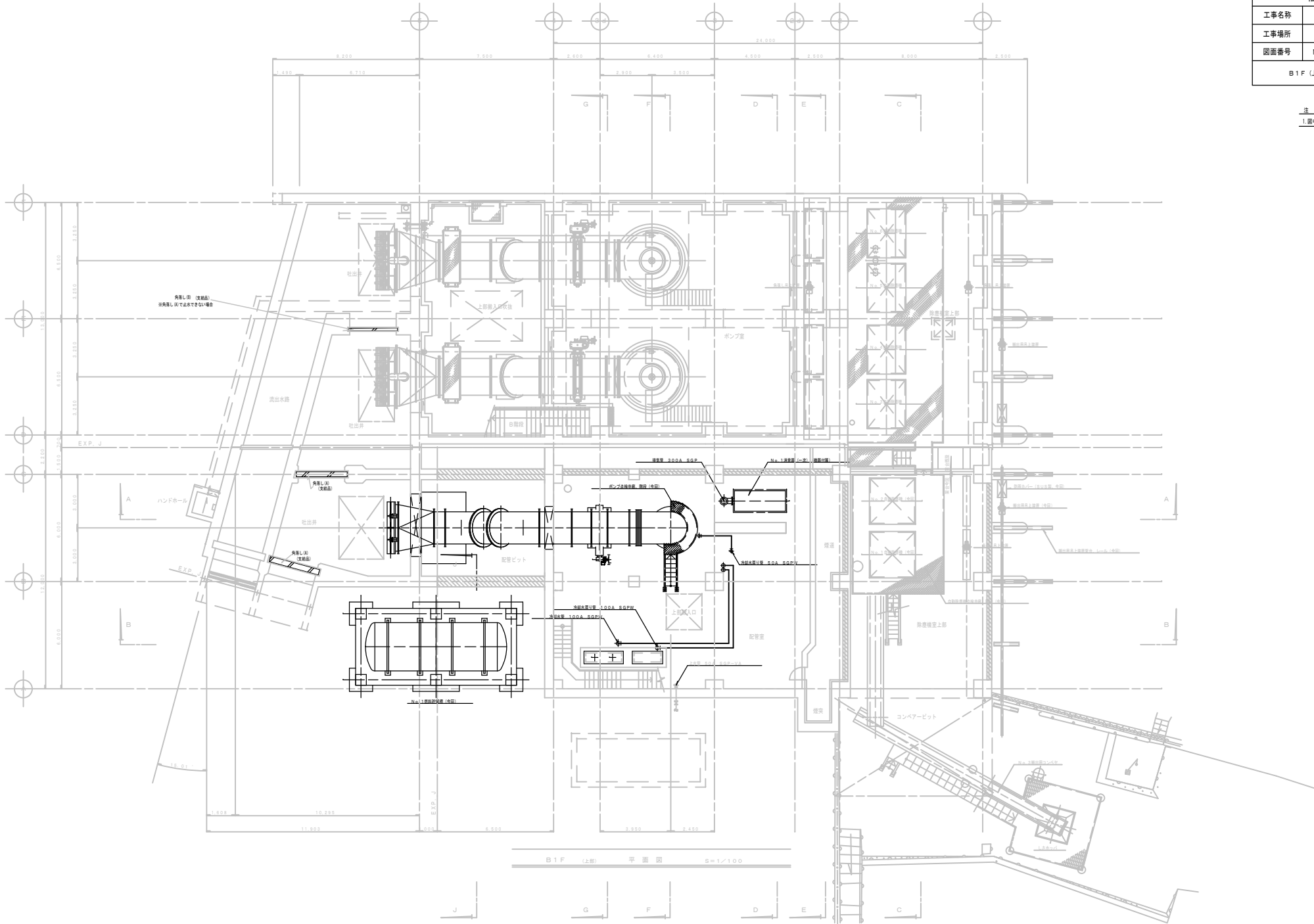


工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事	
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内	
図面番号	M-7	縮尺 1/100

B1F (上部) 機器配置配管平面図

設計年月：2026年4月

注 記
1. 図中 〓 は今回更新を示す。



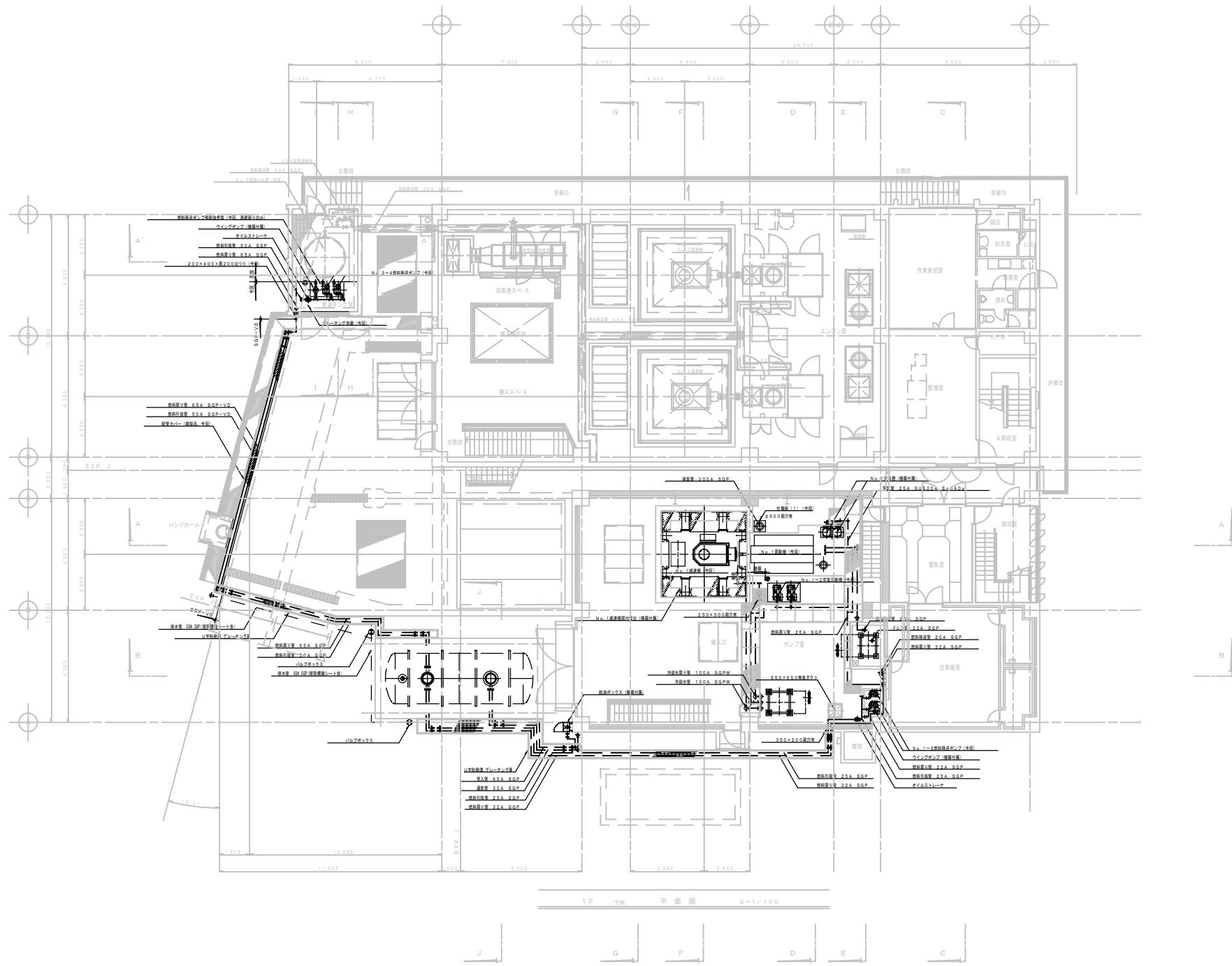
福山市上下水道局

工事名称	新設ポンプ場ポンプ設備取替工事	
工事場所	福山市新築二丁目及び新築町田目地内	
図面番号	M-8	縮尺 1/100

1F (下部) 機器配置配管平面図

設計年月: 2026年4月

注 記
1. 途中 〓 は今回図面を不示す。



1F (下部) 平面図 S=1/100

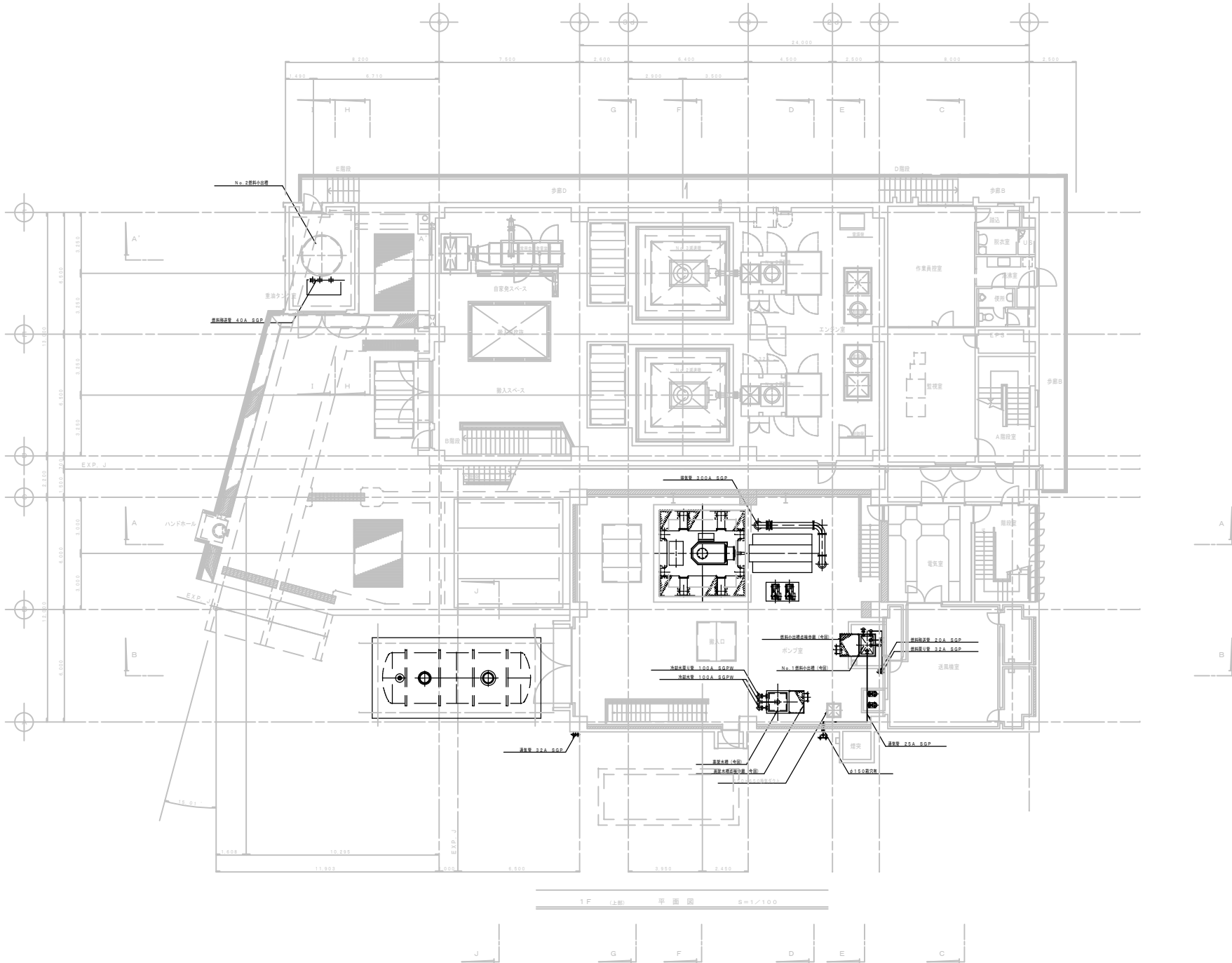
工事名称	新設ポンプ場ポンプ設備取替工事
工事場所	福山市新瀬町二丁目及び新瀬町日下町地内
図面番号	M-9 縮尺 1/100

1F (上部) 機器配置配管平面図

設計年月: 2026年4月

注 記

1. 変更中 () は今回図面を示す。

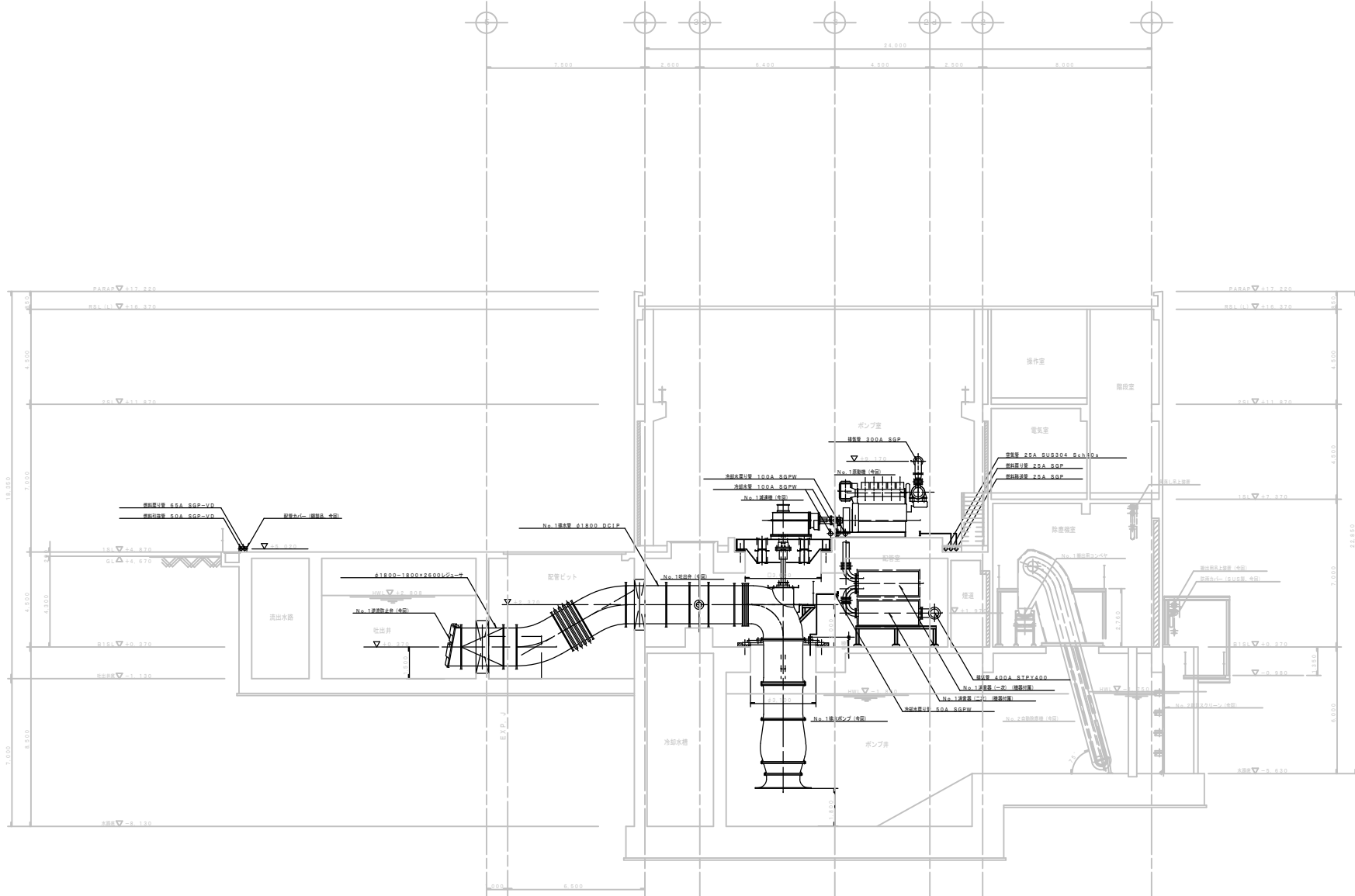


工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目内		
図面番号	M-10	縮尺	1/100
機器配置配管断面図 (1)			

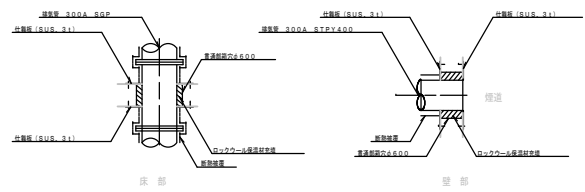
設計年月：2026年4月

注 記

1. 図中 〃は今回箇所を示す。



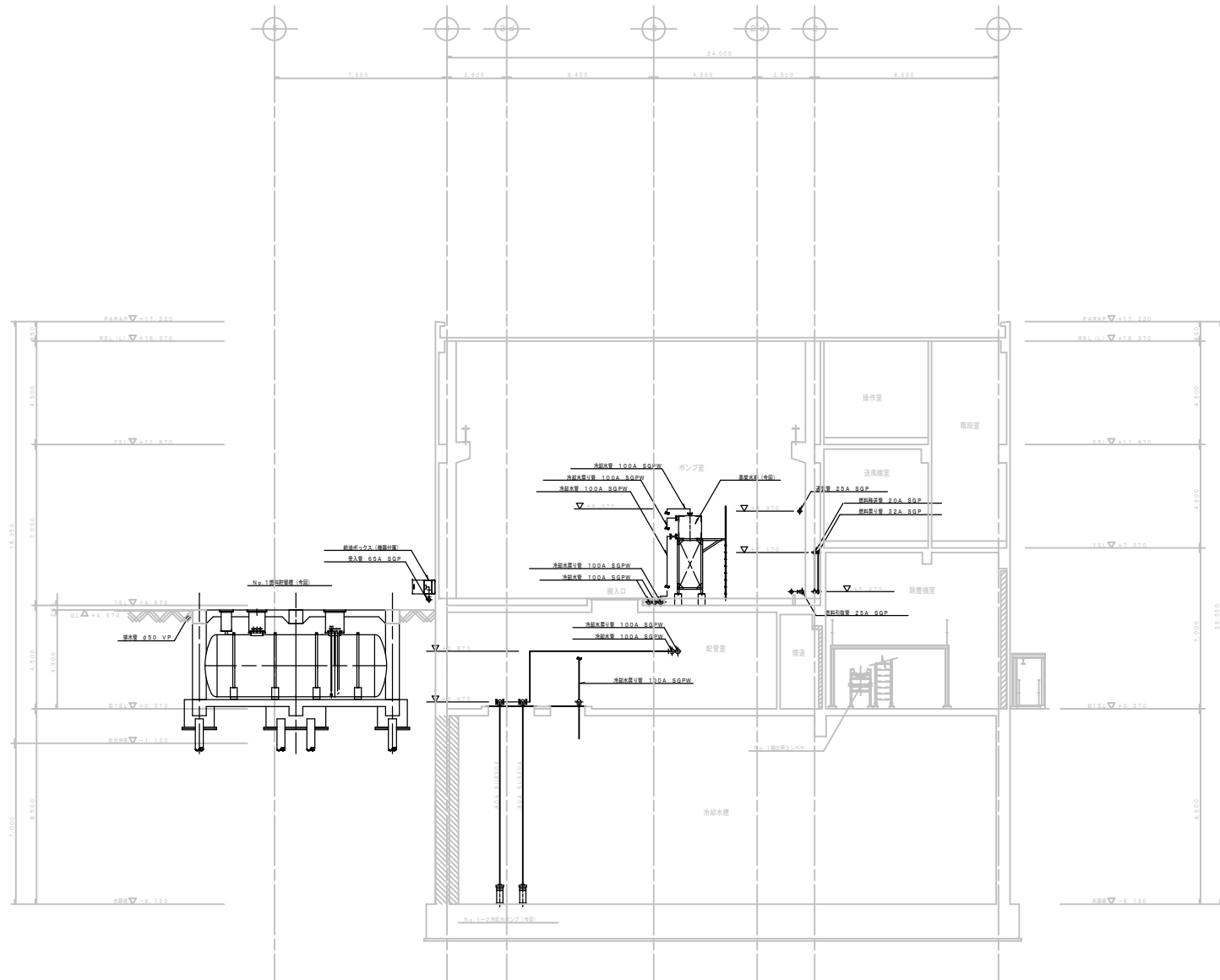
A-A 断面図 S=1/100



工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	M-11	縮尺	1/100
機器配置配管断面図 (2)			

設計年月：2026年4月

注 記
1. 図中 — は今箇所を示す。

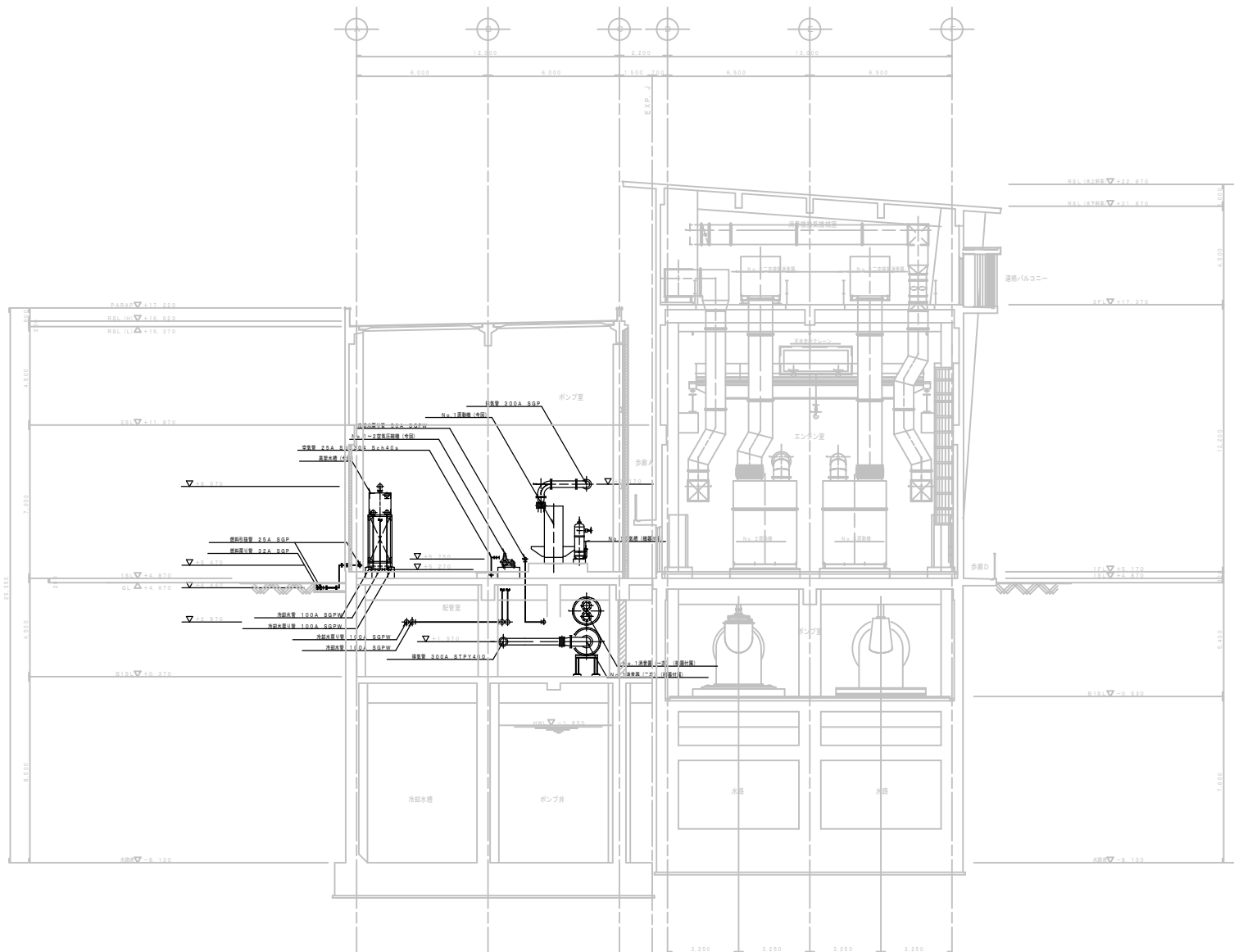


B-B 断面図 S=1/100

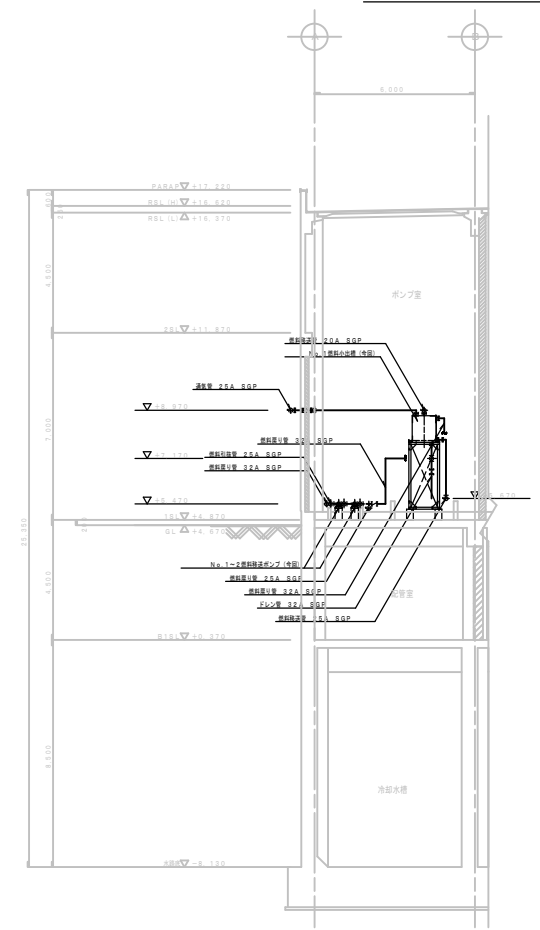
工事名称	新築ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新築町二丁目及び新築町四丁目地内		
図面番号	M-13	縮尺	1/100
機器配置配管断面図 (4)			

設計年月：2026年4月

注 記
1. 途中 — は今回図面を示す。



D-D 断面図 S=1/100



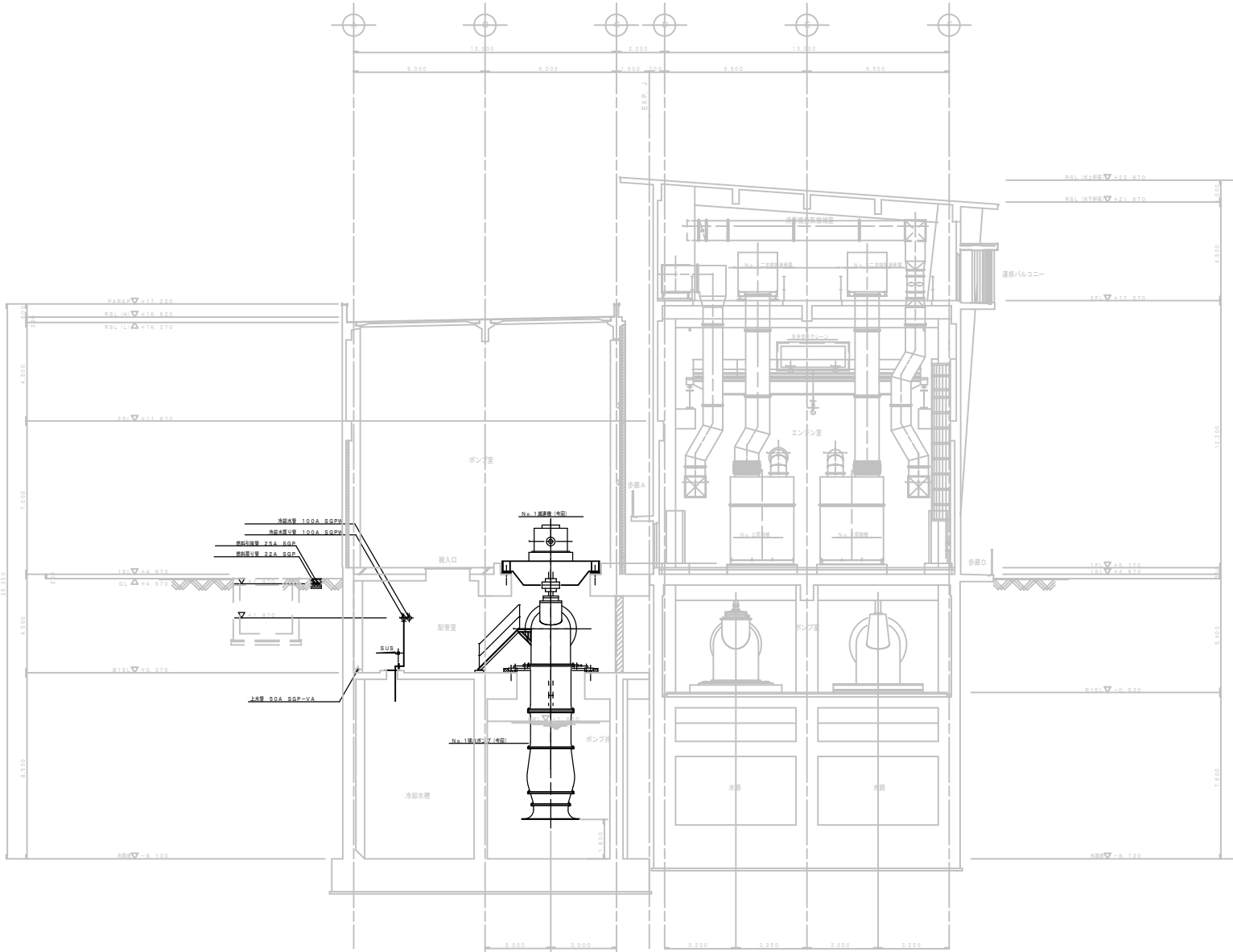
E-E 断面図 S=1/100

福山市上下水道局	
工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内
図面番号	M-14 縮尺 1/100
機器配置配管断面図 (5)	

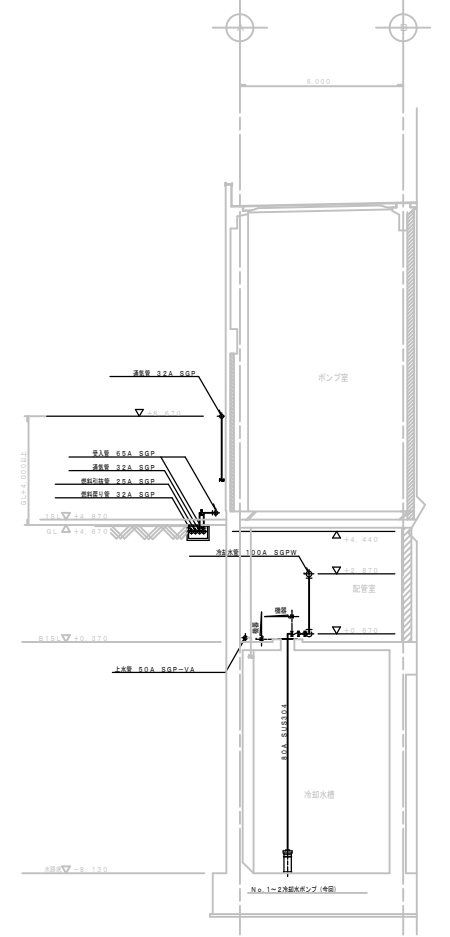
設計年月: 2026年4月

注 記

1 図中 〃 は今回箇所を示す。



F-F 断面図 S=1/100



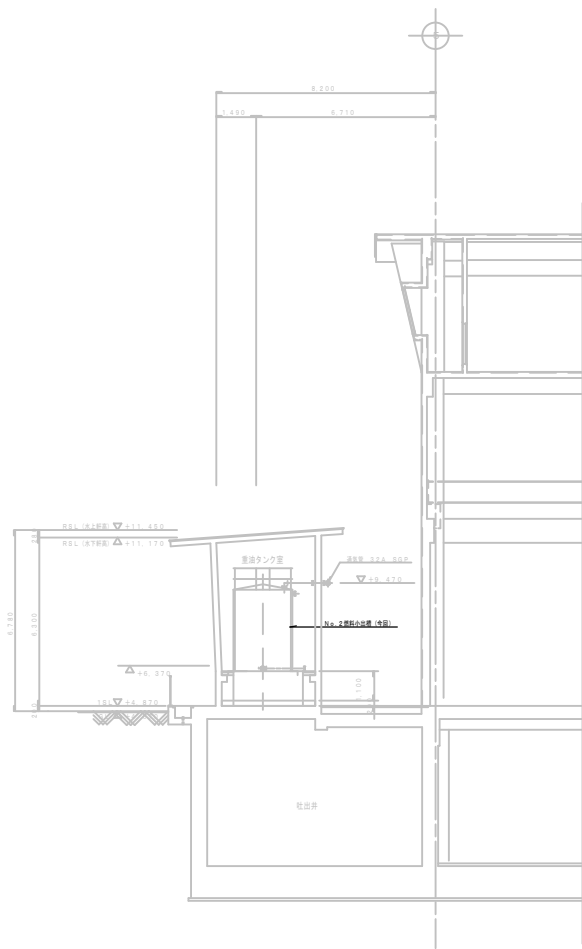
G-G 断面図 S=1/100

工事名称	新築ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新築的工丁目及び新築的田目地内		
図面番号	M-15	縮尺	1/100

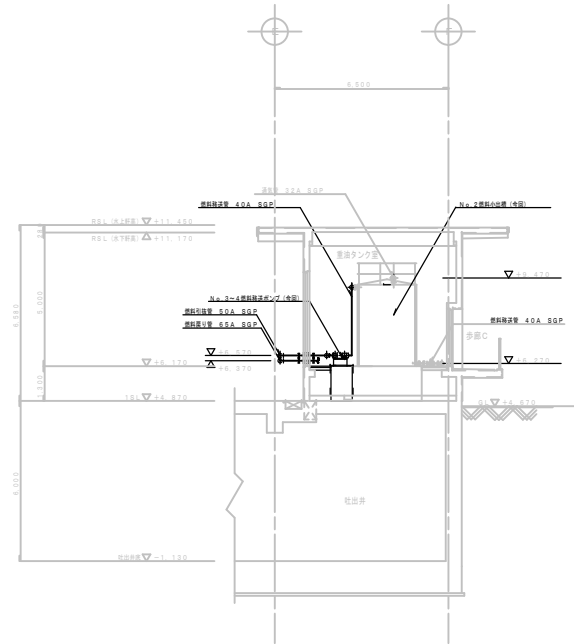
機器配置配管断面図 (6)

設計年月: 2026年4月

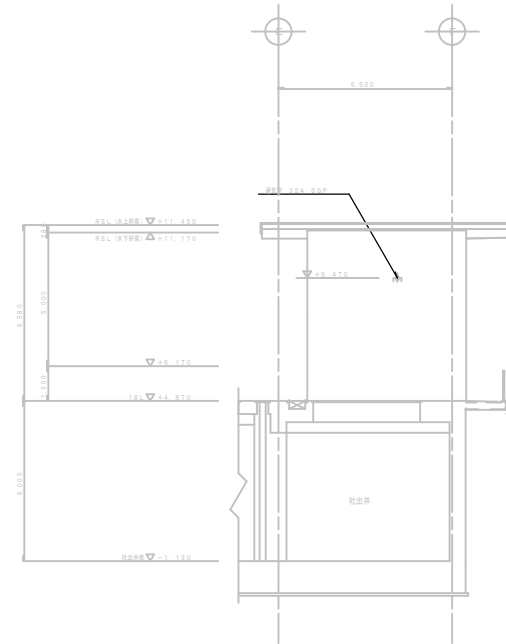
注 記
1. 途中 〰️ は今回図面を不表示。



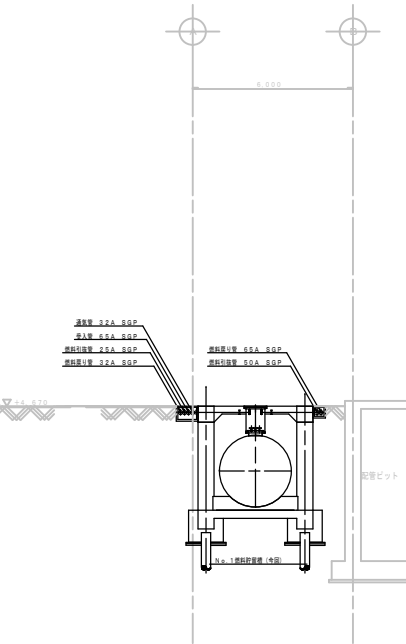
A'-A' 断面図 S=1/100



I-I 断面図 S=1/100



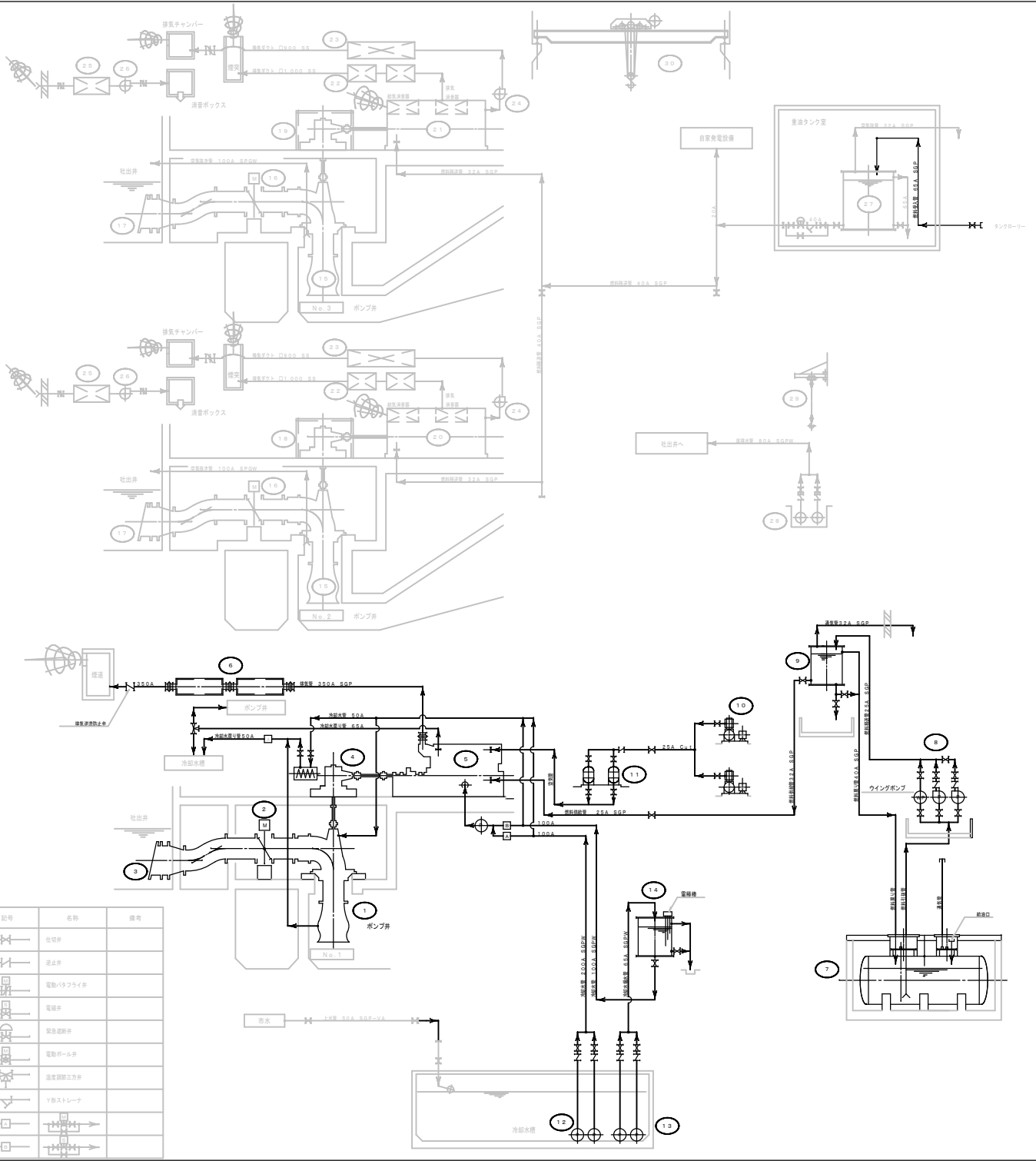
H-H 断面図 S=1/100



J-J 断面図 S=1/100

設計年月: 2026年4月

注 記
 1. 撤去 〰️ は今箇所を示す。



図面内管数値は200V・4Pとする。

記号	名称	備考
	仕切弁	
	止弁	
	電動バタフライ弁	
	電動弁	
	電動止弁	
	電動ボール弁	
	電動ボール止弁	
	Y形ストレーナ	
	電動弁	
	電動弁	

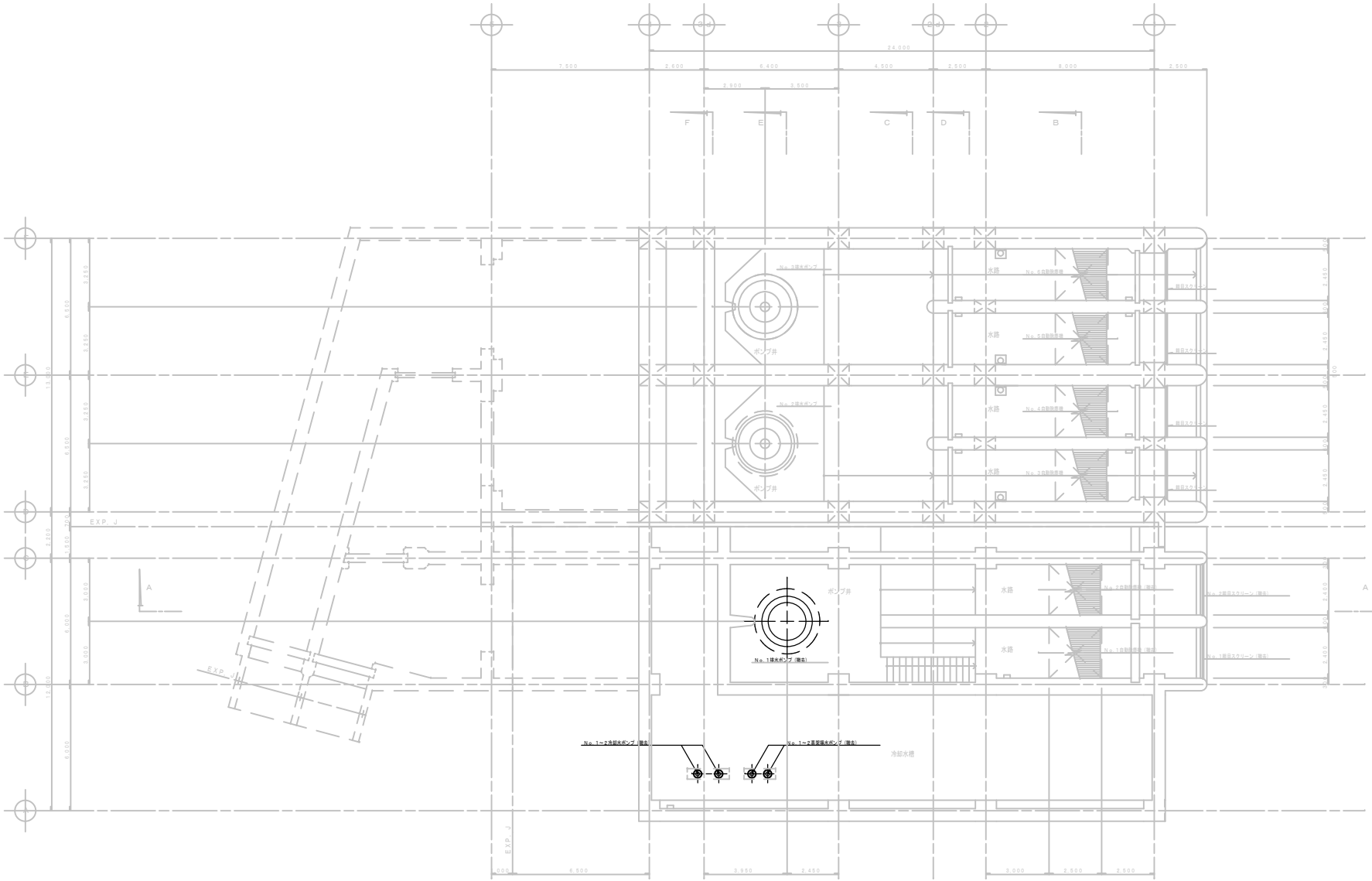
機号	機名	機種仕様	電機kW	撤去	取替	備考
30	天井走行クレーン	電動式ドリフト天井走行クレーン 35.5φm	39.9 (総合)	1	-	
26	戻戻水ポンプ長上設置	手動弁チェーンブロック 0.8tφm	-	1	-	
28	戻戻水ポンプ	水中揚水ポンプ (撤去) φ2000×φ2000/φ2700	1.0 (1)	2	-	
27	No. 2原料貯留槽	鋼板製円筒地上型タンク (撤去) 10KL	-	1	1	部分改修
26	No. 2-3送風機	立式送風機ファン 790mm/φ×2700PS	1.1	2	-	
25	No. 2-3ダクトサイレンサー	ダクト用フランジタイプ 790mm/φ×24Pφ	-	2	-	
24	No. 2-3換気ファン	パッケージ換気ファン 330mm/φ	0.6	2	-	
23	No. 2-3換気装置	鋼板製換気型 60dB (A)	-	2	-	
22	No. 2-3換気装置	鋼板製換気型 (二連式) 60dB (A)	-	2	-	
21	No. 3送風機	軸流スターベシエンジ (2軸式) φ700KW×1000mm/φ	1.0 1.5	1	-	
20	No. 2送風機	軸流スターベシエンジ (2軸式) φ800KW×1000mm/φ	1.0 1.5	1	-	
19	No. 3減速機	空冷式直交軸巻線減速機 (二段減速) 減速比 2.4 (1000/181)	2.2 1.5	1	-	取替カバー
18	No. 2減速機	空冷式直交軸巻線減速機 (二段減速) 減速比 4.672 (1000/214)	2.2 1.5	1	-	取替カバー
17	No. 2-3送風機	SUS製フラップ弁 3,200W×2,000H	-	2	-	
16	No. 2-3吐出弁	電動式給分弁 φ2,000	0.6	2	-	
15	No. 2-3揚水ポンプ	立軸型ポンプ (二連式) φ2,000×φ2800mm/φ2800mm	-	2	-	
14	高気圧槽	FRP製タンク 3m ³	-	1	1	
13	No. 1-2兼用揚水ポンプ	水中揚水ポンプ φ1000×φ2800mm/φ2800mm	0.7 (1)	2	2	ZP
12	No. 1-2兼用揚水ポンプ	水中揚水ポンプ φ1000×φ2800mm/φ2800mm	1.1 (1)	2	2	ZP
11	No. 1送風機	鋼板製円筒地上型送風機 60dB (A)	-	1	1	
10	No. 1-2送風機	立式送風機二連式 φ1000mm/φ×2,000PSφ	3.7 (1)	2	2	
9	原料小気槽	鋼板製角型槽 600L	-	1	1	
8	No. 1-2原料移送ポンプ	軸流型ポンプ φ3200×φ2800mm/φ2800mm	1.0 (1)	2	2	
7	No. 1原料貯留槽	鋼板製円筒地下型 10KL	-	1	1	
6	No. 1送風機	鋼板製円筒地上型 (二連式) 60dB (A)	-	1	1	
5	No. 1送風機	立式送風機4サイクル巻線機 φ1000mm/φ×2,000PSφ	1	1	1	
4	No. 1減速機	減圧クラッチ直交軸巻線減速機 減速比 6.43 (900/140)	3.7	1	1	
3	No. 1送風機	ブラップ弁 (SUS製) φ1,600mm/φ×2,000H	-	1	1	
2	No. 1吐出弁	電動式給分弁 (連結) φ1,600	3.7	1	1	
1	No. 1揚水ポンプ	立軸型ポンプ (二連式) φ1,600×φ2800mm/φ2800mm	-	1	1	

福山市上下水道局		
工事名称	新造ポンプ場ポンプ設備取替工事	
工事場所	福山市新渡町二丁目及び新渡町四丁目地内	
図面番号	M-18	縮尺 1/100
水路機器配置配管平面図 (撤去)		

設計年月：2026年4月

注 記

1. 撤去 〃は今回撤去を示す。



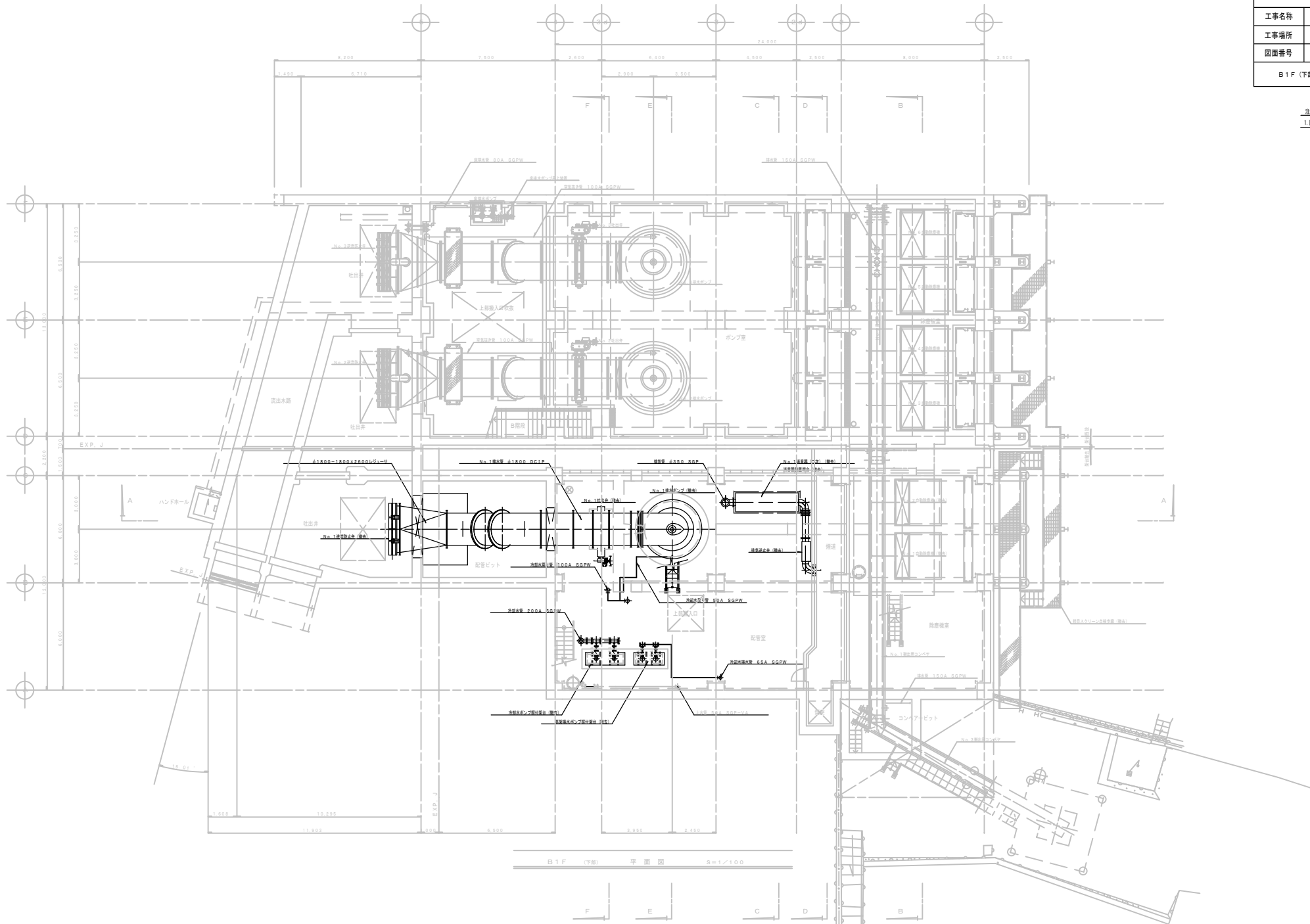
水路 平面図 S=1/100



工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	M-19	縮尺	1/100
B1F (下層) 機器配置配管平面図 (撤去)			

設計年月：2026年4月

注 記
 1 撤去 〃 は今箇所を示す。

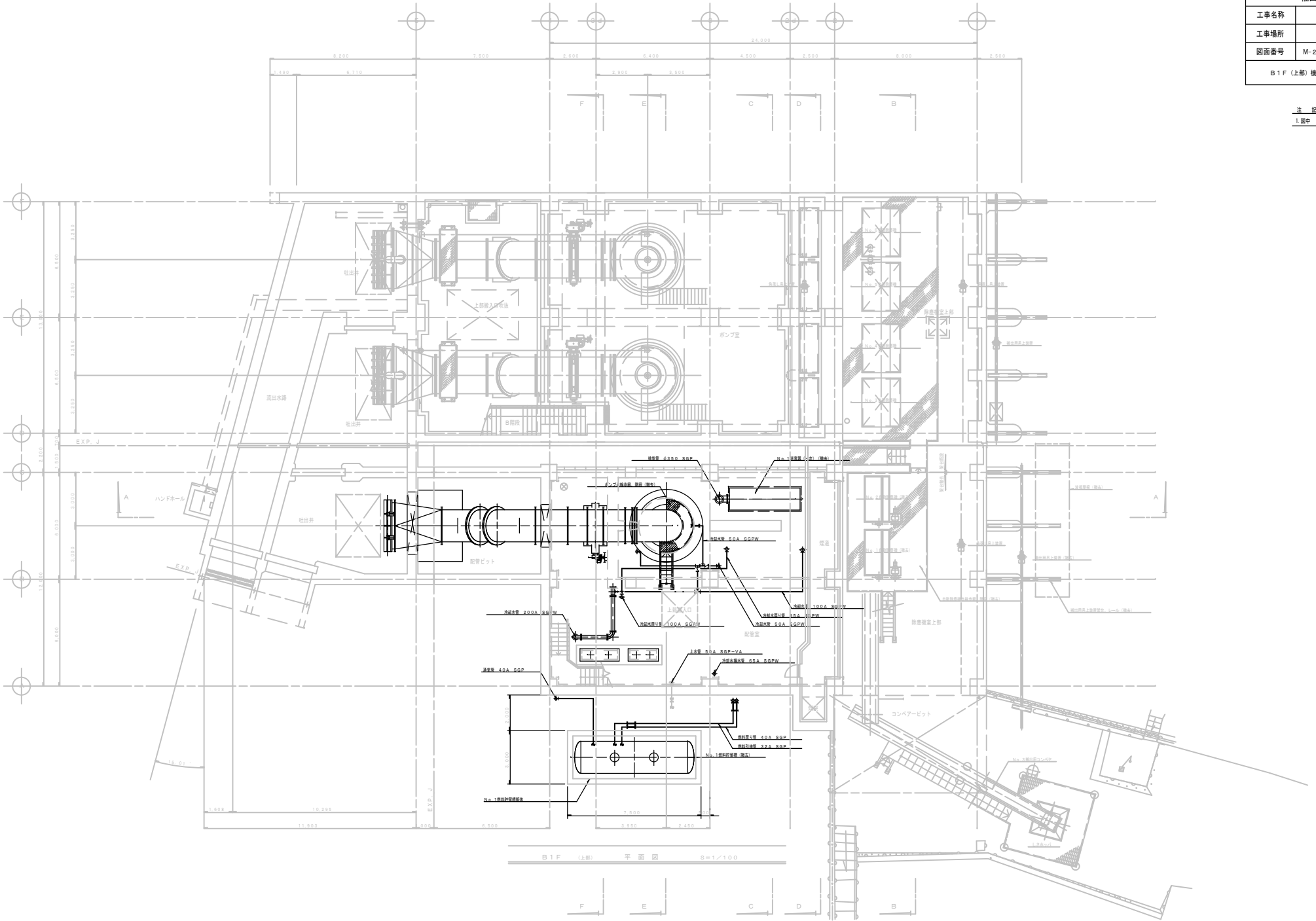


福山市上下水道局		
工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備改修工事	
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内	
図面番号	M-20	縮尺 1/100
B1F (上部) 機器配置配管平面図 (撤去)		

設計年月：2026年4月

注 記

1. 撤中 —— は今回撤去を示す。

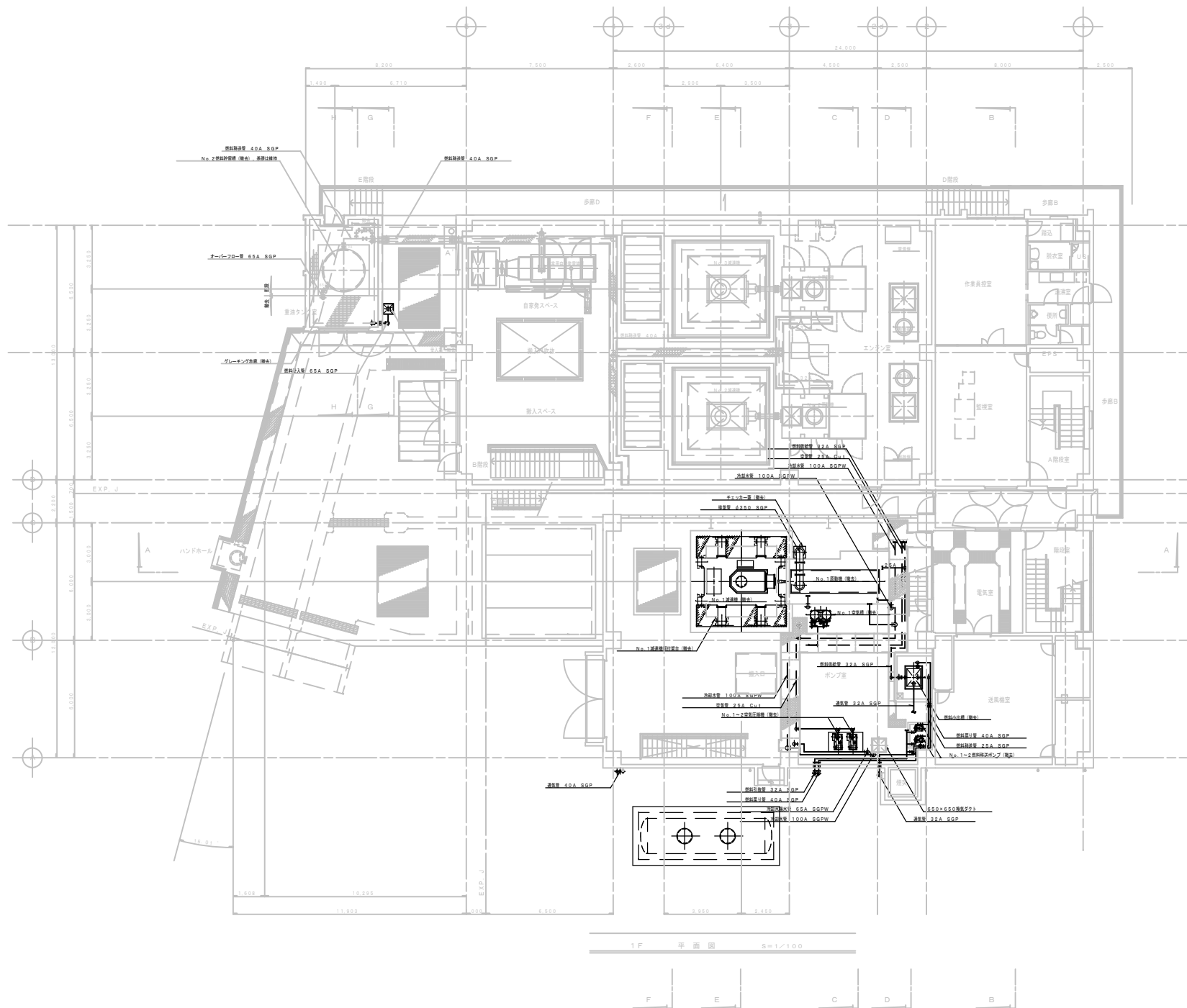


B1F (上部) 平面図 S=1/100

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	M-21	縮尺	1/100
1F 機器配置配管平面図 (撤去)			

設計年月：2026年4月

注 記
 1. 図中 〃 は今回箇所を示す。



1F 平面図 S=1/100

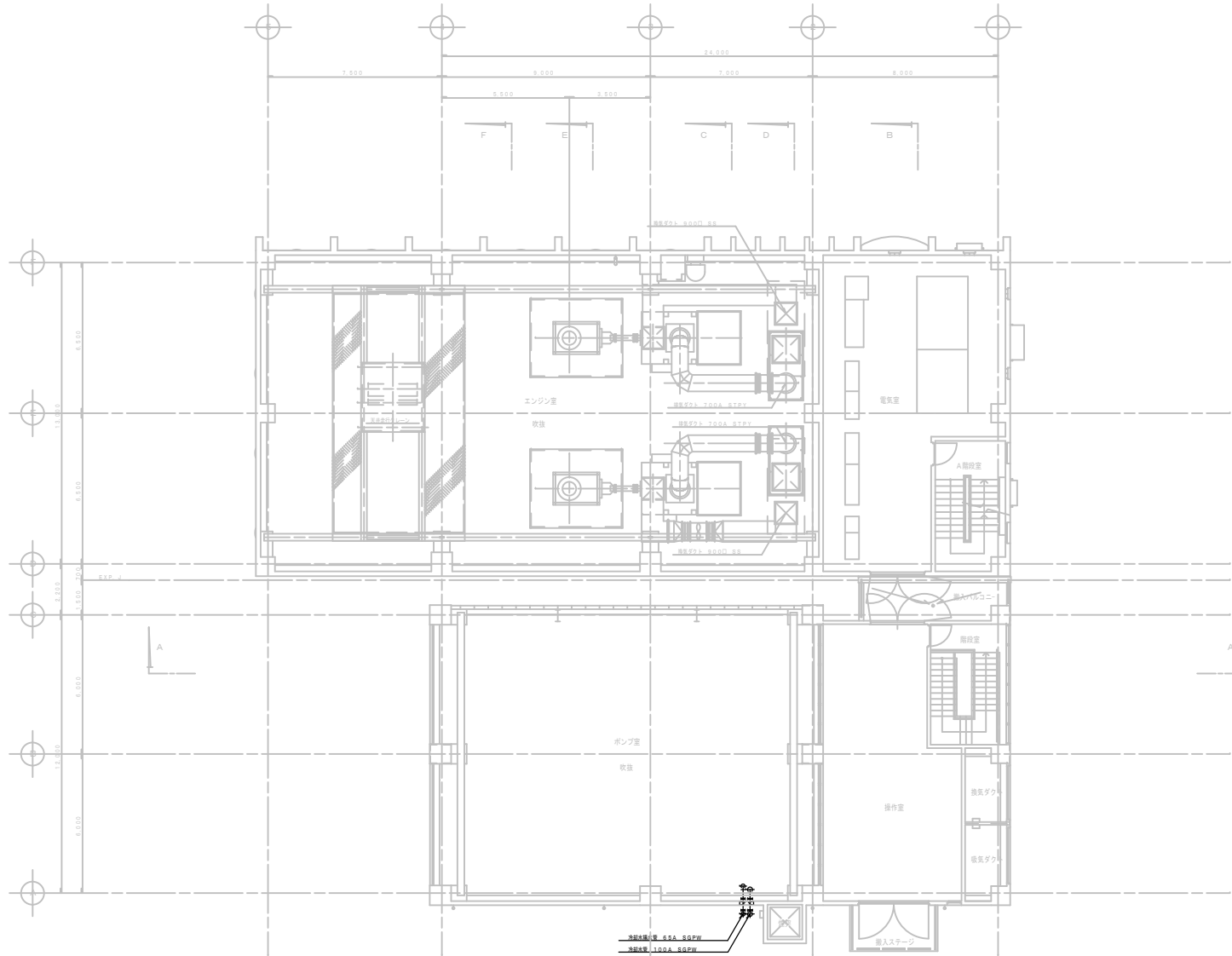
福山市上下水道局

工事名称	新造ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新渡町二丁目及び新渡町四丁目地内		
図面番号	M-22	縮尺	1/100
2F機器配置配管平面図 (撤去)			

設計年月：2026年4月

注 記

1. 撤中 〃 は今回撤去を示す。



2F 平面図 S=1/100



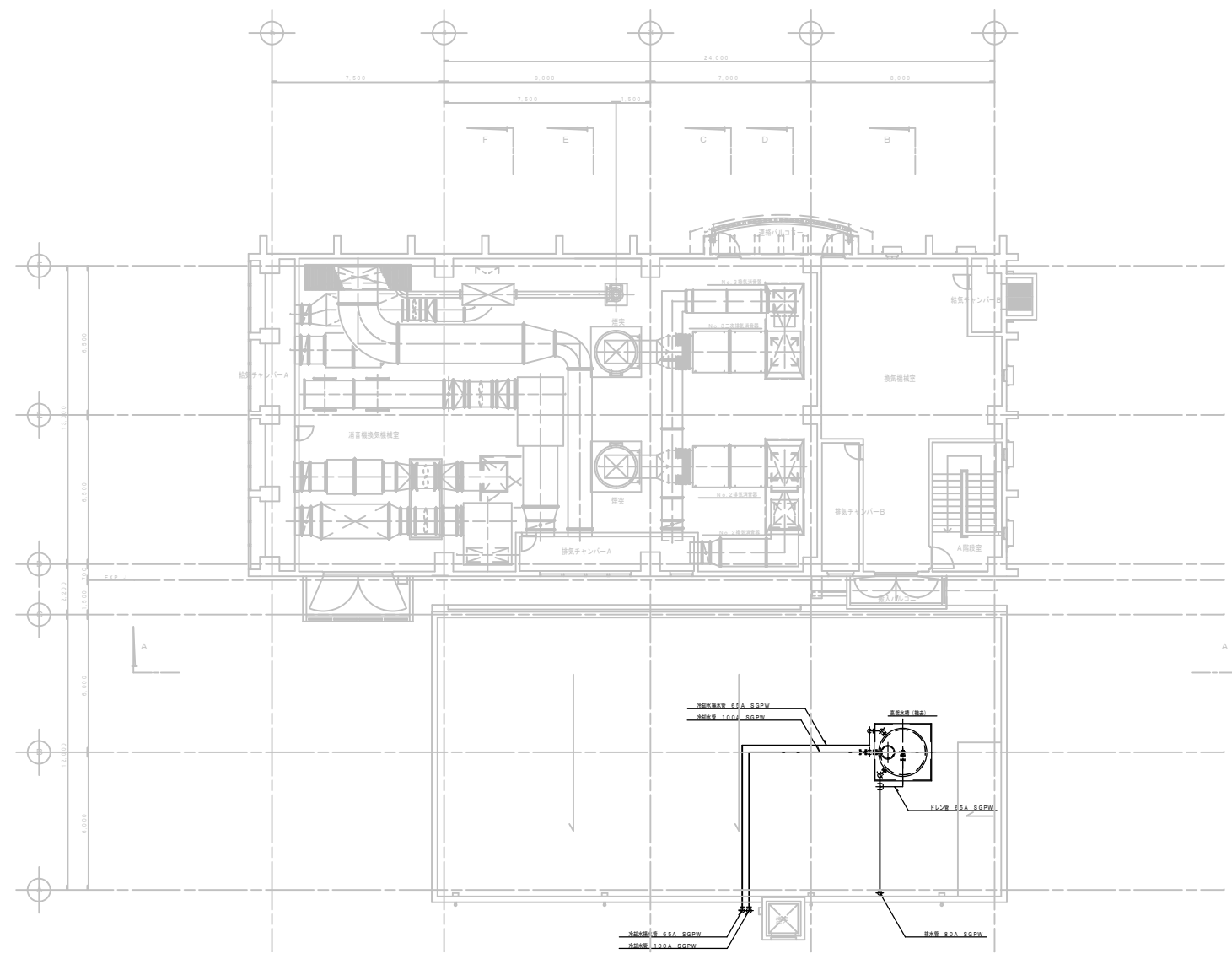
福山市上下水道局

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備改修工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	M-23	縮尺	1/100

3F機器配置配管平面図(撤去)

設計年月：2026年4月

注 記
 1. 撤去 〓 は今回撤去を示す。



3F 平面図 S=1/100



福山市上下水道局

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	M-24	縮尺	1/100
機器配置配管断面図(1) (続き)			

設計年月：2026年4月

注 記
 1. 図中 〃は今回箇所を示す。



A-A 断面図 S=1/100

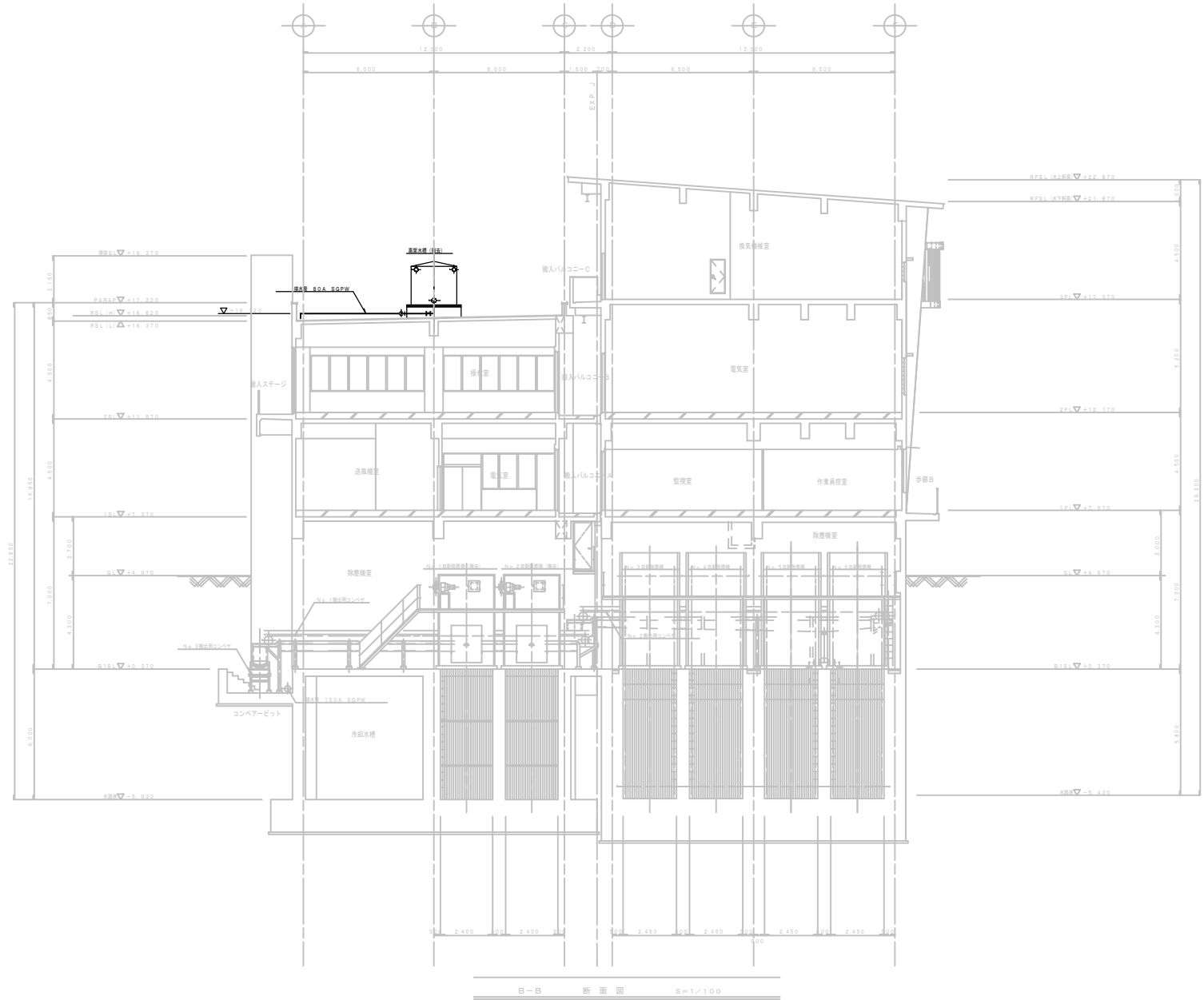
福山市上下水道局

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備改修工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	M-25	縮尺	1/100
機器配置配管断面図(2) (続き)			

設計年月：2026年4月

注 記

1. 図中 — は今回箇所を示す。



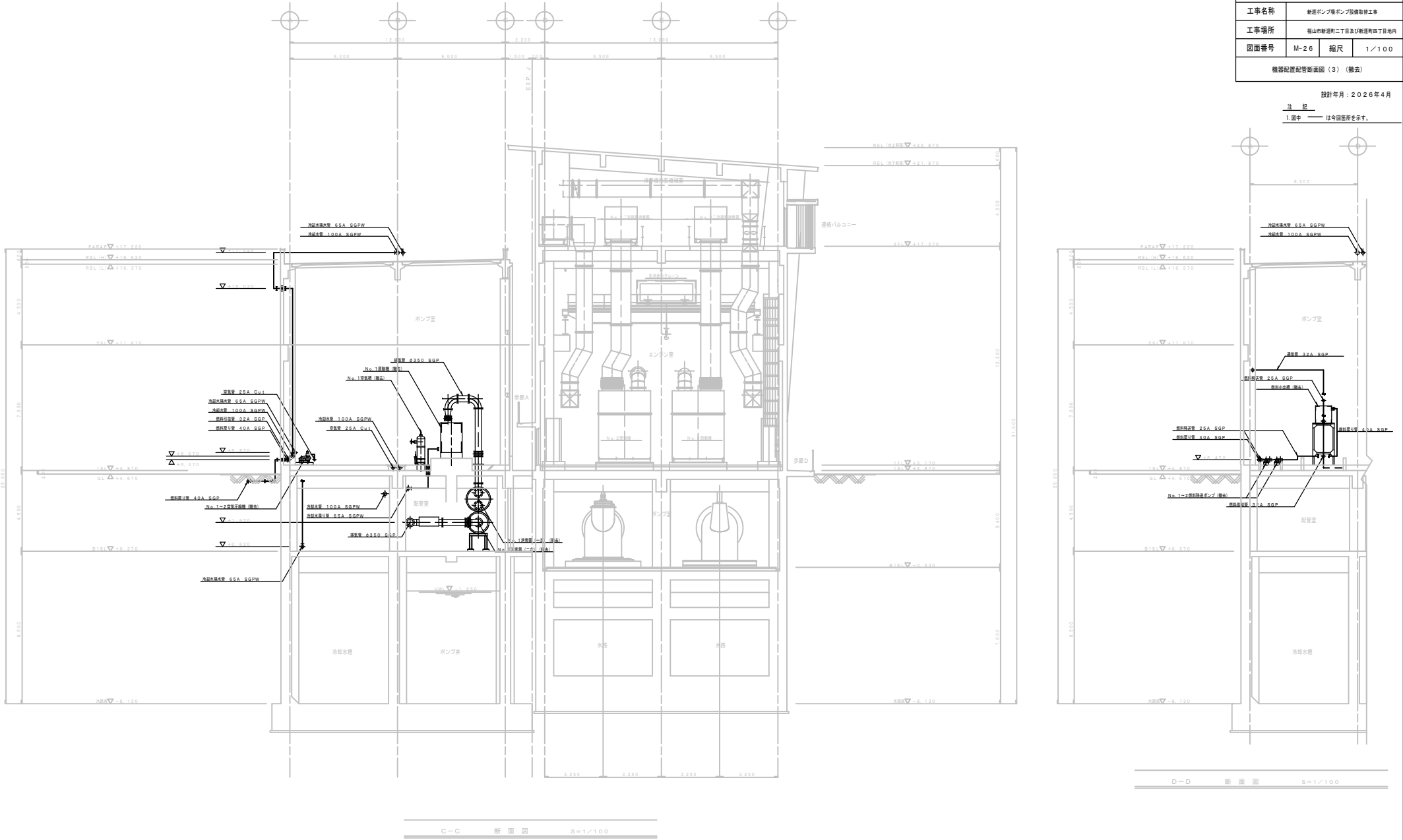
B-B 断面図 S=1/100

福山市上下水道局	
工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備改修工事
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内
図面番号	M-26 縮尺 1/100
機器配置配管断面図(3) (撤去)	

設計年月：2026年4月

注 記

1 撤中 〃 は今回撤去を示す。



C-C 断面図 S=1/100

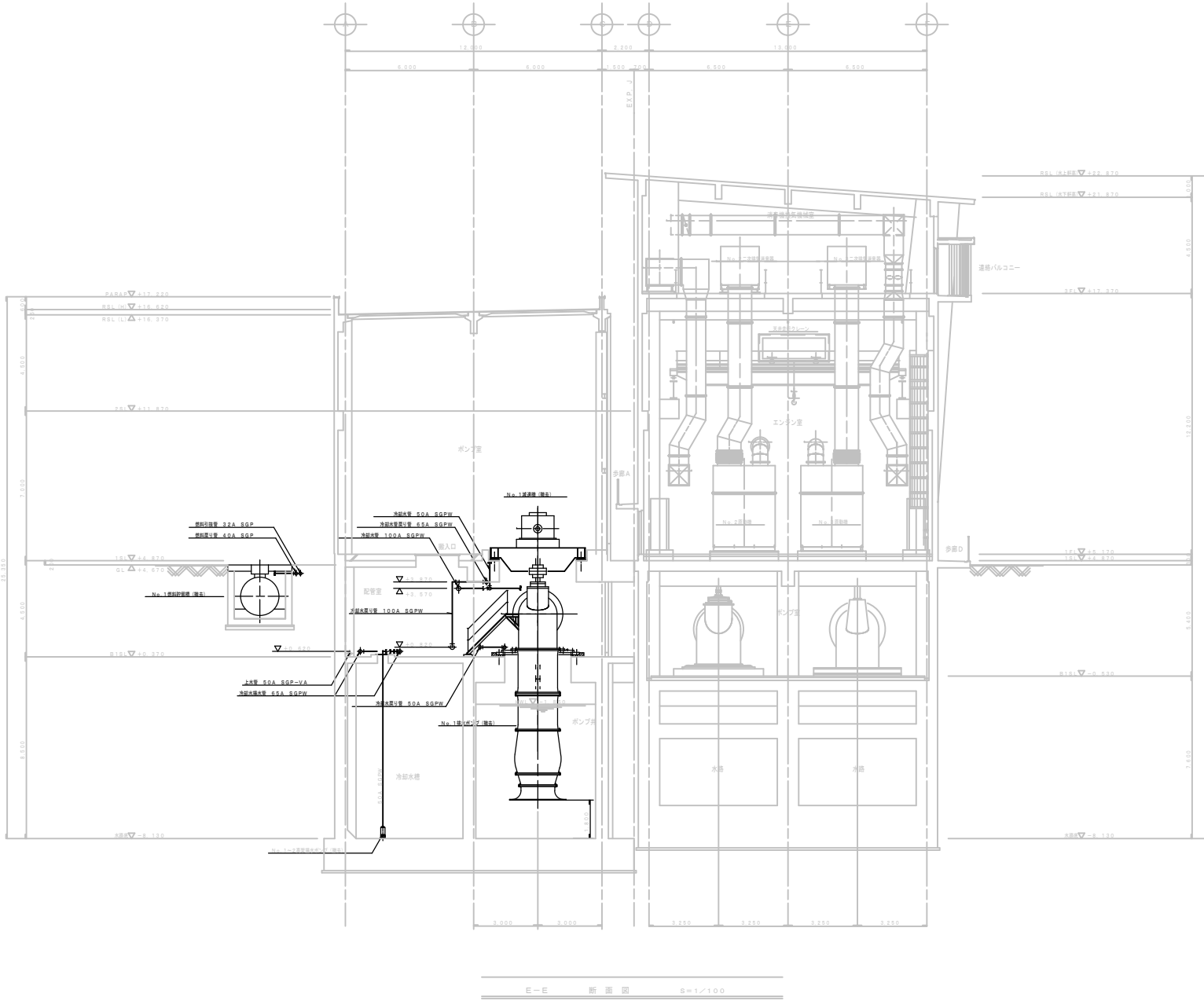
D-D 断面図 S=1/100

福山市上下水道局	
工事名称	新造ポンプ場ポンプ設備取替工事
工事場所	福山市新渡町二丁目及び新渡町四丁目地内
図面番号	M-27 縮尺 1/100
機器配置配管断面図 (4) (撤去)	

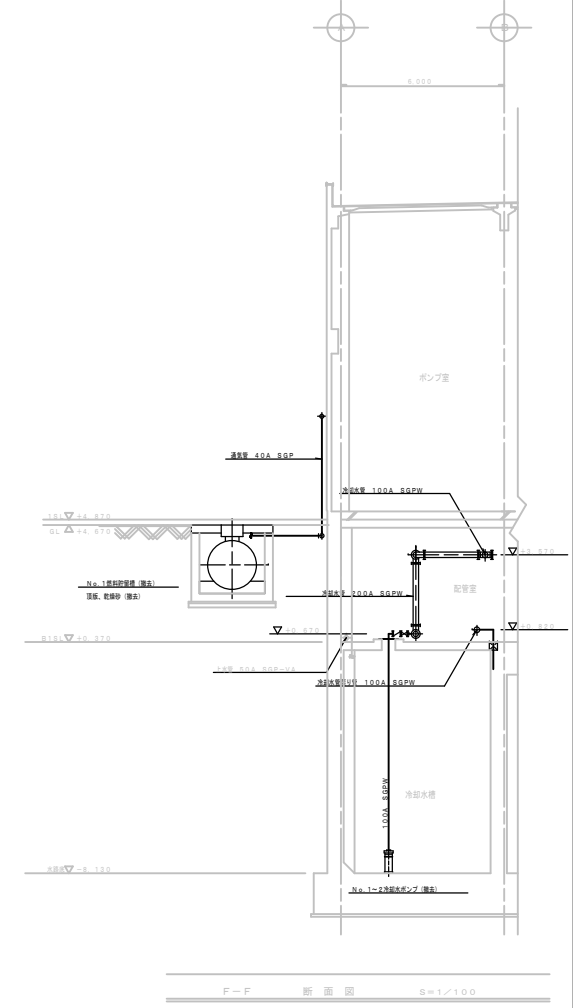
設計年月: 2026年4月

注 記

1 撤中 — は今回撤去を示す。



E-E 断面図 S=1/100



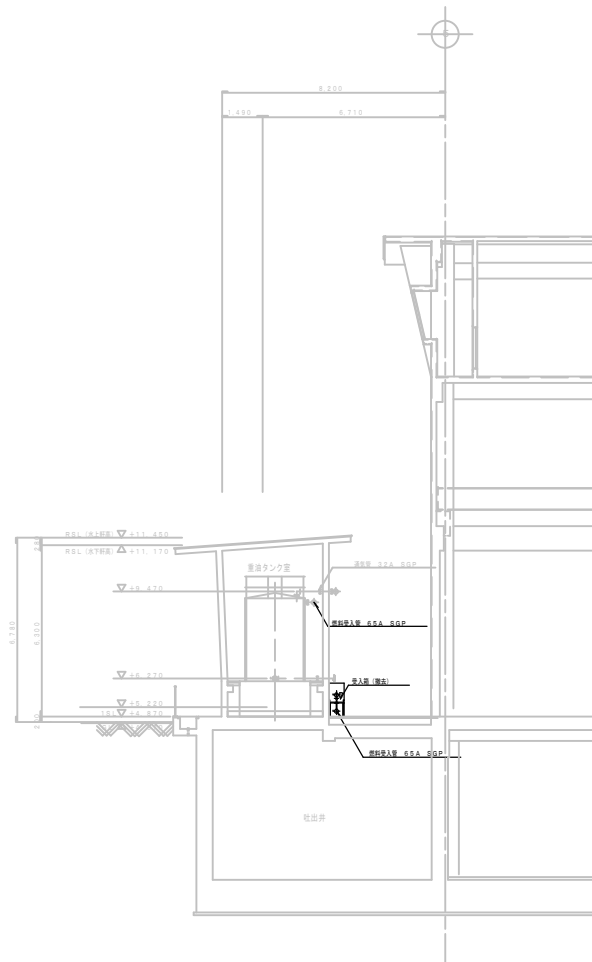
F-F 断面図 S=1/100

福山市上下水道局

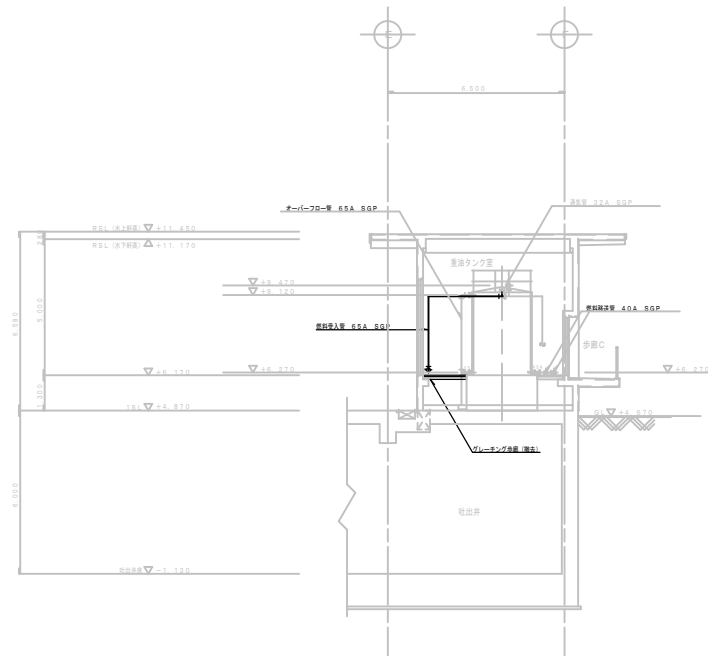
工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	M-28	縮尺	1/100
機器配置配管断面図(5) (撤去)			

設計年月：2026年4月

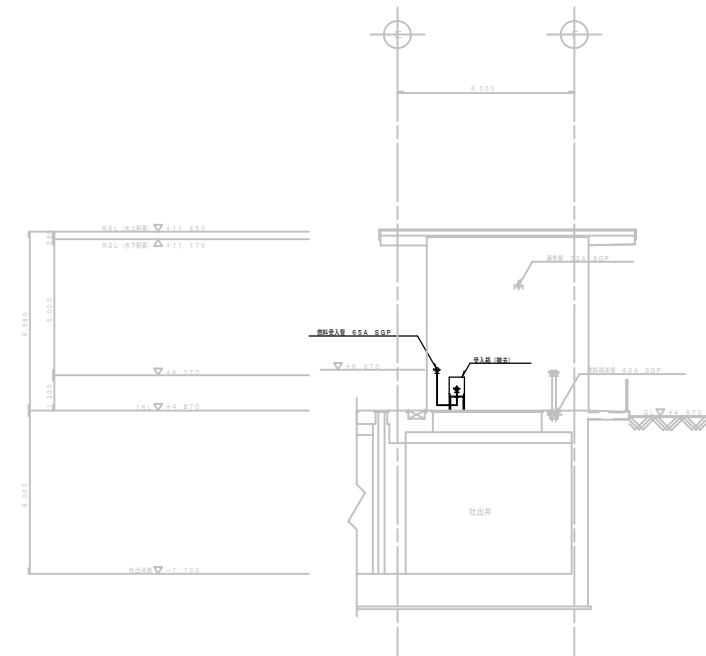
注 記
1. 図中 〃 は今回箇所を示す。



A'-A' 断面図 S=1/100



H-H 断面図 S=1/100



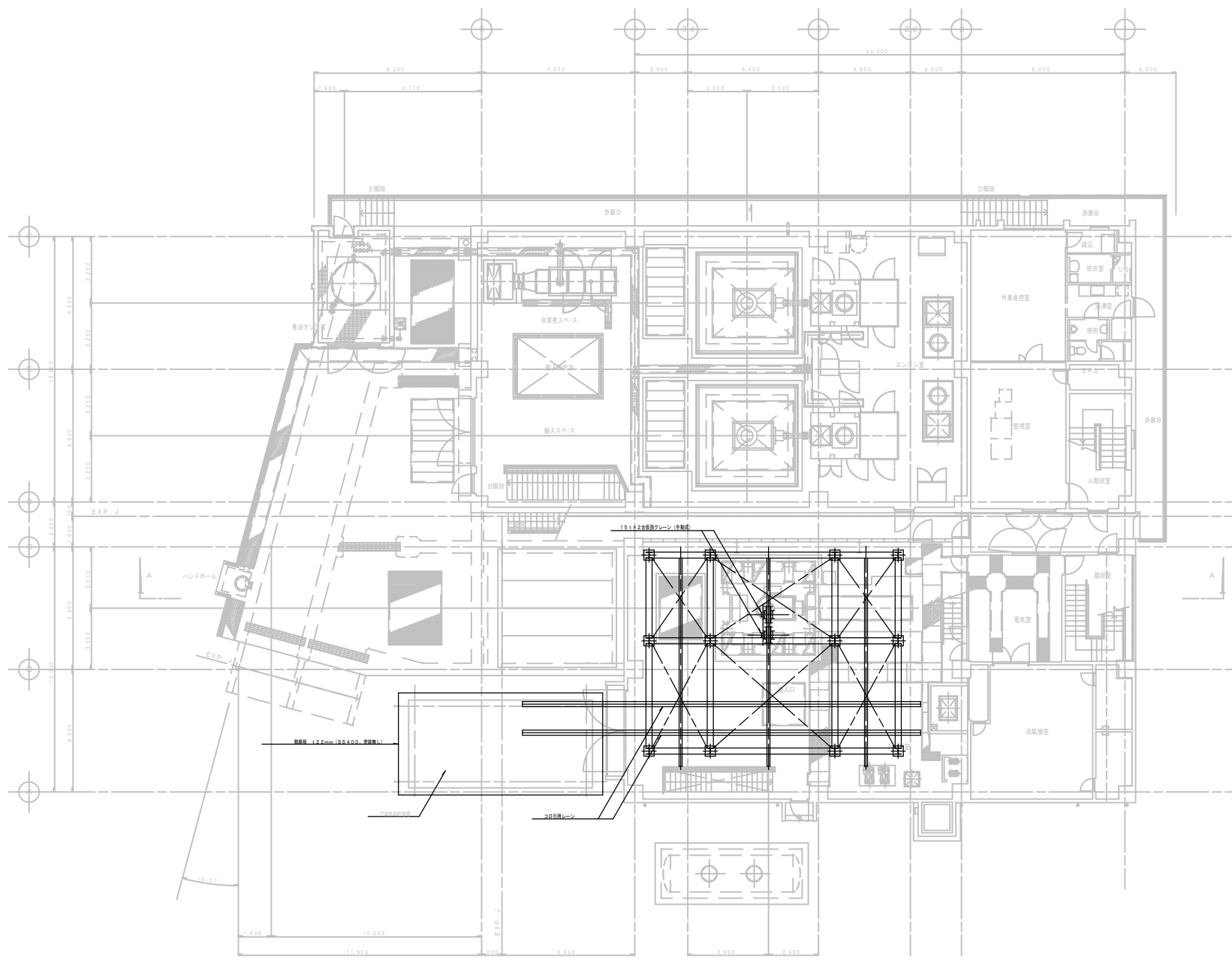
G-G 断面図 S=1/100

工事名称	新造ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新瀬町二丁目及び新瀬町四丁目地内		
図面番号	M-30	縮尺	1/100
ポンプ設備仮設架橋設置平面図 (参考)			

設計年月：2026年4月

注 記
1. 図中 〓 は今回箇所を示す。

<仮設>
施工条件：任意仮設（機器吊り上げの一部指定）
積算用参考図（本図）は任意仮設の積算内容を示したものであり、
工事目的物を完成させるための一切の手段については、受注者の
責任において定めるものとする。



1F 平面図 S=1/100


福山市上下水道局

工事名称	新造ポンプ場ポンプ設置取替工事		
工事場所	福山市新瀬町二丁目及び新瀬町四丁目地内		
図面番号	M-31	縮尺	1/100

ポンプ設備仮設架橋設置断面図 (参考)

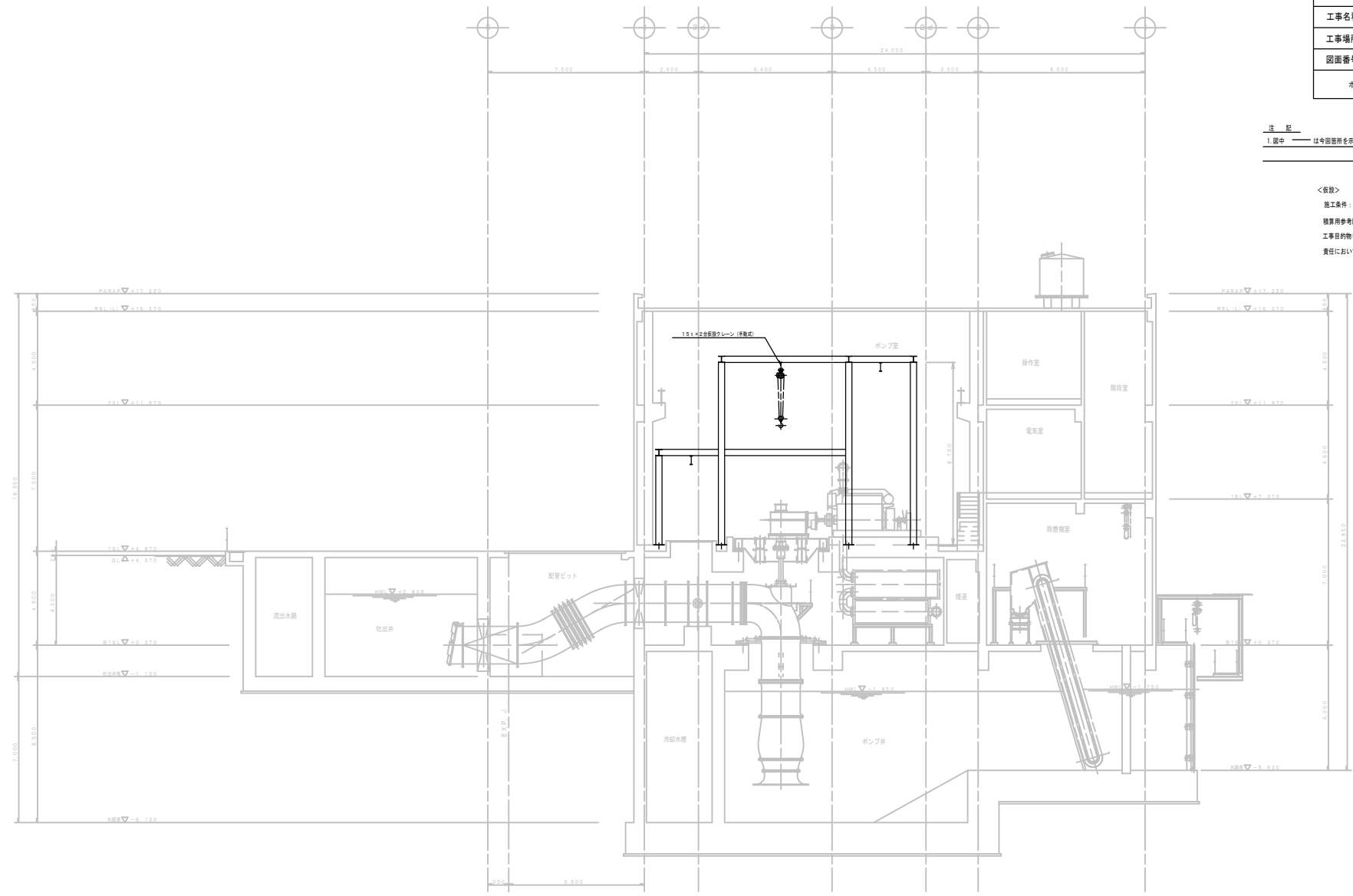
設計年月: 2026年4月

注 記

1. 図中  は今回箇所を示す。

<仮設>

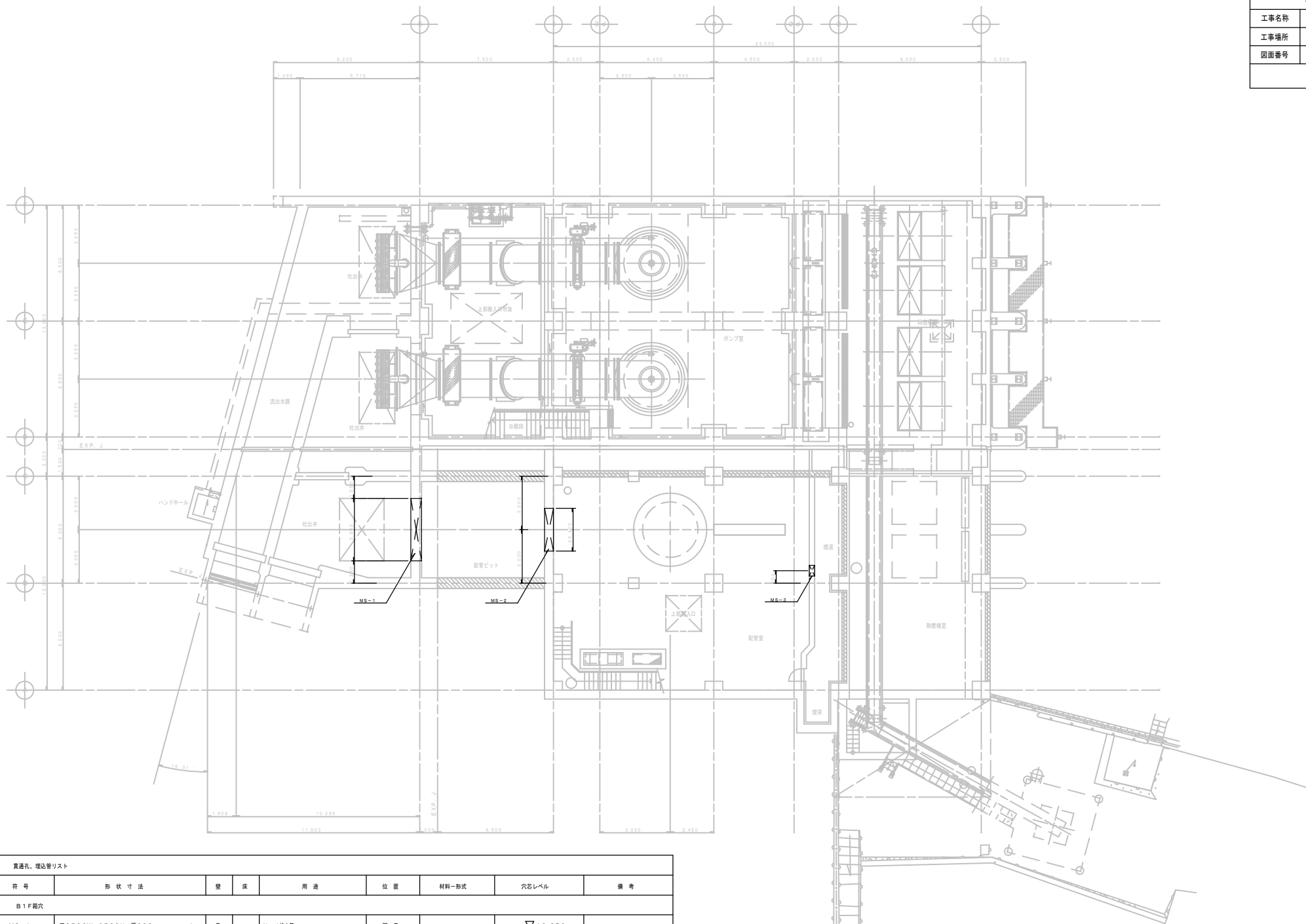
施工条件: 任意仮設 (機器吊り上げの一部指定)
 積算用参考図 (本図) は任意仮設の積算内容を示したものであり、
 工事目的物を完成させるための一切の手段については、受注者の
 責任において定めるものとする。



A-A 断面図 S=1/100

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	参考図1	縮尺	1/100
B1F箱穴図			

設計年月：2026年4月



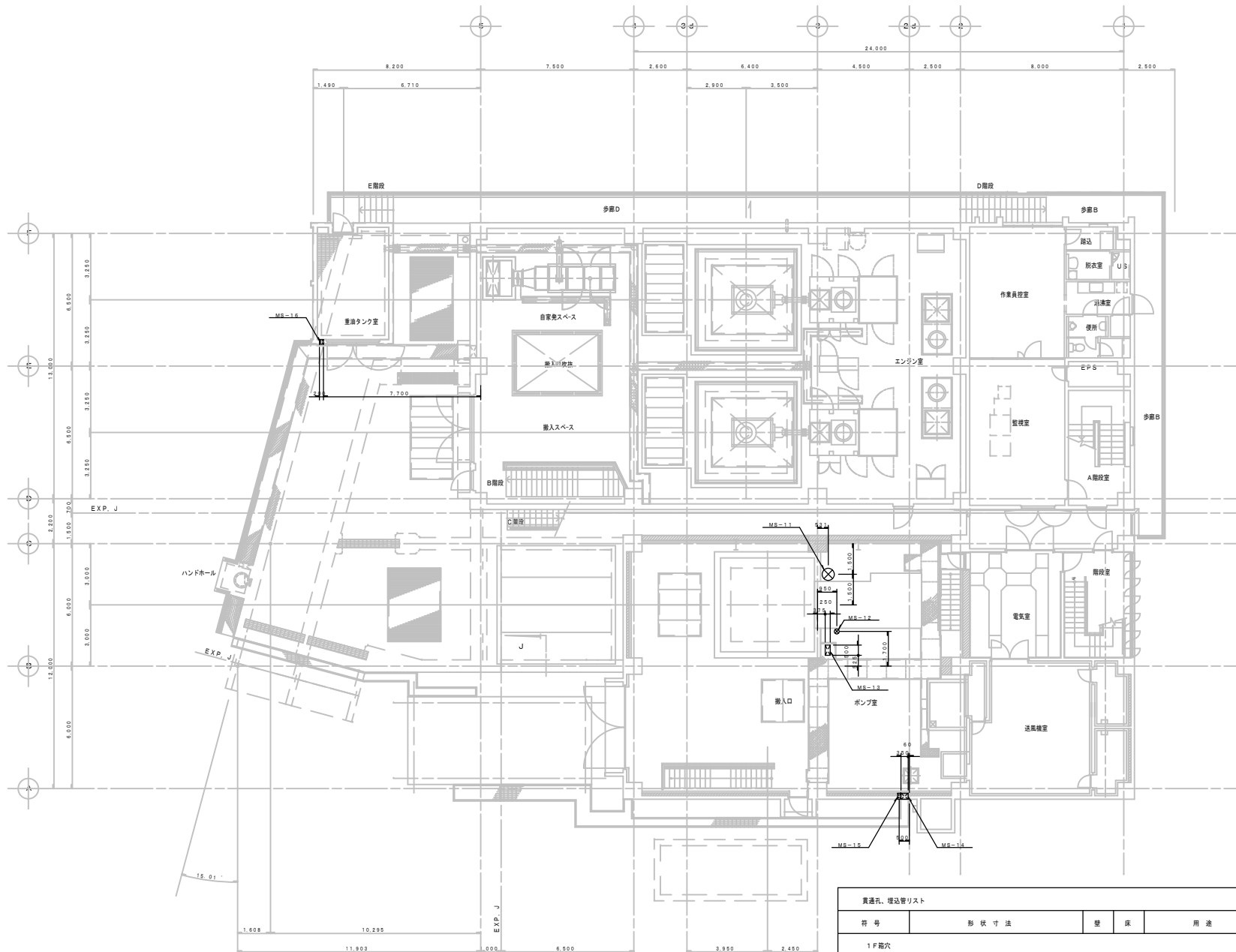
貫通孔、埋込管リスト

符号	形状寸法	壁床	用途	位置	材料-形式	穴芯レベル	備考
B1F箱穴							
MS-1	□3500W×2500H×厚600	×1ヶ	No.1排水管	図示		▽+0.370	
MS-2	φ2400×厚500	×1ヶ	No.1排水管	図示		▽+2.370	
MS-3	φ600×厚300	×1ヶ	排水管	図示		▽+1.970	

B1F 平面図 縮尺 1/100

工事名称	新造ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新渡町二丁目及び新渡町四丁目地内		
図面番号	参考図2	縮尺	1/100
1F箱穴図			

設計年月：2026年4月



貫通孔、埋込管リスト								
符号	形状寸法	壁	床	用途	位置	材料形式	穴芯レベル	備考
1F箱穴								
MS-11	φ600×厚600	×1ヶ	○	排気管	図示			
MS-12	φ200×厚600	×1ヶ	○	冷却水戻り管	図示			
MS-13	□250×500×厚300	×1ヶ	○	冷却水管、冷却水戻り管	図示			
MS-14	□250×200×厚300	×1ヶ	○	燃料引込管、燃料戻り管	図示		▽+5.470	
MS-15	φ150×厚300	×1ヶ	○	透気管	図示		▽+8.970	
MS-16	□200×400×厚200	×1ヶ	○	燃料引込管、燃料戻り管	図示		▽+6.470	

図 面 目 録

(建築)

図 番	図 面 名 称	縮 尺	図 番	図 面 名 称	縮 尺
A-01	建築特記仕様書	NONE	S-01	構造細目建築 (1)	NONE
A-02	建築特記仕様書	NONE	S-02	構造細目建築 (2)	NONE
A-03	建築特記仕様書	NONE	S-03	構造細目建築 (3)	NONE
A-04	建築特記仕様書	NONE	S-04	構造細目建築 (4)	NONE
A-05	建築特記仕様書	NONE	S-05	構造細目建築 (5)	NONE
A-06	建築特記仕様書	NONE	S-06	構造細目建築 (6)	NONE
A-07	建築特記仕様書	NONE	S-07	杭リスト・杭伏図・基礎リスト(オイルタンク)	1/30, 50, 100
A-08	建築特記仕様書	NONE	S-08	伏図(オイルタンク)	1/50
A-09	建築特記仕様書	NONE	S-09	軸組図(オイルタンク)	1/50
			S-10	部材リスト	1/50
A-11	配置図	1/150			
A-12	地下燃料タンク 平面・断面図	1/50			
A-13	場内撤去復旧整備図	1/100			
A-14	場内撤去復旧整備部分詳細図	1/20, 5			
A-15	既存地下燃料タンク撤去図	1/50			
A-16	土工計画図	1/100			

福山市建築工事特記仕様書

1. 工事概要
1. 工事場所 広島県福山市新道町二丁目及び四丁目内 (新道ポンプ場)
2. 敷地面積 m2
3. 工事種目 (1) 地下燃料タンク室、施工面積 38.7m2 新設/基
(2) 既設燃料タンク 撤去/基
(3) 構内復旧整備 1式
(4)
(5)
4. 工事範囲
※「3. 工事種目」全てを工事範囲とする。
「3. 工事種目」のうち の全てを工事範囲とする。
「3. 工事種目」のうち (1)(2)(3) の工事範囲は次表のとおりとする。
ただし、その他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

工事種目 工事範囲
(2) 仮設工事
(3) 土工事
(4) 地盤工事
(5) 鉄骨工事
(6) コンクリート工事
(7) 鉄骨工事
8 コンクリートブロック・ALCのバルコニー及び壁成形セメント板工事
9 防水工事
10 石工事
11 タイル工事
12 木工事
13 屋根及び土間工事
14 金属工事
(15) 左官工事
16 建築工事
17 カーテンウォール工事
18 塗装工事
19 内装工事
20 ユニツト及びその他の工事
(21) 排水工事
(22) 舗装工事
23 積載及び懸上積上工事

- II 工事仕様
1. 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大宮官庁庁舎建替補助の「公共建築工事標準仕様書(建築工種編)令和7年版」(以下「標準仕様書」といふ。)による。
2. 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を用いる。
なお、電気設備工事の特記仕様書は() 図、機械設備工事の特記仕様書は() 図による。
3. 特記仕様書の適用は以下の通り。
(1) 項目は、○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かないものは、※印の付いたものを適用する。
○印と ⊕印の付いた場合は、共に適用する。
(3) 特記事項に記載の() 内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

III 福山市建築工事仕様
本特記仕様書において、「監督職員」と記載があるものは「監督員」と読み替えるものとする。
本工事の工期は、取壊工事の工期及び工事検査期間として14日とされている。
本工事は、法定外の労災保険を念んでいる。

1. 官公署の手続き
受注者は、発注者が行うとされている関係官公署への必要な手続きを代行する。(官公署手続きは監督職員の承諾とする。)
2. 施工中の安全確保
本工事は、交通誘導員として 人を見込んでおり、交通誘導員の配置については、実施要領(原簿)及び取壊状況の分かる立会写真の撮影を行い監督職員に提出する。
3. 監理(主任)技術者
現場代理人及び監理(主任)技術者は、工事現場内において工事名、工期、写真、所属会社名及び証明印の入った名札を着用する。
4. 別契約の関連工事との調整等
・ 施工範囲は「工事区分表」による。
・ 別契約の関連工事受注者が現場まで出向する場合は無償とする。
・ 別契約の関連工事受注者とご都合の合わない場合を事前に行う。
5. 施工管理
※ 施工体制台帳の写しを提出する。
6. 施工図及び施工計画書
提出した施工図及び施工計画書の写しに添った当該建物に関する使用後は、発注者に移すものとする。
7. 保証書
次の工事について保証書を出す。
表: 工事区分、材料名、保証年数、備考
8. 引渡し後点検
引渡し後、次の点検を行う。(○印の付いたものを適用する。)
・ 引渡し後点検(第1次点検) 引渡し後約1年後
・ 引渡し後点検(第2次点検) 引渡し後約2年後

表: 項目、特記事項
1. 一般事項
適用標準等
図面、本特記仕様書、標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。
(1) 建築物解体工事共通仕様書(令和4年版) 国土交通省大宮官庁庁舎建替補助
(2) 建築工事写真撮影要領(令和5年版) 国土交通省大宮官庁庁舎建替補助
(3) 建築工事標準仕様書(令和4年版) (以下「標準仕様書」といふ) 国土交通省大宮官庁庁舎建替補助
2. 工事業績情報システム
登録
○ する
(1.1.4)
3. 書類の書式及び取扱い
情報共有システムの適用及び機能要件
○ 適用する
(1.1.5)
機能要件 (・ 現場説明書による)
4. 関連法令等の遵守
法令等の適用区分
遵守
(1.1.13)
建築基準法等に基づき風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
・ 風速力
高さ(0≦m≦6)
・ 地表粗糙度区分(・ I ・ II ・ III ・ IV)
・ 積雪荷重
平成12年6月31日建設省告示第1455号における区域別表()
5. 遠隔現場の実施
遠隔現場の適用及び実施内容
(1.1.14)
・ 適用する
実施内容 (・ 現場説明書による ・)
6. 実施工程表
概成工期
(1.2.1)
・ 有り (・ 現場説明書による ・) ・ 無し
7. 工事の記録等
報告に用いる書式等
(1.2.4)
・ 現場説明書による ・
・ 標準仕様書 1.2.4(4) により整備する工事写真については次による
「建築工事写真撮影要領」による工事写真撮影ガイドブック(建築工種編)及び解体工事編 令和5年版
国土交通省大宮官庁庁舎建替補助監理
・ 写真等、工事写真等
・ カンテンドール(カラー)
提出仕様 (※ A4判用紙、若しくはA4判写真用紙)
提出部数 (※ 1部)
8. 電気保安技術者
配置
(1.3.3)
・ する
9. 施工条件
標準仕様書 1.3.5(1)以外の施工条件
(1.3.5)
・ 現場説明書による
10. 発生材の処理等
処理等
(1.3.11)
・ 発注者に引渡しを要するもの
・ 現場説明書による
・ 特別管理指定産業廃棄物の種類及び処理方法
・ 現場説明書による
11. 工事現場における車両及び再資源化を図るもの
・ 現場説明書による
12. 建設前産物情報交換システム(COBRIS)
(財)日本建設情報総合センター
本工事は登録対象工事であるため、発注者は、施工計画時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は、速やかに当該システムにデータの登録を行うものとする。
また、建設リサイクル法に規定する建設資材を搬入(搬出)する場合は、次表により計画書(実施書)を提出する。なお、これにより異なる場合は、監督職員と協議する。
表: 施工計画書、施工完了時
搬入 再生資源利用計画書 再生資源利用実施書
搬出 再生資源利用促進計画書 再生資源利用促進実施書
※ 本工事で発生する建設廃棄物のうち、広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については、広島県産業廃棄物処理税が課税される。
なお、本工事で広島県産業廃棄物処理税負担額を念んでいる。
13. 材料の品質等
品質等
(1.4.2)
(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、適するべき品質及び性能を有するものとする。
(2) 標準品に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。
(3) 標準仕様書に記載されていない特別仕様の材料の工法については、材料製造者の指定する工法とする。
(4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造業者等は、次の①～④の事項を満たすものとし、その証明となる資料(外部機関(一社)公共建設協会が発行する「建築材料・設備機材等品質評価書」)の評価書の写し等を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。
② 生産履歴及び品質の管理を適切に行っていること。
③ 安定的な供給が可能であること。
④ 法令等が定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。
(5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料
○ 一般に 公共建設協会の「建築材料・設備機材等品質評価書」において評価書が発行されている材料
定形積層板用電子シールド材、積層板下敷板用モルタル、集塵器用グラウト材、射出成形セメント板、成形積層目地材、乾式断熱材、セラミックタイル、既設合モルタル、既設合目地材、ルーフトン、破断断熱材、防水用アルミニウム製積層材(コンクリート系下地及び鉄骨下地)、樹脂製断熱材(コンクリート系下地及び鉄骨下地)、鋼製断熱材、鋼製軽集積材、ステンレス製断熱材、磁気断熱、クローラゲ、自動ドア機構、自動仕上り引戸機構、重要シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、ガラス、現場発泡断熱材、フリークアセンプラ、可動開閉窓、移動開閉窓、トレリス、揮発用成形ライニング材、天吊り金具、固定金具、ブレーキング、壁上げシステム、トップブラック、ポリマーセメントモルタル、鉄線製ふた
14. 技能士
適用する技能検定の種別及び作業の種別は次表による。(1.5.2)
表: 技能士
適用する技能検定の種別 種別 技能検定の作業の種別
15. 防水工事
防水施工
(1.5.5)
・ アスファルト防水工事
・ ウレタンゴム系遮水性防水工事
・ アクリルゴム系遮水性防水工事
・ 合成ゴム系シート防水工事
・ 塩化ビニル系シート防水工事
・ セメント系防水工事
・ シーリング防水工事
・ 遮水性アスファルトシート工法防水工事
・ 遮水性アスファルトシート常速粘着工法防水工事
・ 珪藻土防水工事
16. 土工事
土工事の実施
(1.5.6)
・ する(適用箇所) ・ 現場説明書による
・ しない
17. 総合計画と調整
関連工事との総合計画と調整
(1.5.7)
・ 行う(適用箇所) ・ 現場説明書による
18. 化学物質の濃度測定
濃度測定の実施
(1.5.10)
・ 適用する
測定時期 ・ 現場説明書による
測定対象化学物質
ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、ステレン
測定方法
・ ハッシュ型採取機器による
測定対象室及び測定箇所
・ 現場説明書による
19. 技術検査
中間技術検査
(1.6.2)
・ 実施回数()回
・ 実施する段階()
◎ 工事請負契約締結後、監督職員から通知
20. 完成時の提出図書
提出図書
◎ 標準仕様書 1.7.2及び1.7.3による
21. 完成図
種類、記入内容等
(1.7.2)(表1.7.1)
◎ 標準仕様書 表1.7.1による
提出部数()部
提出仕様(・ 紙ベース ○ 電子データ ・)
◎ 竣工図
選や次に次の図書を提出する。
○ 完成図 ・ 竣工図
◎ A3判を2つ折りにして製本 2部
◎ 電子データ提出 一部
一部(福山市様式工図電子データ作成要領による。)
◎ CADデータ(図録(CD-R等)、データ形式等は監督職員の指示による。)
22. 安全に関する資料
作成等
(1.7.3)
提出部数()部
提出仕様(・ 紙ベース ・ 電子データ ・)
23. 完成写真
工事完成時(次の完成写真を撮影し、監督職員に提出する。)
撮影箇所 (外景4箇 ・ 各々4箇所)
撮影仕様 (形式: ※ 電子データ JPEGフルカラー ・)
画質等: ・ 外景 4500×3000ピクセル以上で画像補正を行ったもの
・ 各室 1280×960ピクセル以上かつデジタルカメラの設定のうち数値の画質
提出仕様 (◎ 電子データ ・ アルバム(A4判程度) 1部 ○ 写真集 1部)
検査後14日以内に提出する。
電子データ形式等は、監督職員の指示による。
24. 設計G/L
図示による
○ 図示による

表: 項目、特記事項
2. 監督職員事務所等
建物
・ 設置しない
・ 焼損、仕上げの程度
・ 現場説明書による
設備
・ 監督職員との協議による
・ 備品等の種別及び数量
・ 現場説明書による
3. 工事用水
構内既存の施設
・ 利用できない ○ 利用できる(・ 有償 ・ 無償)
4. 工事用電力
構内既存の施設
・ 利用できない ・ 利用できる(・ 有償 ・ 無償)
5. 監督職員事務所等
(2.3.1)
6. 建築工事特記仕様書 No-1
福山市上下水道局施設整備課
監理名称
建築工事特記仕様書 No-1
福山市上下水道局施設整備課
印刷
2026年 4月
組尺率 原簿No.
A1=100%
A2=71%
A3=50%

表: 項目、特記事項
2. 監督職員事務所等
(2.3.1)
3. 建築工事特記仕様書 No-1
福山市上下水道局施設整備課
印刷
2026年 4月
組尺率 原簿No.
A1=100%
A2=71%
A3=50%

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	
3	○ 埋戻し及び盛土	材料及び工法 ※ 標準仕様書 表 3. 2. 1 による ○ A 種 施工箇所 ((1) 地下部材料タンク室) ○ B 種 施工箇所 ((1) 地下部材料タンク室、(2) 既設燃料タンク) ○ C 種 施工箇所 () 土質 () 受渡場所 () D 種 施工箇所 ()	(3. 2. 3) (表 3. 2. 1)	4	○ 一般事項	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)	5	○ 一般事項	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)
	○ 建設発生土の処理	処理 ○ 横外搬出 (搬出先: 福山市能野町宇山甲8221) ・ 構内指定場所へ搬移 ・ 構内指定場所へ搬出し	(3. 2. 5)		○ 一般事項	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)		○ 一般事項	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)
4	○ 一般事項	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)	5	○ 一般事項	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)	6	○ 一般事項	○ 特記仕様書 (構造関係) による (6. 2. 1 ~ 6. 2. 4) (表 6. 2. 2)	
	○ 既製コンクリート杭地業	材料 杭の種類 ・ 遠力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭) ・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭) ・ 外筋鋼管付きコンクリート杭 (SC杭) SC杭の鋼管材料 ・ S35400 ・ S30490 杭の性能及び曲げ強度等による区分等 ・ 明示による 杭の寸法、継手の箇所等 ・ 明示による 杭先掘削杭 ・ 開削杭 ・ 半開削杭 ・ 閉そく杭 工法 ・ セメントミルク工法 ・ 開削杭 ・ 杭の支持層への埋入れ長さ ・ 明示による 杭の水平方向の位置ずれ精度 ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 杭間の埋戻し ・ 標準仕様書 4. 3. 4 (6) (コ) による ・ 特定埋込杭工法 ・ プレボーリング拡大根拠の工法 ・ 中継り拡大根拠の工法 ・ 平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式で $\alpha=250$ を採用できる工法 ・ 平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式のうち、 α 、 β 、 γ が以下の値を採用できる工法 $\alpha=()$ 、 $\beta=()$ 、 $\gamma=()$		(4. 3. 3)	○ 一般事項		○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)	○ 一般事項	○ 特記仕様書 (構造関係) による (6. 2. 1 ~ 6. 2. 4) (表 6. 2. 2)
5	○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)	6	○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)	7	○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (6. 2. 1 ~ 6. 2. 4) (表 6. 2. 2)	
	○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)		○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)		○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (6. 2. 1 ~ 6. 2. 4) (表 6. 2. 2)	
6	○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)	7	○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)	8	○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (6. 2. 1 ~ 6. 2. 4) (表 6. 2. 2)	
	○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)		○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (4. 2. 1)		○ 現場改良 (掘削)	○ 特記仕様書 (構造関係) による (6. 2. 1 ~ 6. 2. 4) (表 6. 2. 2)	

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事
図面名称	建築工事特記仕様書 No-2
依頼	福山市上下水道局施設整備課
期	2026年 4月
設計	INJNS
縮尺率	A1=100
A2=	75%
A3=	50%

Table with columns for project items (e.g., 改質アスファルトルーフィングシート), specifications, and notes. Includes sections for waterproofing, drainage, and structural requirements.

Table with columns for project items (e.g., 遮熱防水), specifications, and notes. Includes sections for insulation, waterproofing, and material requirements.

Table with columns for project items (e.g., 外壁遮熱工法), specifications, and notes. Includes sections for exterior wall insulation, waterproofing, and material requirements.

Table with columns for project items (e.g., シーリング材の目地工法), specifications, and notes. Includes sections for joint treatment, waterproofing, and material requirements.

Table with project details: 福山市上下水道局施設整備課, 建築工事指図書 No-4, 期別 2.026年 4月, 組比率 A1=100%, A2=71%, A3=50%, 図面No.

Table with 3 columns: Item (e.g., 12 基礎工事), Description, and Remarks. Includes sections for foundation work, reinforcement, and other construction details.

Table with 3 columns: Item (e.g., 13 屋根及び土間工事), Description, and Remarks. Includes sections for roofing, floor work, and wall construction.

Table with 3 columns: Item (e.g., 14 金属工事), Description, and Remarks. Includes sections for metal work, wall cladding, and roof cladding.

Table with 3 columns: Item (e.g., 15 設備工事), Description, and Remarks. Includes sections for plumbing, electrical, and other utility work.

Summary table for construction specifications, including project name (福山市上下水道局施設整備課), date (2026年 4月), and scale (A1=100%, A2=75%, A3=50%).

No.	項目	特記事項
16	自動ドア開閉装置	性能・機能 戸の開閉方式 ・ 図示による (16.9.2) 自動ドア開閉装置の性能 駆動装置の性能 ※ 引き戸用駆動装置の場合、標準仕様書表16.9.1による 防振 ・ 適用する ・ 適用しない 乗降者使用者乗降用出入口の引き戸用駆動装置の性能 ※ 標準仕様書表16.9.2による 防振 ・ 適用する ・ 適用しない 換気装置の性能 ※ 引き戸用換気装置の性能は標準仕様書表16.9.3による 防振の ・ 適用する ・ 適用しない 引き戸用換気装置の種類 (16.9.2)(表16.9.4) 種類 ・ 光線 (反射) センサー ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 光電センサー ・ 電波センサー ・ タッチスイッチ ・ 無接触タッチスイッチ ・ 光電式タッチスイッチ ・ 押しボタンスイッチ ・ 乗降者使用者乗降用操作スイッチ ・ 大型 (閉) 押しボタンスイッチ ・ 歩検知スイッチ 連絡防止装置 (16.9.2) ・ 適用する ・ 適用しない
	自閉式上り引戸装置	性能 (16.10.3) ※ 標準仕様書表16.10.1による ・ 図示による
	重量シャッター	形式及び仕様 (16.11.2) シャッターの種類 ・ 管用用シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター 防振シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッター 耐風圧強度 () Pa 開閉方式の種類 (16.11.2)(表16.11.1) ※ 電動式 (手動併用) ・ 手動式 安全装置の設置箇所 (16.11.2) 急降下制御装置又は急降下停止装置の設置箇所 図示による 障害物知覚装置の設置箇所 ・ 図示による 危険防じん装置の設置箇所 ・ 図示による 管用用シャッターのシャッターレース (16.11.2) ・ 図示する ・ 図示しない
軽量シャッター	形式及び仕様 (16.12.2) 開閉方式 (16.12.2)(表16.12.1) ※ 手動式 ・ 電動式 (手動併用) 耐風圧強度 () Pa 電動式の場合の安全装置 急降下停止装置 図示する () 図示による () 図示しない	
	障害物知覚装置の設置箇所 (16.12.3) 図示による () 図示による	
	材料 (16.12.3) スラットの材質の種類 JIS G 3312 (専ら磨面磨めつき鋼板及び鋼管) めっき付帯厚 ※ Z12又はF12 JIS G 3332 (専ら磨面磨めつき鋼板及び鋼管) めっきの付帯厚 ※ A230 スラットの形状 ・ インターロック形状 ・ オーバerring形状	
オーバーヘッドドア	区分、材料 (16.13.2)(表16.13.3) セクション材料による区分 風圧区分 (Pa) 開閉方式による区分 収納形式による区分 ガイドレールの材料 (Pa) ※ スチールタイプ ・ 125 ※ パラシティ型 ・ スタンダード型 ※ 磨面磨めつき鋼板 ・ アルミニウムタイプ ・ 100 ・ チェーン式 ・ ローペド型 ・ ステンレス鋼板 ・ ファイバーグラス ・ 75 ・ 電動式 ・ ハイリフト型 ・ タイプ ・ 50	
ガラス	電気の障り物知覚装置の設置箇所 (16.14.2) 図示による () 適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組合せは建具表及び図示による。 ・ フロート板ガラスの品質及び厚さの呼びによる種類 図示 (※ 建具表) による ・ 窓ガラスの厚さによる種類 図示 (※ 建具表) による ・ 納入板ガラス及び納入板ガラス 網又は線状の板、表裏の状況、厚さの呼びによる種類 図示 (※ 建具表) による ・ 合わせガラス 材料ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの台厚、特性による種類 図示 (※ 建具表) による ・ 強化ガラス 形状による種類、材料ガラスの種類、厚さの呼びによる種類、特性による種類 図示 (※ 建具表) による ・ 熱線吸収ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類、性能による種類 ※ 標準仕様書表17.2.1による ・ 複層ガラス (表6.10.1) 材料ガラスの種類、厚さの組合せ、複層ガラスの厚さ、断熱性による区分、日射取得性及び日射遮蔽性による区分、図示 (※ 建具表) による ・ 熱線反射ガラス 材料ガラスの種類、厚さによる種類、日射遮蔽率による区分 図示 (※ 建具表) による	

No.	項目	特記事項
17	取得方法、性能等 (17.1.3)	性能 耐風圧性 耐水平向 耐垂直向 水密性 気密性 耐火性 耐温度 耐電圧 遮音性 断熱性 (kN) (kV) (kV) (°C) (°C) (dB) めっき付帯厚 ※ 1.0 ・ 0.5 ※ SUS304, SUS430HL又はSUS443J1
	性能の確認方法及び特定方法 (17.1.3)	性能の確認方法及び特定方法 ※ 監督官の確認による
	適用は以下によるほか、カーテンウォールに関する (17.2.2)	適用は以下によるほか、カーテンウォールに関する 金属材料の種類 アルミニウム材 ・ 鋼材 ・ ステンレス鋼材 シーリング材 (ガラスの取付けは除く) (17.2.2) 下表以外は標準仕様書9.7.1による
	ガラスの取付け方法 (17.2.3)	ガラスの取付け方法 製品の見え出し部分の寸法許容差 (除く) ※ 標準仕様書表17.2.1による 製品の見え出し部分の仕上げによる ガラスの寸法、形状等 ※ カーテンウォールの製造所仕様 取付け (17.2.5) 取付け金物の取付け位置の寸法許容差 図示 (※ 建具表) による カーテンウォール材料の取付け位置の寸法許容差 ※ 標準仕様書表17.2.3による ガラスの取付け方法 図示による
PCカーテンウォール	適用は以下によるほか、カーテンウォールに関する (17.3.2) チャージ 種類 ・ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート1種 品質 設計基準強度 (fc) ※ 30N/mm ² スラブ厚 ※ 120mm 気密仕立単価積算量の標準 (6.2.3) ・ 普通コンクリートの場合 2.1kg/m ² を超えず51kg/m ² 以下 ・ 軽量コンクリートの場合 1.8kg/m ² ~2.1kg/m ² 単位数量の数値 ※ 183kg/m ² 材料 種類記号 ※ S2025 標準積算量 ・ 3.2mm ・ 4.0mm ・ 5.0mm ・ 6.0mm	

No.	項目	特記事項
18	材料 (18.1.3)	屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 (18.1.3) ※ F☆☆☆☆ 防火材料
	塗りしろえ (18.2.2)(表18.2.7)	塗りしろえ (18.2.2)(表18.2.7) 下地面等 種別 木部 不透明塗料塗りの場合 ※ A種 ・ B種 透明塗料塗りの場合 ※ B種 ・ A種 鉄鋼面 耐水性塗料塗り (DP) の場合 ※ B種 ・ A種 ・ C種 上記以外の場合 ※ B種 ・ A種 ・ B種 塗膜のつき具合 ※ A種 ・ B種 モルタル面及びセラップラスタ一面 ※ B種 ・ A種 コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面及び射出成形セメント板面 (DP以外) ※ B種 ・ A種 コンクリート面 (DP) の場合 ※ B種 射出成形セメント板面 ※ B種 セラップボード面及びその他の板面 ※ B種 ・ A種
	鋼止め塗料の種類 (18.3.2)(表18.3.3)(表18.3.1)(表18.3.4)	鋼止め塗料の種類 (18.3.2)(表18.3.3)(表18.3.1)(表18.3.4) 下地面等 鋼止め塗料の種類 種別 見え出し部分 S OP A+B種 ※ A種 ・ B種 D P 1層目 C2種 標準仕様書表18.3.4 E-P-G ※ B2種 ・ A2種 ※ A種 ・ B種 見え隠れ部分 S OP A+B種 ※ B種 ・ A種 D P 1層目 C2種 標準仕様書表18.3.4 E-P-G ※ B2種 ・ A2種 ※ B種 ・ A種 鋼製壁等 OP B2種 標準仕様書表18.3.6 鋼製壁以外 E-P-G C2種 ※ A種 ・ B種 S OP ※ B2種 ・ A2種 ※ B種 ・ A種 D P B2種 標準仕様書表18.3.6 E-P-G C2種 ※ B種 ・ A種
	塗装 (18.4.1)(表18.4.2)(表18.4.1)	塗装 (18.4.1)(表18.4.2)(表18.4.1) 塗 装 種 別 ・ 防腐防菌防カビペイント塗り (SP) ※ A種 ・ B種 鉄鋼面 ※ B種 ・ A種 塗膜のつき具合 標準仕様書表18.4.3 ・ アクリル樹脂系永水分解型塗料塗り (NAD) ※ B種 ・ A種 ・ 耐水性塗料塗り (DP) 鉄鋼面 標準仕様書表18.7.1 樹脂のつき具合 標準仕様書表18.7.2 コンクリート面及び射出成形セメント板面 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ つや消合剤用エポキシ系樹脂 標準仕様書表18.9.2 インペイント塗り (EP-G) 樹脂のつき具合 ※ B種 ・ A種 塗膜のつき具合 標準仕様書表18.8.4 ・ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP) ※ B種 ・ A種 ・ ウレタン樹脂ニス塗り (UC) ※ B種 ・ A種 ・ ビクタンステイン塗り 屋内 - ・ 木柱保護塗料塗り (DP) 屋外 ※ B種 ・ A種

No.	項目	特記事項
19	接着剤等 (19.2.2)(表19.2.1)(表19.2.2)(表19.2.3)	接着剤の種類等 (表18.7.1) クリヤラッカー塗り (DL) 種類がA種の場合における、標準仕様書表18.5.1の工程2 ・ 塗料の種類 () 耐水性塗料塗り (DP) 樹脂 () 層 上塗り塗料の種類 塗膜のつき具合 () 層 カーテンウォールニス塗り (UC) 標準仕様書表18.10.1の工程1の着色 ・ 適用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 (19.2.2)(19.3.2)(19.5.4) ※ F☆☆☆☆ (19.5.5)(19.7.2)(19.9.3) 接着剤の組成による区分 施工箇所の下地及びコンクリート系下地及び木質系下地以外の場合 ビニル床シート及びビニル床タイル用 (19.2.2)(表19.2.1) 図示による ゴム床タイル用 (19.2.2)(表19.2.2) 図示による
	下地の施工 (19.2.3)	下地の施工 標準仕様書表19.2.3.1 (ア) から (ウ) 以下の下地の工法 図示による
	ビニル床シート (19.2.2)	材料 (19.2.2) 種類記号 色 柄 寸法 (mm) 厚さ (mm) 備考 ※ F0 (復原ビニル床シート) ・ ・ ※ 2.0
ビニル床タイル (19.2.2)	材料 (19.2.2) 種類記号 色 柄 寸法 (mm) 厚さ (mm) 備考 ※ KT (コンポジションビニル床タイル) ・ 単色 ・ 300×300 ※ 2.0 ・ TT (単層ビニル床タイル) ・ 単色 ・ 450×450 ・ FT (複層ビニル床タイル) ・ ・ 500×500 ・ FOA (撥水型ビニル床タイル) ・ ・ ・ FOB (弾力型ビニル床タイル) ・ ・	
特殊転換床 (19.2.2)	材料 (19.2.2) シートの種類 ・ 帯電防止床シート 種類 性能 厚さ、寸法、形状 (mm) ・ 帯電防止床シート 厚さ: 寸法: 厚さ: ・ 帯電防止型転換床シート 形状: ・ 耐動荷重性転換床シート 厚さ: ・ 防汚性転換床シート 厚さ: ・ 防汚性転換床シート 寸法: 厚さ:	
ビニル床木 (19.2.2)	材質の種類 ・ 軟質 ・ 硬質 (19.2.2) 高さ ※ 60mm ・ 70mm ・ 100mm 厚さ ※ 1.5mm以上	
ゴム床タイル (19.2.2)	種類 ・ 単層品 ・ 複層品 (19.2.2) 色柄 () 寸法 () mm 厚さ (mm) ・ 3.0mm ・ 4.5mm ・ 6.0mm ・ 9.0mm	
カーペット敷き (19.3.2)(表19.3.1)	織り方 () ハイル形状 () 織り方 バイル形状 帯電性 備考 ・ ウォルノーカーベット ・ カットバイブル ・ 適用する ・ ダブルフェースカーベット ・ ループバイブル ・ 適用しない ・ アンキニスターカーベット ・ カット・ループ併用	
鋼止め塗料 (19.3.1)	色柄、バイル系の種類等 (19.3.1) 色柄は鋼止めの塗料のもの 種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 (表19.3.1)	
下敷き (19.3.2)(表19.3.3)	下敷き (19.3.2)(表19.3.3) 種類 ※ JIS L 3204 (反毛フェルト) の第2種1号 呼び厚さ 8mm	
タイルカーベット (19.3.2)(表19.3.3)	タイルカーベット (19.3.2)(表19.3.3) バイブルの形状 ハイル長 (mm) 工法 帯電性 備考 ※ 第一種 ※ ループバイブル ※ 500×500 ※ 6.5 ※ 第二種 ※ カットバイブル ・ ・ グリッパ工法 ・ 適用する ・ 第三種 ※ カットバイブル ※ 500×500 ※ 6.5 ・ 第四種 ・ ・ ・ 全面接着工法 ・ 適用しない ・ 第五種 ・ ・	
下敷き (19.3.2)(表19.3.3)	下敷き (19.3.2)(表19.3.3) 種類 ※ JIS L 3204 (反毛フェルト) の第2種1号 呼び厚さ 8mm	

項目	特記事項																
19 内装工事	<p>見切り、押え金物 ・ 適用する（材質、形状等） ・ 図示による） ・ 適用しない タイルカーベットの敷き方 平端 ※ 市松敷き ・ 横溝流し 階段部分 ※ 横溝流し ・ 市松敷き</p> <p>・ 合成樹脂塗床 合成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放数量 ※ F☆☆☆☆ 種類 (19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1～表19.4.8) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>工法</th> <th>仕上げの種類</th> <th>防火性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 厚膜型塗床材（水性ウレタン樹脂系塗床材）</td> <td>・ 薄塗</td> <td>※ 平滑仕上げ ・ 防湿仕上げ ・ つや出し仕上げ</td> <td>・ 行方 ・ 行わない</td> </tr> <tr> <td>・ 厚膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）</td> <td>・ 薄塗流しのべ工法 ・ 厚膜流しのべ工法 ・ 樹脂モルタル工法</td> <td>※ 平滑仕上げ ・ 防湿仕上げ</td> <td>・ 行方 ・ 行わない</td> </tr> <tr> <td>・ 薄膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）</td> <td>・ 薄塗</td> <td>※ 平滑仕上げ</td> <td>・ 行方 ・ 行わない</td> </tr> </tbody> </table> </p>	種類	工法	仕上げの種類	防火性能	・ 厚膜型塗床材（水性ウレタン樹脂系塗床材）	・ 薄塗	※ 平滑仕上げ ・ 防湿仕上げ ・ つや出し仕上げ	・ 行方 ・ 行わない	・ 厚膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）	・ 薄塗流しのべ工法 ・ 厚膜流しのべ工法 ・ 樹脂モルタル工法	※ 平滑仕上げ ・ 防湿仕上げ	・ 行方 ・ 行わない	・ 薄膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）	・ 薄塗	※ 平滑仕上げ	・ 行方 ・ 行わない
	種類	工法	仕上げの種類	防火性能													
	・ 厚膜型塗床材（水性ウレタン樹脂系塗床材）	・ 薄塗	※ 平滑仕上げ ・ 防湿仕上げ ・ つや出し仕上げ	・ 行方 ・ 行わない													
	・ 厚膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）	・ 薄塗流しのべ工法 ・ 厚膜流しのべ工法 ・ 樹脂モルタル工法	※ 平滑仕上げ ・ 防湿仕上げ	・ 行方 ・ 行わない													
・ 薄膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）	・ 薄塗	※ 平滑仕上げ	・ 行方 ・ 行わない														
・ フローリング張り フローリングのホルムアルデヒド放数量 ※ 標準仕様書 19.5.2 による 種類 フローリング (19.5.2～19.5.5) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>工法</th> <th>仕様</th> <th>厚さ、幅及び長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ フローリングボード1等</td> <td>・ 釘留め工法（根太張り）</td> <td>・ ※ 標準仕様書 表19.5.1による</td> <td>・ 厚さ：19.5.1による</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 釘留め工法（直張り）</td> <td>・ ※ 標準仕様書 表19.5.3による</td> <td>・ 厚さ：19.5.3による</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 接着工法</td> <td>・ ※ 標準仕様書 表19.5.5による</td> <td>・ 厚さ：19.5.5による</td> </tr> </tbody> </table>	種類	工法	仕様	厚さ、幅及び長さ	・ フローリングボード1等	・ 釘留め工法（根太張り）	・ ※ 標準仕様書 表19.5.1による	・ 厚さ：19.5.1による		・ 釘留め工法（直張り）	・ ※ 標準仕様書 表19.5.3による	・ 厚さ：19.5.3による		・ 接着工法	・ ※ 標準仕様書 表19.5.5による	・ 厚さ：19.5.5による	
種類	工法	仕様	厚さ、幅及び長さ														
・ フローリングボード1等	・ 釘留め工法（根太張り）	・ ※ 標準仕様書 表19.5.1による	・ 厚さ：19.5.1による														
	・ 釘留め工法（直張り）	・ ※ 標準仕様書 表19.5.3による	・ 厚さ：19.5.3による														
	・ 接着工法	・ ※ 標準仕様書 表19.5.5による	・ 厚さ：19.5.5による														
・ 敷き板 種類 A種（「表装」・JS・D1） B種 C種（「表装」・PS-C20・PS-C25・PS-C30） D種 （「表装」・KT-I・KT-II・KT-III・KT-K・KT-N） ・ 衝撃緩和型 （「表装」AIS AS902） C1 ・ C2																	
・ セッコウボード、その他ボード及び合板張り 材料 規格名称 種類 厚さ(mm)等 ・ 優質木毛セメント板 ・ 中質木毛セメント板 ・ 普通木毛セメント板 ・ 優質木片セメント板 ・ 普通木片セメント板 ・ けい酸カルシウム板 ・ 火山性ガラス質繊維板 ・ ミディウムデンシティファイバーボード (MDF) ・ ハードボード（表地） ・ ハードボード（化粧） ・ インジュレーションボード ・ 集積材強化パーティクルボード ・ 集積材強化パーティクルボード ・ 化粧パーティクルボード ・ パーティクルボード																	

項目	特記事項																		
20 工事	<p>パーティクルボード及びMDFのホルムアルデヒド放数量 ※ F☆☆☆☆ ボード裏面への化粧紙仕上げの有無 ・ 有り（種類） 天板のボードの裏面仕上げの方法 （ロッキング吸収音を除く） （ ） セッコウボードの目的施工方法 （ ） （ ） （ ）</p> <p>・ 補修留め工法 ・ 突付け工法 ・ 目直し工法 セッコウボードのエッジの種類（突付け工法、目直し工法の場合） ・ ベベルエッジ ・ スクエアエッジ (19.7.3) (19.7.3)</p> <p>材料 種類 規格 防火性能 ・ 普通合板 品名 (※ 5.0mm) 厚さ () 板面の品質 () 広葉樹 (※ 2等以上) 針葉樹 (※ C-D以上) 単板の樹種名 () ・ 天然木化粧合板 厚さ (mm) 化粧紙の樹種名 () 品名 () 厚さ (mm) 接ぎの種名 () 単板の樹種名 () 化粧加工の方法 ・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装</p> <p>合板のホルムアルデヒド放数量 ※ 標準仕様書 19.7.2 (2) (イ) のいずれかによる 合板の張付け ・ A種 ・ B種 (19.7.3)(表19.7.3) ホルムアルデヒド放数量 ・ 壁紙 ※ F☆☆☆☆ ・ 接着剤 ※ F☆☆☆☆ 種類 (19.8.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>紙</th> <th>繊維</th> <th>プラスティック</th> <th>無機質</th> <th>塩化ビニル</th> <th>その他</th> <th>防火性能</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </p>	施工箇所	紙	繊維	プラスティック	無機質	塩化ビニル	その他	防火性能	備考									
	施工箇所	紙	繊維	プラスティック	無機質	塩化ビニル	その他	防火性能	備考										
	・ 壁紙張り 種類 A種（「表装」・JS・D1） B種 C種（「表装」・PS-C20・PS-C25・PS-C30） D種 （「表装」・KT-I・KT-II・KT-III・KT-K・KT-N） ・ 衝撃緩和型 （「表装」AIS AS902） C1 ・ C2																		
・ 断熱材 ・ 断熱材打込み方法 (19.9.3) 断熱材の種類 種類 (記号) 厚さ (mm) 施工箇所 ・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スチレン系なし) ・ 優質ウレタンフォーム断熱材 ・ フェンネルフォーム断熱材 フェンネルフォームを使用した断熱材及び開口部等補修のための張付け用接着剤のホルムアルデヒド放数量 ※ F☆☆☆☆ ・ 断熱材現場発泡工法 (19.9.4) 断熱材の種類 断熱材の種類 ・ A種1 ・ A種1H 張付け厚さ ・ mm 施工箇所 ・ 図示による																			

項目	特記事項																
21 工事	<p>移動間仕切り 材料及び仕様等 (20.2.4) ・ 操作方式による種類 ・ 圧接装置の操作方法 ハナキ表面材 材質 仕上げ 選定性能 (dB/500Hz) ・ 手動式 ・ ブッシュ式 ・ 鋼板 ・ 鉄片張り ・ 電動式 ・ ハンドル式 ・ 樹脂張り ・ 36mm以上 ・ 部分電動式</p> <p>ハンガーレールの取付け方法 ※ 標準仕様書 20.2.3 (3) (ウ) による ・ 図示による ハンガーレール ※ 標準仕様書 20.2.4 (3) (エ) による ・ 図示による ランナー ※ 標準仕様書 20.2.4 (3) (オ) による ・ 図示による ハナキをランナーに取り付ける部品 ※ 標準仕様書 20.2.4 (3) (カ) による ・ 図示による あと施工アンカー ・ 使用しない （ 種類： ） 材質： 寸法： ・ 使用しない</p> <p>・ トイレブース ハナキ表面材の材質 ・ メラミン樹脂系化粧紙 ・ ポリエステル樹脂系化粧紙 ※ 幅木タイプ ※ アエッジの材質 ※ 製造所の仕様による ※ アルミニウム製 ※ ステンレス製 ※ 裏材と同材</p> <p>・ 手すり 材料の種類 仕上げ (20.2.6)</p> <p>・ 階段踏み止め 材料等 (20.2.7) <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 種</th> <th>形 状</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>取付け工法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ステンレス製 (SUS304)</td> <td>・ ひも状</td> <td>・ ※ 接着工法</td> <td>・ 埋込み工法</td> </tr> <tr> <td>・ 鋼板押出製材</td> <td>・ タイプ製</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ アルミニウム製押出製材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </p>	材 種	形 状	寸法 (mm)	取付け工法	・ ステンレス製 (SUS304)	・ ひも状	・ ※ 接着工法	・ 埋込み工法	・ 鋼板押出製材	・ タイプ製			・ アルミニウム製押出製材			
	材 種	形 状	寸法 (mm)	取付け工法													
	・ ステンレス製 (SUS304)	・ ひも状	・ ※ 接着工法	・ 埋込み工法													
	・ 鋼板押出製材	・ タイプ製															
・ アルミニウム製押出製材																	
・ 扉 取付け箇所 () 寸法 () 厚さ ※ 5mm ()																	
・ 表示 ・ 衝突防止表示 形 寸法 (・ 30) 材質 (・ ステンレス製) ・ 非常用出入口等の表示等 ※ 消防法に適合する市販品 (20.2.11)																	

項目	特記事項															
22 工事	<p>カーテンレール 材料等 レール及びブラケットの強さによる区分 (20.2.16) ・ 10-90 ・ レールの材質による区分 ※ アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材 ・ ステンレス製 レールの仕上げ ※ アルマイト レールの形状 ※ 角形 カーテン付具類 フック (ヒモかん) ※ 鋼製 ・ 樹脂製</p> <p>・ プレキャスト コンクリート 種類・断面の種類及び寸法 ・ 図示による (20.3.2)</p> <p>製作 コンクリートの設計基準強度 (F_c) ※ 水セメント比55%以下、単位セメント量の最小300kg/m³を満足するように定める ・ 図示による (20.3.3)</p> <p>取付 ※ 監督官員の承認による ・ 図示による (20.3.4)</p> <p>・ 間接及びコン クリート間接ブ ロック組み 材料等 (20.4.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 種</th> <th>材 種</th> <th>種 類</th> <th>強度区分</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 間接石</td> <td>・ 花ごう岩 ・ 浪返岩</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート間接ブロック</td> <td></td> <td></td> <td>・ A ・ B</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </p>	材 料 種	材 種	種 類	強度区分	備考	・ 間接石	・ 花ごう岩 ・ 浪返岩				・ コンクリート間接ブロック			・ A ・ B	
	材 料 種	材 種	種 類	強度区分	備考											
	・ 間接石	・ 花ごう岩 ・ 浪返岩														
	・ コンクリート間接ブロック			・ A ・ B												
・ 床 工法 ・ 目張り ※ 谷積み ・ 布積み 目張り ※ 図示による ・ 伸縮継ぎ目 材質 ※ 図示による 厚さ ※ 図示による (20.4.3)																
・ ブラインドボックス 種類 材質 ・ 集成材 (仕上げ) ・ アルミニウム製 押出し型材 (市販品) ・ 鋼製 (標準仕様書表14.2.1) ・ 色合い ・ 黒色色 ・ 特注色 () ・ 鋼製 (仕上げ)																

Table with 4 columns: 項目 (Item), 項目名 (Item Name), 特記事項 (Remarks), 備考 (Notes). Includes items like 遮し台ユニット, 鉄柱, 鉄平受金物, フェンス, 鋼製書架及び物品棚, 屋内掲示板, 洗面カウンター, 防煙垂れ壁, 吸排気器具, 屋外掲示板, 敷地境界石.

Table with 4 columns: 項目 (Item), 項目名 (Item Name), 特記事項 (Remarks), 備考 (Notes). Includes items like 舗装製ふた, グレーチング, 埋戻し土, 舗装工事, 舗装工事.

Table with 4 columns: 項目 (Item), 項目名 (Item Name), 特記事項 (Remarks), 備考 (Notes). Includes items like コンクリート舗装, カラー舗装, 透水性アスファルト舗装, ブロック系舗装, アスファルト舗装, 砂利敷き.

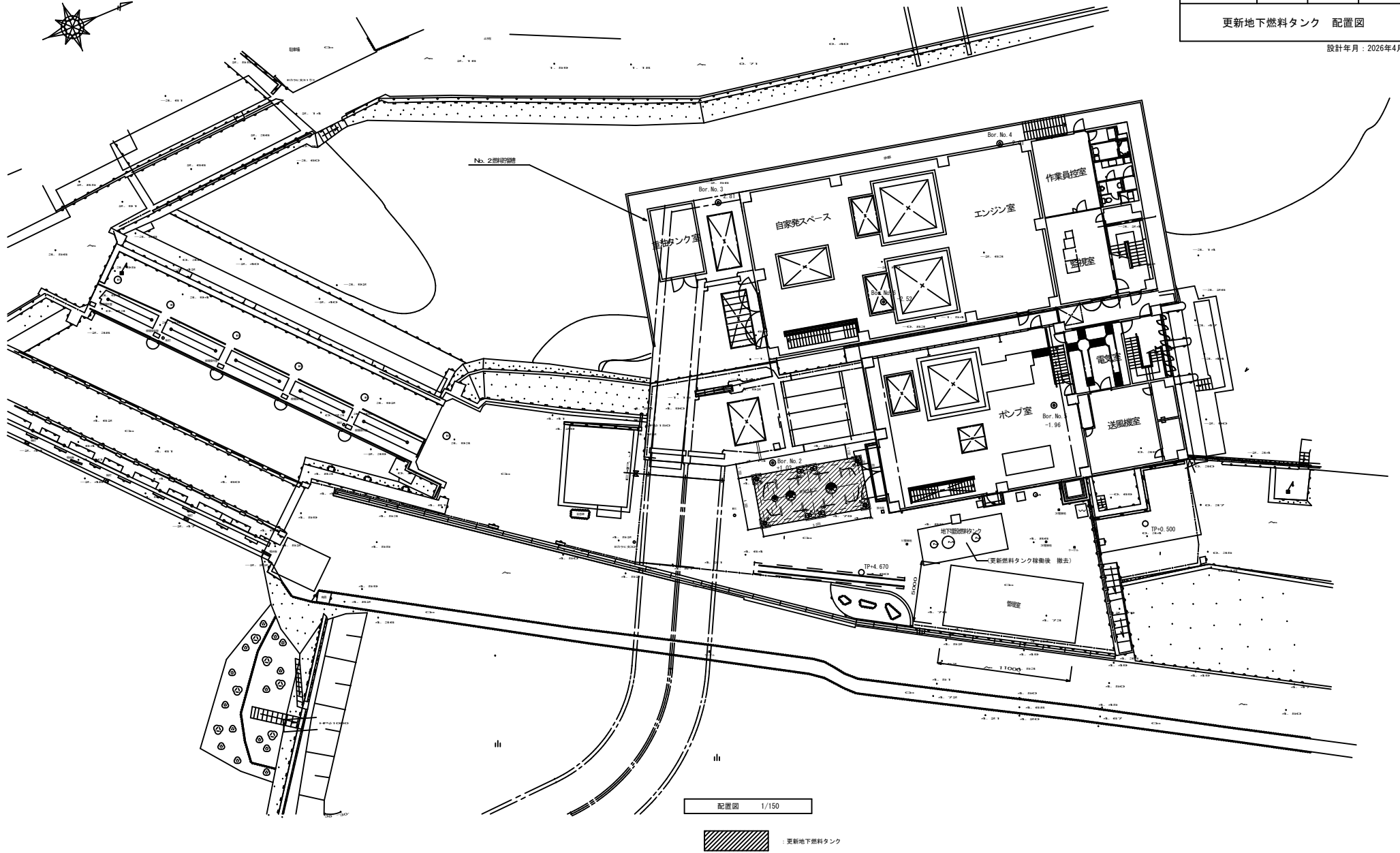
Table with 4 columns: 項目 (Item), 項目名 (Item Name), 特記事項 (Remarks), 備考 (Notes). Includes items like 植栽地の確認, 植栽基礎の整備, 植栽基礎の排水設備, 植栽土壌改良材, 支柱材の種類, 幹巻き用材料, 芝, 地被類, インターロック系舗装, 新設、移植樹木、芝等の保証, 屋上緑化.

Table with 4 columns: 工事名称 (Project Name), 建築工事種別 (Construction Type), 建築工事種別記仕様書 No. (Specification No.), 縮尺率 (Scale), 図面No. (Drawing No.).

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	A-11	縮尺	1/150

更新地下燃料タンク 配置図

設計年月：2026年4月



配置図 1/150

更新地下燃料タンク

地下燃料タンク設置 工事区分・工事手続表 (参考)			
○ 仮設工事	建築工事	⑤ タンク据付工事	プラント機械工事 (P)
① 杭工事	建築工事	⑥ 土工事 (埋戻し)	建築工事
② 土工事 (切土)	建築工事	⑦ 地盤砕石・砕コン	建築工事
③ 地盤砕石・砕コン	建築工事	⑧ 躯体 (床版、上部梁)	建築工事
④ 躯体 (基礎、底盤、タンク基礎、柱)	建築工事	⑨ マンホール蓋	プラント機械工事 (P)

特記事項

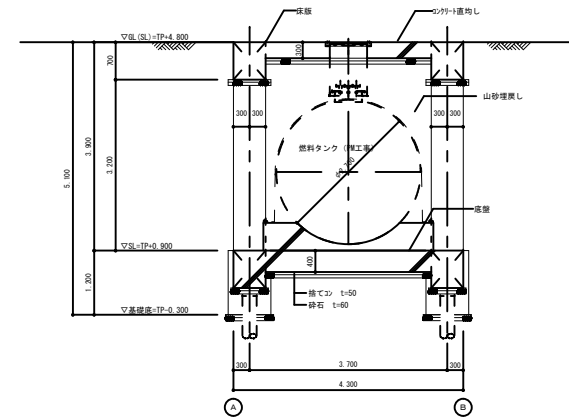
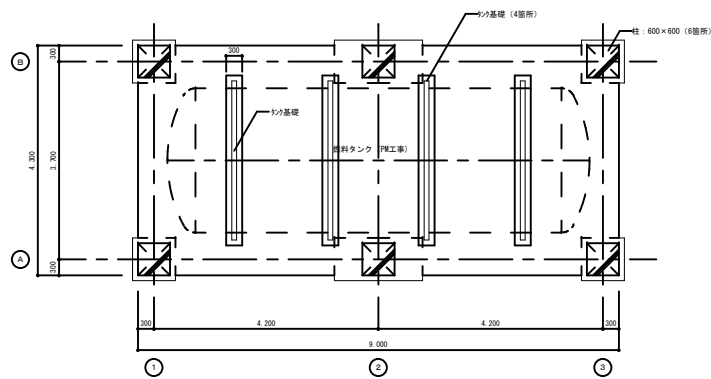
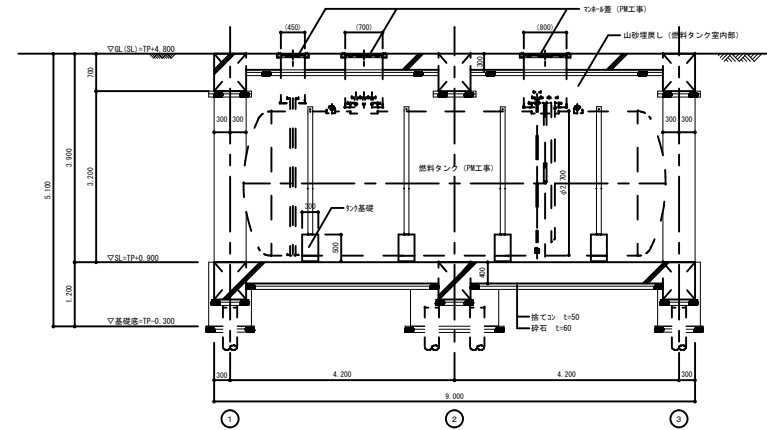
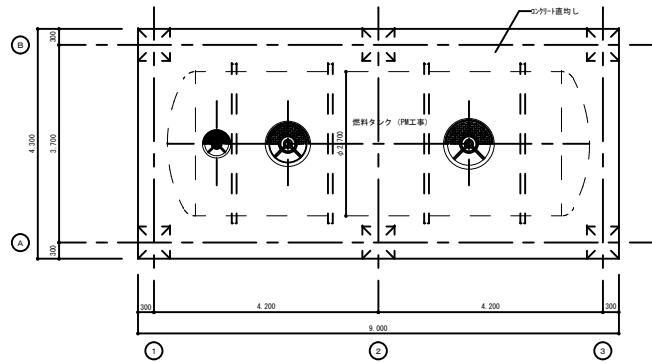
1. 工事区分・工事手続はP・建築間で調整のこと
2. 床版開口位置・寸法は、P・建築間で調整のこと
3. 地下タンク室外周面掘削部の埋戻し土は、横切り土中の良質土としてよい

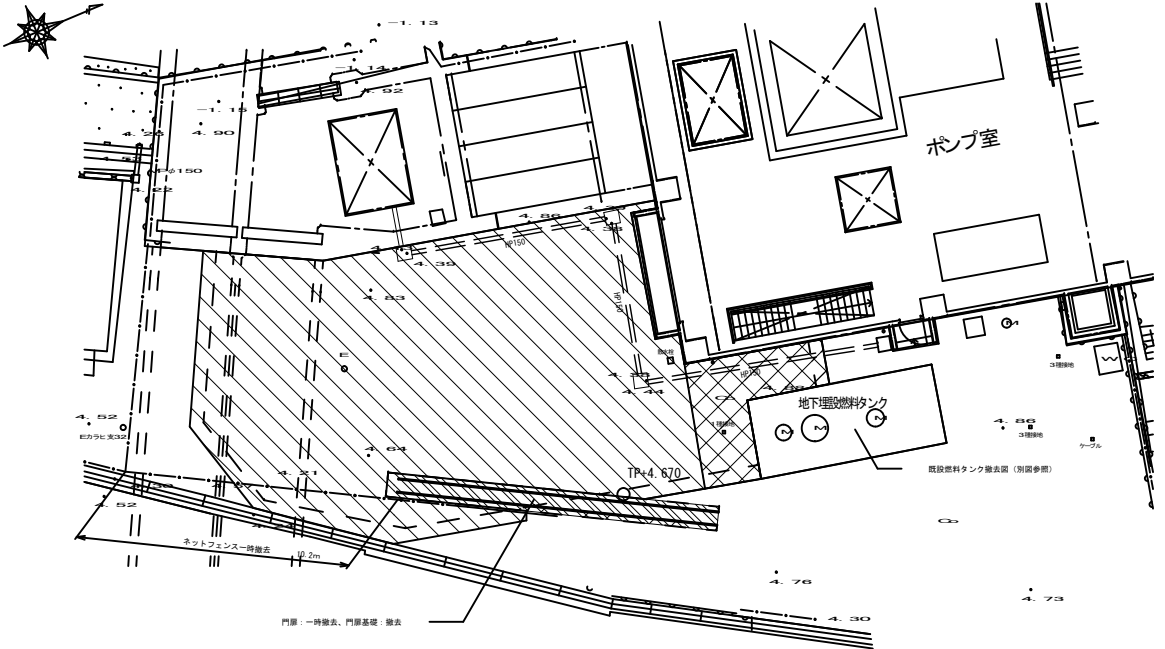
福山市上下水道局

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	A-12	縮尺	1/50

更新地下燃料タンク 平面・断面図

設計年月：2026年4月





場内撤去図 1/100

既設雨水排水管・排水管撤去
 既設コンクリート雨水管撤去
 ・300×300×H900 壁厚150：1箇所
 ・300×300×H900 壁厚150：2箇所
 既設雨水排水管撤去
 ・HP150 L=20.0m

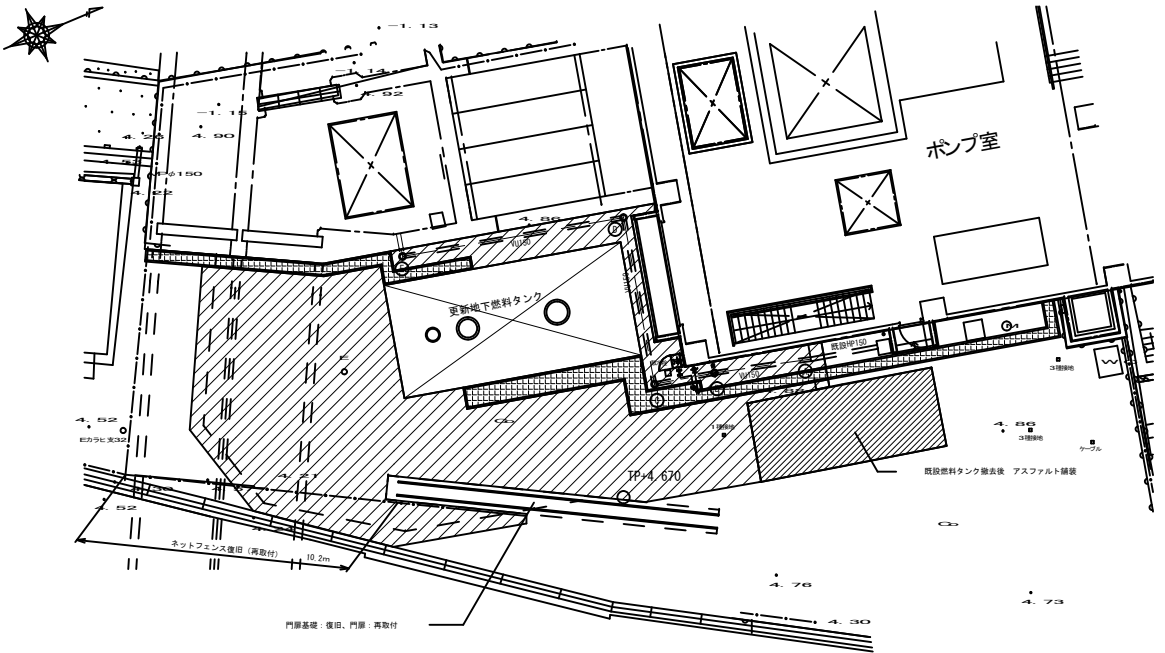
凡例

- 既存アスファルト舗装撤去範囲
- 既存コンクリート舗装撤去範囲

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	A-13	縮尺	1/100

場内撤去復旧整備図、雨水配管勾配図

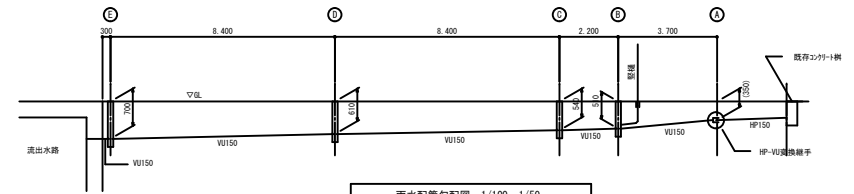
設計年月：2026年4月



場内復旧・整備図 1/100

雨水軒リスト

番号	名物	呼径	種別	管底 (GL-)	計測地盤高	蓋種別	備考
①	HP-VU交換継手	150		(350)	±0		
②	塩ビ製小口径継手	150-200	90Y	510	±0	200φ格子鉄蓋	泥ため150H
③	"	"	90L	540	±0	"	"
④	"	"	90L	610	±0	"	"
⑤	"	"	90L	700	±0	"	"



雨水配管勾配図 1/100・1/50

凡例

- 場内アスファルト舗装復旧範囲
- 既設燃料タンク撤去後 アスファルト舗装復旧範囲
- 燃料タンク配管用側溝 (P工工事)

特記事項

・雨水配管・散水栓位置について監督員と調整すること

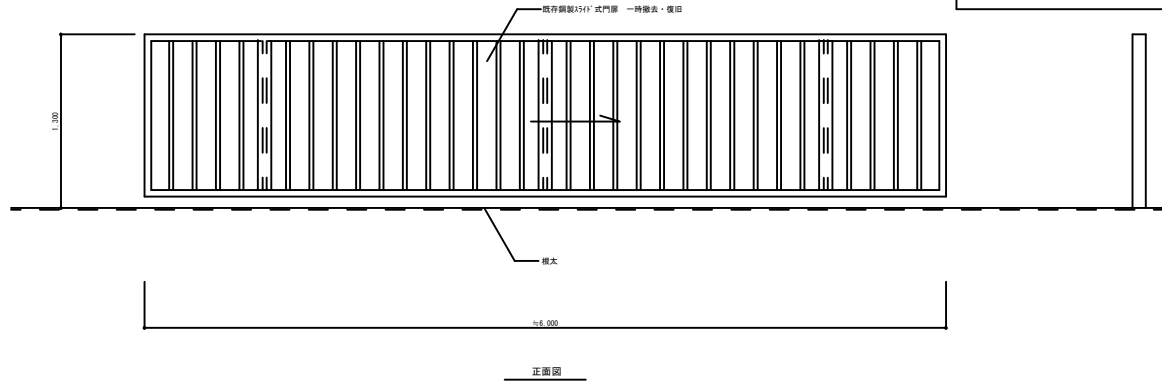
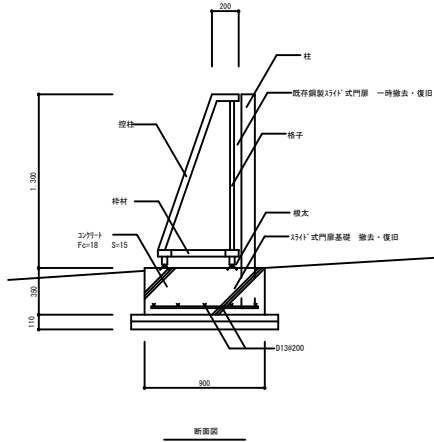
工事名称	新運ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内		
図面番号	A-14	縮尺	1/20.5

場内復旧整備部分詳細図

設計年月：2026年4月

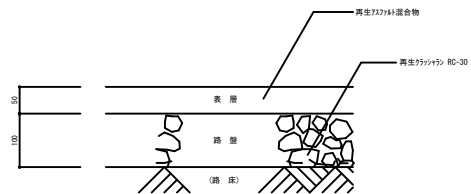
- 主要材料
- 柱 □-100×100×3.2
 - 接柱 □-100×50×3.2
 - 枠材 □-100×50×3.2
 - 格子 φ30
 - 横木 L-50×50×4

特記事項
・復旧時、鋼製スライド式門扉は下地調整(図種)の上、DP塗装



既存アスファルト舗装撤去・復旧

仕様：表層：再生密粒度アスファルト混合物(20,13)
路盤：再生カラッシュン RC-30



既存地下燃料タンク 撤去図

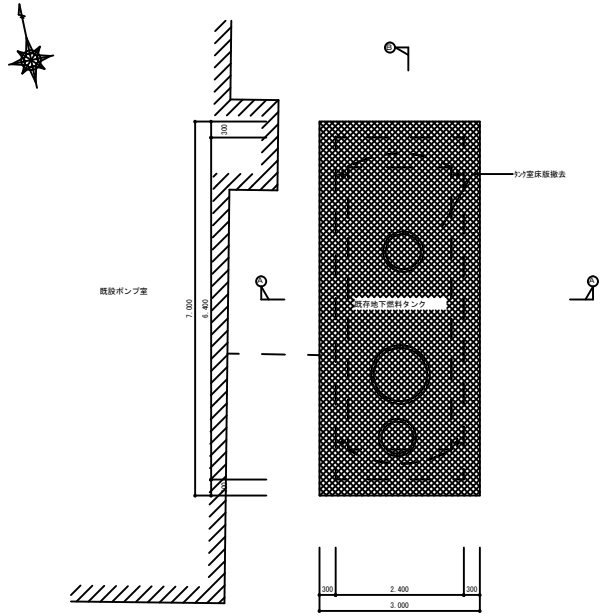
埋戻し・舗装復旧図

福山市上下水道局

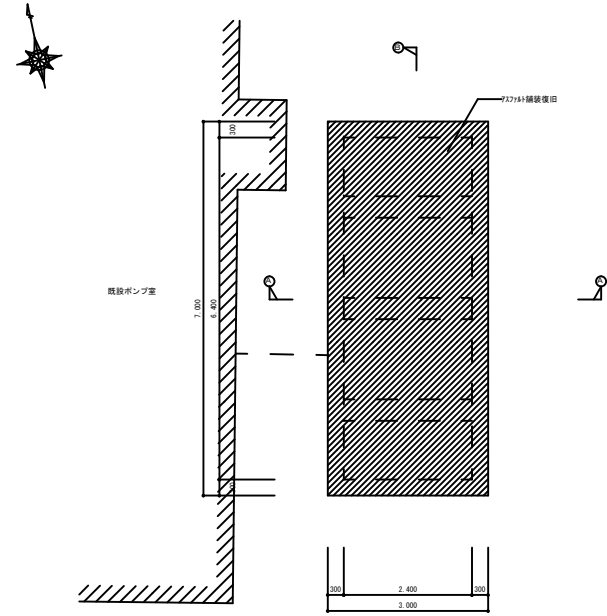
工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	A-15	縮尺	1/50

既存地下燃料タンク 撤去図

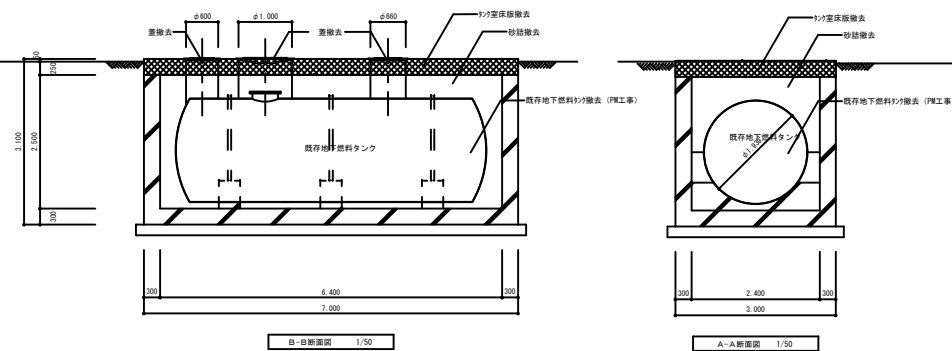
設計年月：2026年4月



平面図 1/50
 凡例
ポンプ室床撤去範囲

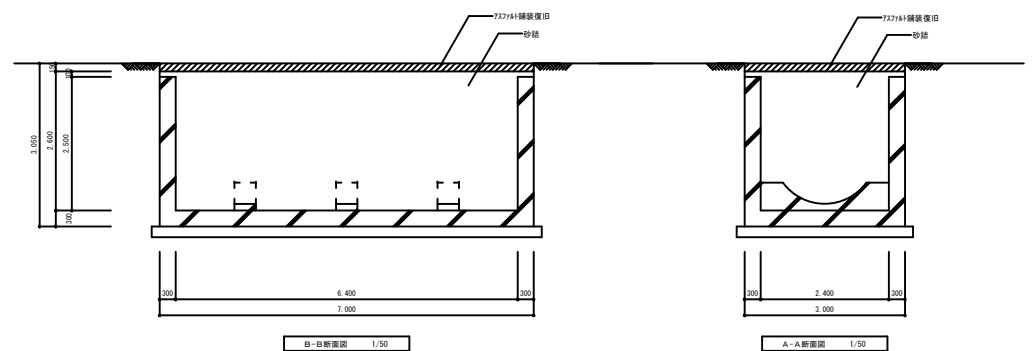


平面図 1/50
 凡例
732x43舗装復旧範囲



B-B断面図 1/50

A-A断面図 1/50



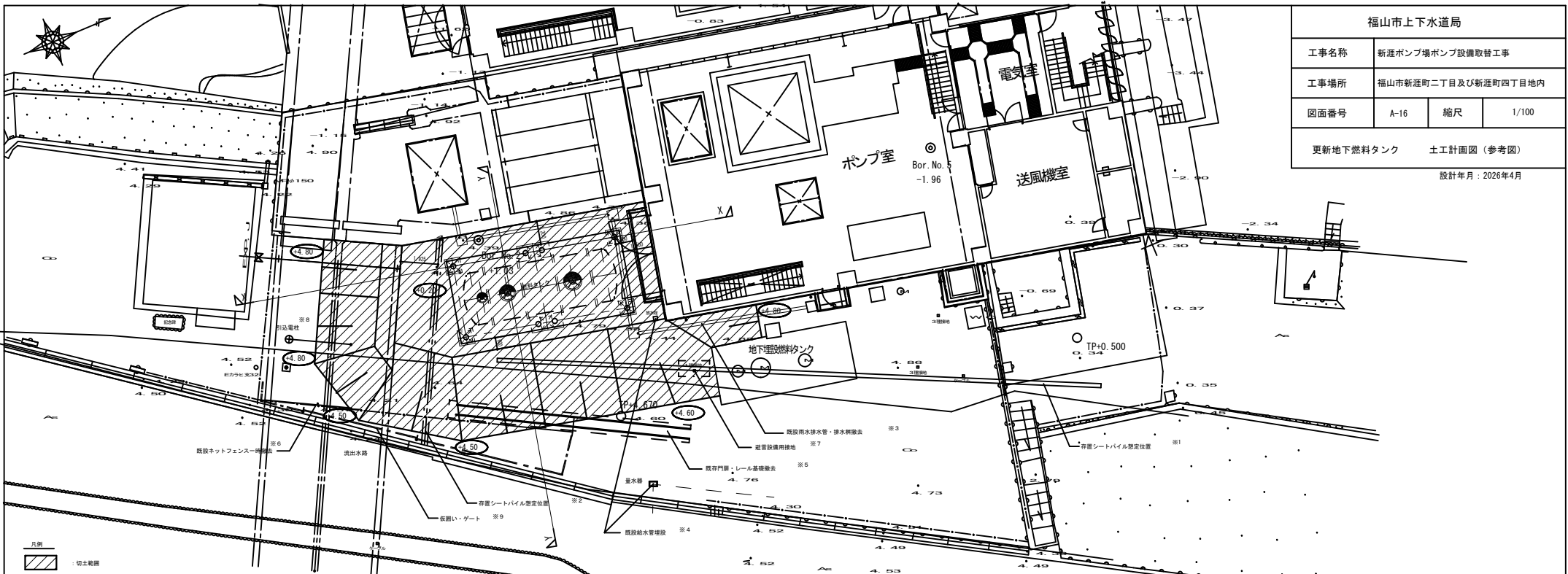
B-B断面図 1/50

A-A断面図 1/50

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	A-16	縮尺	1/100

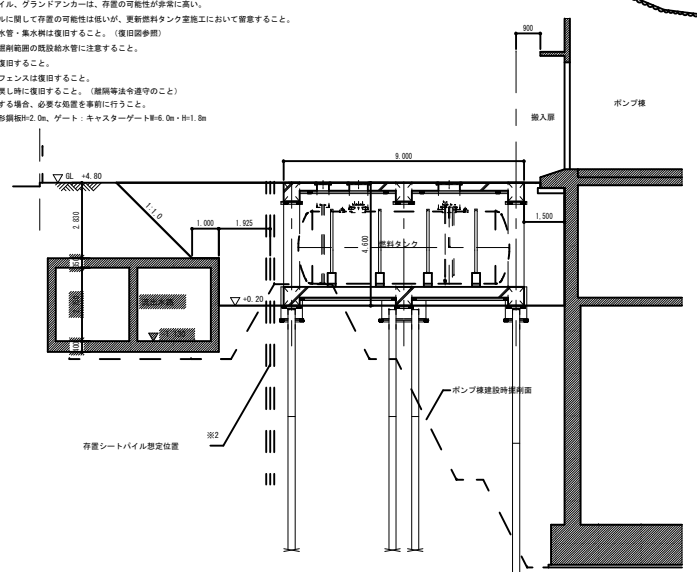
更新地下燃料タンク 土工計画図(参考図)

設計年月: 2026年4月

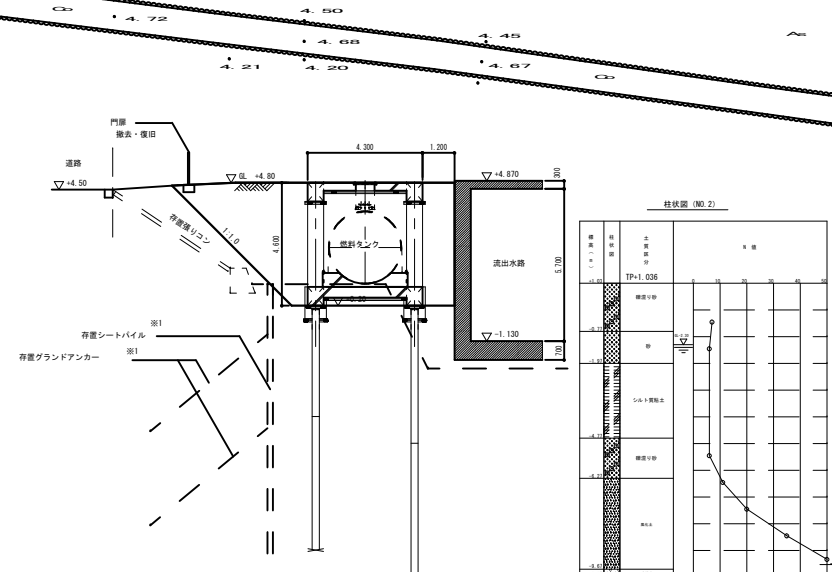


凡例
 : 切土範囲

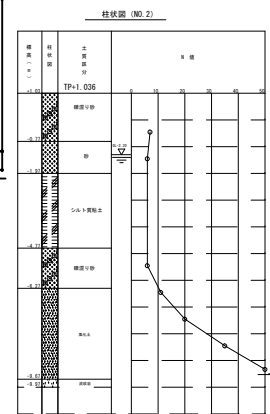
- 特記事項
- ※1: 旧様ポンプ棟建設時山管シートパイル、グラウンドアンカーは、存置の可能性が非常に高い。
 - ※2: 排水路建設時山管シートパイルに関して存置の可能性は低い。更新燃料タンク室施工において留意すること。
 - ※3: 土工部削により撤去された雨水排水管・電気管は復旧すること。(復旧図参照)
 - ※4: 更新燃料タンク建設における土工部削範囲の既設給水管に注意すること。
 - ※5: 土工部削で撤去したレール基礎は復旧すること。
 - ※6: 土工部削工事等で撤去したネットフェンスは復旧すること。
 - ※7: 避難用接地は工事中は仮接地し埋戻し時に復旧すること。(遮断等法令遵守のこと)
 - ※8: 引込電柱の支線が土工部削で影響する場合は、必要な処置を事前に行うこと。
 - ※9: 共通図(参考) ー 既図1: 成形鋼管H=2.0m、ゲート: キャスターゲートH=6.0m・H1.8m



X-X 断面図 1/100



Y-Y 断面図 1/100



土工計画図(参考図) 1/100

構造細目共通図(建築構造物)

1 特記事項

1.1 適用範囲

- (1) 本構造細目共通図は下水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。
- (2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し、指示を受ける。

1) 建築工事特記仕様書	(別冊による。)
2) 建築改修工事特記仕様書	(別冊による。)
3) 建築工事一般仕様書	(令和 4 年版)
4) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)	国土交通省大臣官房官庁建築部 (令和 4 年版)
5) 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)	国土交通省大臣官房官庁建築部 (令和 4 年版)

- (3) 項目は○印のものを使用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。◎印と⊙印のある場合は、共に適用する。

1.2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は、別冊建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1.1 表 鉄筋の種類及び継手

種類	種別	径
鉄筋の種類	SD 295	※D16以下
	SD 345	※D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	※図示による。

1.3 コンクリートの仕様

コンクリートの仕様は、別冊建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1.2 表 コンクリートの仕様

分類	コンクリート種別	設計基準強度(N/mm ²)	スランプ(㎝)	セメントの種類	
鉄筋コンクリート	地上	※普通コンクリート	※24	※18	※普通ポルトランドセメント
	地下基礎、基礎	※普通コンクリート	※24	※15	※普通ポルトランドセメント
無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※15	※普通ポルトランドセメント	

注1: 無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。

1.4 砕石及び捨てコンクリート

砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ、3表による。

1.3 表 砕石及び捨てコンクリートの仕様

種別	厚さ(㎝)
砂利または砕石	※60
捨てコンクリート	※50

2 共通事項

2.1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2.1表及び2.2表を標準とする。

2.1 表 鉄筋の断面表示

径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記号	●	×	⊘	●	○	⊙	⊗	⊚

2.2 表 一般凡例

記号・符号	内容	※印の丸印及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※ 番号
※1 C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1 G※2	大梁断面種別	※1 階数 地中梁はFとする ※2 その階の番号 X方梁、2, 3, ... Y方梁、B, C, ...
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階数区分はしない
※1 B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階数区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階数区分はしない
※1 W※2	壁断面種別	※1 E: 階間壁 K: 階壁 D: 土圧、水圧を受ける壁 ※2 階数区分はしない 壁厚(㎝)
※1 S※2※3	床断面種別	※1 片持床のみCとする 床厚(㎝) ※2 配置種別(英大文字) 階数区分はしない ※3
※1 K※2	階段の高さ種別	※1 A: 片持床形 B: 二辺固定床形 ※2 配置種別(数字) 階数区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(㎝)
打らし範囲	打ち増し範囲	
梁・床版の上か/下か	梁・床版の上か/下か	一般には基準F Lよりの+、-に 応じた凡例により表示
(※)	床坪積載荷重	積載荷重の値 (k N/m ²)
STP	あぶら筋、スターラップ	梁、基礎壁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スライラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、廊板

2.2 一般注意事項

- (1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 鉄筋の折曲(加工)

鉄筋の折曲(加工)は、3.1表を標準とする。

- (1) Dは、折曲の内法直径を示す。
- (2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

3.1 表 鉄筋の折曲(加工)形状及び寸法(末端部)

曲げ角度	折曲(加工)図	折曲の内法直径(D)		使用箇所
		SD295 SD345	D19 ~D38	
180°		D16以下	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あぶら筋、帯筋、 スライラル筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あぶら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	幅止め筋

- (注) 1. 片持スラブ先端、鉄筋の自由端の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
- 2. 90°末端の折曲(加工)の内法直径は図面による。

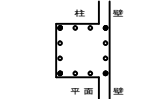
4 異形鉄筋の末端部

4.1 フックを設ける位置

異形鉄筋の末端部は、4.1表よりフックを設ける。

4.1 表 フックを設ける位置

部位	継手方式		備考
	重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	—	1) 最上階の柱頂部 4.1図の●印 8.1図参照
	上下階の柱 断面が異なる 場合	—	1) 下階の主筋を 引き通すことが できない柱頂部 4.1図の●印 8.2図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 9.1図参照
梁	あぶら筋 (STP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 11.1図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の 底筋筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 20.1図参照
煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	壁の一部となる 場合を含む
幅止め筋	—	—	3.1表参照



4.1 図 異形鉄筋の末端部

福山市上下水道局

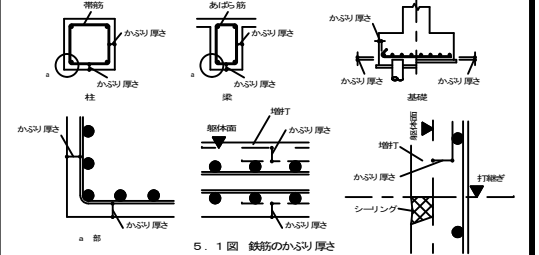
工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	S-01	縮尺	—

構造細目共通図(建築構造物) (1)

5 鉄筋のかぶり及び間隔

5.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外側から躯体面までの距離(5.1図)をいう。鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内で納めるものとする。



5.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、5.1表による。

- (1) 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
- (2) 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
- (3) 溶接金網にも適用する。

5.1 表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

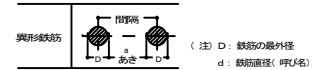
構造部分の種別	塩害区分		
	※ 通常の施工の場合	塩害対策を必要とする場合	
一般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
土、水に接する部分	床版、基礎	40	50
	廊下、基礎	60	70
煙突等高温を受ける部分	60	70	

- 1: 打継目地部分は自地底より最小かぶり厚さを確保する。
- 2: 杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭頭部からとし、「2.1杭基礎の節制を参照。
- 3: 仕上げなしの場合を標準とする。

5.3 鉄筋相互のあき及び間隔

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び圧接継手の場合のあきは図面による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 最小のあき25mm
- (3) 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍



5.2 図 鉄筋相互のあき及び間隔

5.1 表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(mm)	鉄筋径 D	鉄筋相互のあき: a		最小鉄筋芯間隔 a+D
		(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	
D10	11	32mm 粗骨材最大径 25mmの場合	(3) 鉄筋径×1.5	43mm
D13	14		15mm	46mm
D16	18		20mm	50mm
D19	21		24mm	53mm
D22	25		29mm	58mm
D25	28		33mm	66mm
D29	33	38mm	77mm	

6 鉄筋の継手及び定着

6.1 継手及び定着

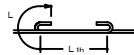
6.1.1 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手の長さは、6.1表による。
- (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 主筋及び前張りの鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

6.1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_1 (フックなし)		L_{1h} (フックあり)	
		L_1	L_2	L_{1h}	L_{2h}
SD295	24.27	35d	30d	25d	20d
	30	35d	30d	25d	20d
SD345	24.27	40d	30d	30d	25d
	30	35d	30d	25d	20d

- (注) 1. L_1 、 L_2 : フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の L_{1h} は、6.1図に示すようにフック部分を含まない。



6.1図

6.1.2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

6.1.3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6.2表による。

6.2表 鉄筋の定着の長さ

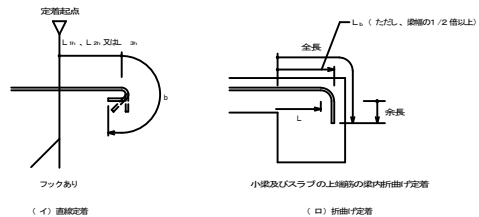
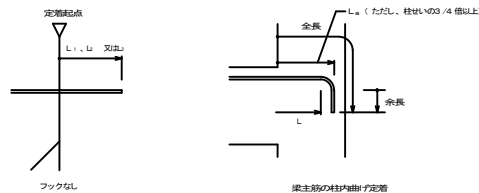
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L_1	L_2	小梁	スラブ	L_{1h}	L_{2h}	小梁	スラブ
SD295	24.27	35d	30d	10d	かつ	25d	20d	—	—
	30	35d	30d	10d	かつ	25d	20d	—	—
SD345	24.27	40d	35d	150mm	以上	30d	25d	10d	—
	30	35d	30d	150mm	以上	25d	20d	—	—

- (注) 1. L_1 、 L_2 : 2.以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
2. L_{1h} 、 L_{2h} : 衝撃破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L_1 : 小梁及びスラブラの下端の直線定着の長さ(基礎剛性スラブ及びこれを受ける小梁を除く)なお、片持小梁及び片持スラブラの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4. L_2 : 小梁の下部筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、6.2図(イ)に示すようにフック部分を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

6.1.4 定着の方法

定着の方法は6.2図による。
なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着においては、仕口内に2回折曲げて定着する鉄筋の定着長さとし、6.2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6.2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6.3表に示す長さをもみ込ませる。

- (注) 1. L_1 、 L_2 は、6.3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。
・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいりの3/4倍以上
・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁断の1/2倍以上
・スラブラの梁内定着においては、原則として梁断の1/2倍以上



6.2図 定着の方法

6.3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295	24.27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24.27	20d	15d
	30	15d	15d

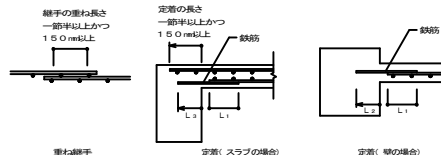
- (注) 1. L_a : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持スラブを含む。)
2. L_b : 小梁及びスラブラの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持小梁及び片持スラブを除く。)

6.2 隣り合う継手の位置及び定着

- (1) 隣り合う継手の位置は、6.4表より、a寸法を守ること。ただし、壁の場合及びスラブラ筋でD16以下の場合は除く。

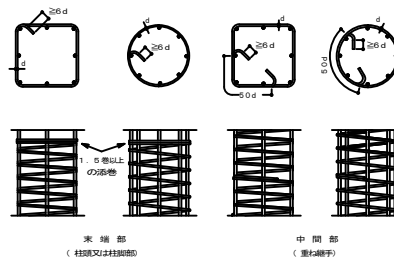
重ね継手	フックありの場合		フックなしの場合	
	$a \geq 0.5L_{1h}$	$a \geq 0.5L_{2h}$	$a \geq 0.5L_1$	$a \geq 0.5L_2$
圧接継手	$a \geq 400$ mm			

- (2) 溶接金網の継手及び定着は、6.3図による。



6.3図 溶接金網の継手及び定着要領

(3) スパイラル筋の継手及び定着



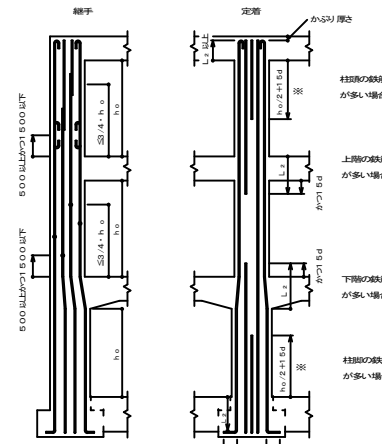
6.4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

7 (欠番)

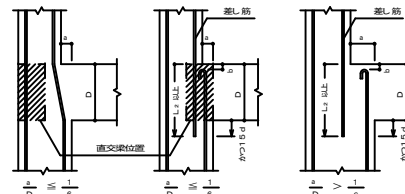
8 柱筋の継手及び定着

8.1 一般事項

- (1) 継手長さは L_1 とし、定着及び余長は、8.1図による。
- (2) 柱頭定着長さ L_2 が確保出来ない場合は、図面による。
- (3) 上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、6.2図による。
- (4) 柱の継手及び仕口面中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ $3/4h_0$ (h_0 は柱の内法高さ)以下とする。
- (5) ※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



8.1図 柱主筋の継手、定着及び余長



8.2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

福山市上下水道局

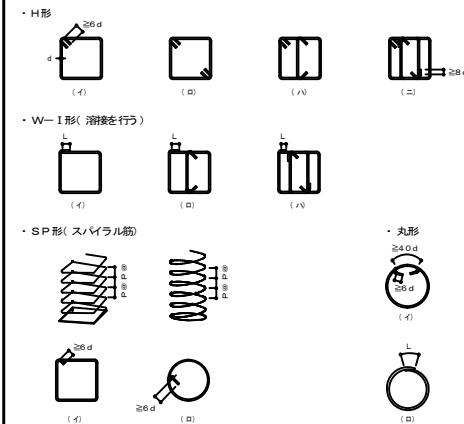
工事名称	新運ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新運町二丁目及び新運町四丁目地内		
図面番号	S-02	縮尺	—

構造細目共通図(建築構造物)(2)

9 帯筋

9.1 帯筋の形状

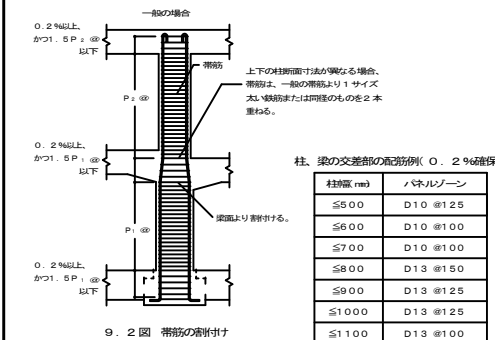
- (1) 帯筋の形状は、9.1図とし、種別は図面による。図面がなければ下記による。
(a) H形を標準とする。
(b) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
(c) 溶接する場合の溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
(d) SP形においては、柱頭及び柱趾の溶接は、1.5巻以上の添巻きを行う。



9.1図 帯筋組立の形

9.2 帯筋の書付け

- (1) フック及び継手の位置は交互とする。
- (2) 帯筋の書付けは、9.2図による。ただし、図面ある場合はそれによる。
- (3) 柱、梁の交差部(ノットゾーン)の帯筋のせん断耐力は、0.2%以上を確保し、補筋の間隔 $\leq 1.5P$ とする。



9.2図 帯筋の書付け

柱断面(mm)	ノットゾーン
≤ 500	D10 @125
≤ 600	D10 @100
≤ 700	D10 @100
≤ 800	D13 @125
≤ 900	D13 @125
≤ 1000	D13 @125
≤ 1100	D13 @100
≤ 1200	D13 @100

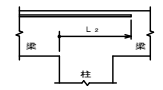
※1.5P、1.5Pのデジッチは150mm以下とする。

10 大梁筋の継手及び定着

10.1 大梁（基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長

大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b. により柱内で定着することができる。ただし、やむを得ず梁内で定着する場合は、10.1図による。



10.1図 梁主筋の梁内定着

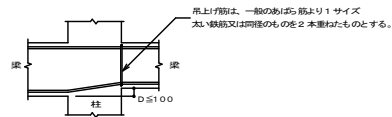
- b. 梁主筋を、柱内に折曲けて定着する場合は次のとおり。

なお、定着の方法は、6.1.4による。

上端筋：曲げ下らす。

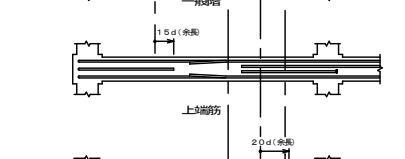
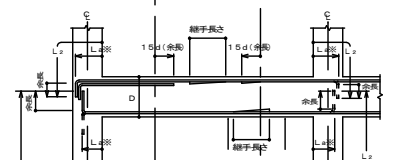
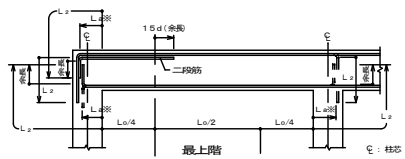
下端筋：原則として曲げ上げる。

- c. 段差い筋は10.2図による。



10.2図 段差い梁

10.2 ハンチのない場合

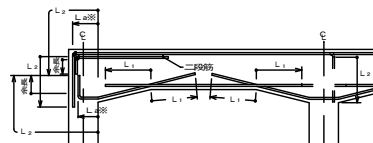


- (注) 1. 継手中心位置は次のとおり。
上端筋：中央、柱以内
下端筋：柱より変位(D)以上とし、L₁を加えた範囲以内
- 2. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋は、フックを付ける。
印は、継手及び余長を示す。
- 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 4. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
- ※ L₁の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱径の3/4倍以上とする。

10.3図 大梁の重ね継手、定着及び余長

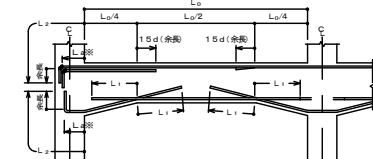
10.3 ハンチのある場合

(1) 最上階の場合



10.4図 ハンチのある大梁の定着及び余長（最上階）

(2) 一般階の場合

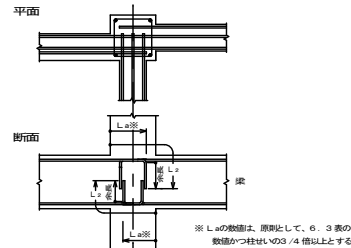


10.5図 ハンチのある大梁の定着及び余長（一般階）

- (注) 1. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋は、フックを付ける。
- 2. 印は、継手及び余長を示す。
- 3. 梁内定着の端部下端筋が折曲するときは、曲げようにより引き通すことができる。
- 4. 破線は、梁内定着の場合を示す。
- 5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
- ※ L₁の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱径の3/4倍以上とする。

10.4 水平段差のある場合

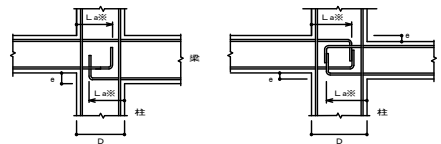
水平段差のある場合



10.6図 大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）

10.5 鉛直段差(e)のある場合

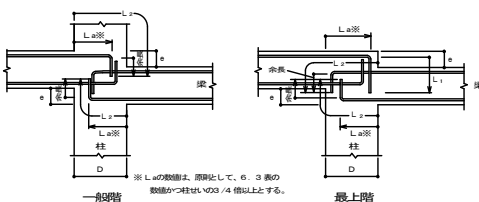
(1) e/D ≤ 1/6 の場合



- 定着の長さは、10.3図に準ずる
- ※ L₁の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱径の3/4倍以上とする。

10.7図 鉛直段差梁（その1）

(2) e/D > 1/6 の場合



- ※ L₁の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱径の3/4倍以上とする。

10.8図 鉛直段差梁（その2）

11 梁のあばら筋、腹筋及び伸縮止め筋

11.1 一般事項

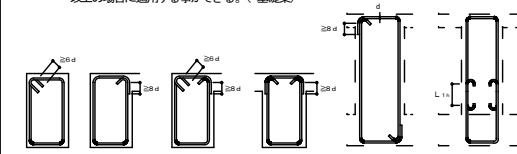
- (1) 腹筋・伸縮止め筋を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- (2) 壁筋の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、Lとする。
- (3) 土圧、水圧を受ける梁は、図面による。
- (4) 幅止め筋及び受け筋幅止め筋は、D10-1000mmピッチ程度とする。

11.2 あばら筋組立の形及びフックの位置

- (1) 形は、11.1図(イ)を標準とする。ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法によること出来る。
- a. 床板が片側につく場合は、(ロ)又は(ハ)
- b. 床板が両側につく場合は、(ロ)～(ニ)

(2) フックの位置

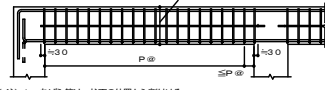
- a. (イ)の場合は交互とする。
- b. (ロ)の場合 床板が片側につく場合は床板の付く側、床板が両側につく場合は交互。
- c. (ハ)の場合は床板の付く側を90°折曲げ、8d確保する。
- d. (ホ)～(ヘ)の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せい401.5m以上の場合に適用する事ができる。(基礎梁)



11.1図 あばら筋組立の形及びフックの位置

11.3 あばら筋の割付け

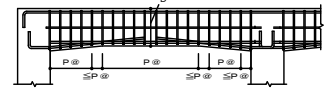
(1) 間隔が一律でハンチのない場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
- 2. 図中のPは、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11.2図 あばら筋の割付け（その1）

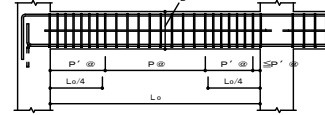
(2) 間隔が一律でハンチのある場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。
- 2. 図中のPは、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11.3図 あばら筋の割付け（その2）

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



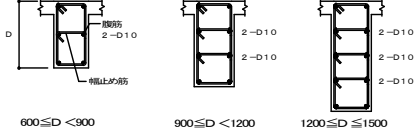
- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
- 2. 図中のP、P'は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11.4図 あばら筋の割付け（その3）

11.4 腹筋及び伸縮止め筋

(1) 一般の梁

a) 腹筋及び伸縮止め筋



11.5図 腹筋及び伸縮止め筋

(2) 特殊な梁

腹筋及び伸縮止め筋は、図面による。

福山市上下水道局

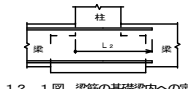
工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	S-03	縮尺	—
構造細目共通図（建築構造物）（3）			

12 基礎梁及び底版の継手及び定着

12.1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

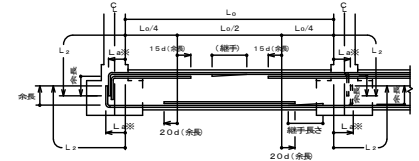
(1) 一般事項

- (a) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内で定着する。やむを得ず梁内で定着する場合は、12.1図による。
- (b) 梁筋を柱内で定着する場合は10.1(1)bによる。

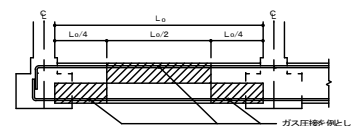


12.1図 梁筋の基礎梁内への定着

(2) 独立基礎で基礎梁・スラブなどの上載荷重を受ける場合の主筋の継手、定着及び余長

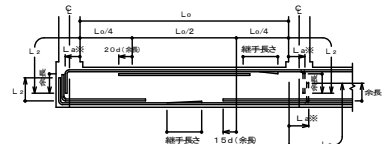


- (注) 1. 図示のない事項は、10.1による。
- 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
- 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
- ※ L₁の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱径の3/4倍以上とする。
- 4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。

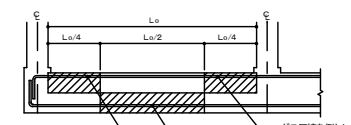


12.2図 主筋の継手、定着及び余長（その1）

(3) 連続基礎及びべた基礎の基礎梁（基礎梁の下方より地反力（抗反力）を受ける場合）の主筋の継手、定着及び余長

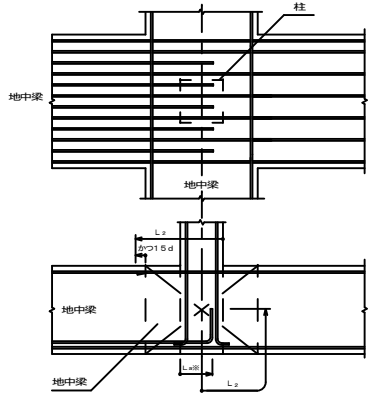


- (注) 1. 図示のない事項は、10.1による。
- 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
- 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
- ※ L₁の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱径の3/4倍以上とする。
- 4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。



12.2図 主筋の継手、定着及び余長（その2）

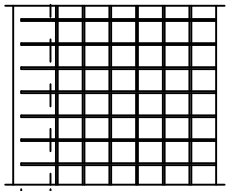
- (4) 柱幅<梁幅の場合
 (a) 交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



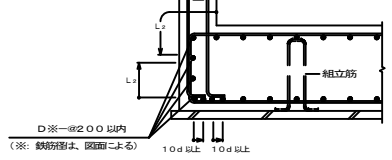
※ L_a の数値は、原則として、6、3 表の数値かつ柱径の 3/4 倍以上とする。
 12.4 図 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

12.4 梁形を設けない場合の基礎底板(オイルタンク等)

- (1) 定着の取り方は、壁の面からとする。
 (2) 途中で配筋が変わる場合の定着は、12.2 図のように基礎底筋筋を梁筋と読みかえる。

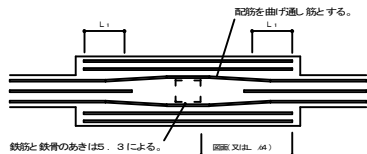


※ L_a の数値は、原則として、柱径の 3/4 倍以上とする。



12.5 図 主筋の継手、定着及び余長 (その4)

- (3) 鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



12.6 図 主筋の継手、定着及び余長 (その5)

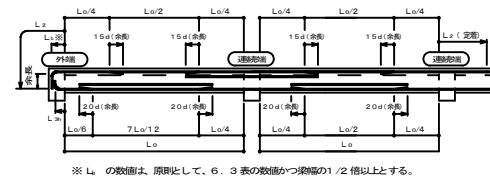
13 小梁及び片持梁の酒筋要領

13.1 一般事項

- (1) 図面のない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。
 (2) 印は、継手及び余長を示す。

13.2 小梁

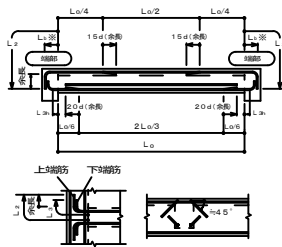
- (1) 連続小梁の場合



※ L_a の数値は、原則として、6、3 表の数値かつ梁幅の 1/2 倍以上とする。

13.1 図 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1)

- (2) 単独小梁の場合



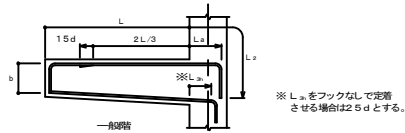
13.2 図 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

- (注) 1. 印は、継手及び余長を示す。
 2. 梁内の定着筋は、梁にせりかき、垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
 3. 図示のない事項は、10.1 及び 12.1 に準ずる。
 ※ L_b の数値は、原則として、6、3 表の数値かつ梁幅の 1/2 倍以上とする。

13.3 片持梁筋の定着

- (1) 先端に小梁のない場合

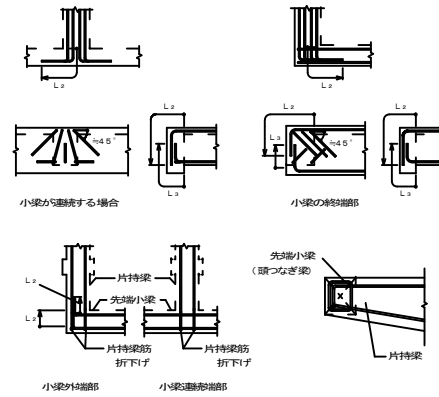
- a. 先端の折曲りの長さ b は、梁せりよりかぶり厚を除いた長さとする。
 b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱と取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端部は、2 本以上を柱に定着する。



13.3 図 片持梁主筋の定着及び余長 (先端に小梁のない場合)

- (2) 先端に小梁がある場合

- a. 上端部は、先端小梁斜材に定着する。
 b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
 c. 先端小梁の端部筋は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

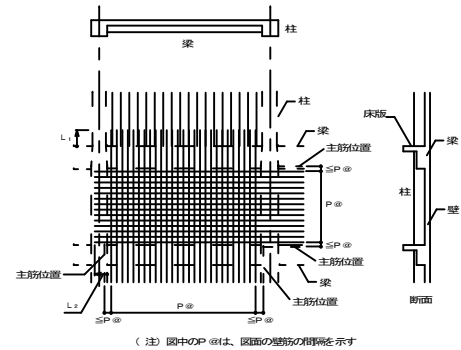


13.4 図 片持梁主筋の定着

14 壁の酒筋要領

14.1 一般事項

- (1) 一般壁筋の重ね継手の長さは L とし、耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは $40d$ とする。ただし、SD390、SD490 を使用する場合は特記による。また、定着の長さは、 L_2 とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
 (2) 幅止め筋は、縦、横とも $D10 \sim \phi 1000$ を標準とする。
 (3) 打増し部分に、壁及びスラブ等が重なりつく場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分が含まない。
 (4) 土圧及び水圧などを受ける壁の配筋は、図面による。



(注) 図中の P 印は、図面の壁筋の部類を示す

14.1 図 壁の配筋

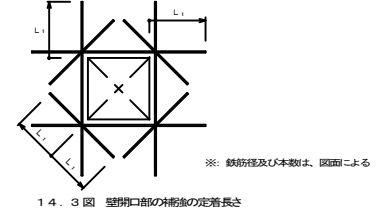
14.2 耐震壁の開口

- (1) 耐震壁等の開口は、図面以外に設けてはならない。
 (2) やむを得ず開口をあける場合は、H9国土交通省告示693号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

福山市上下水道局			
工事名称	新瀬ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新瀬町二丁目及び新瀬町四丁目地内		
図面番号	S-04	縮尺	—
構造細目共通図 (建築構造) (4)			

14.3 壁開口部の補筋

- (1) 壁開口部の補筋は、図面による。補筋筋の長さ及び位置は、14.3 図を標準とする。



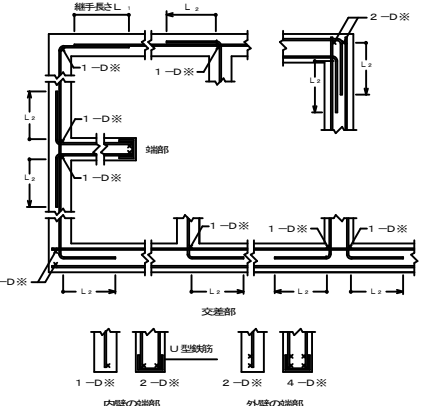
14.3 図 壁開口部の補筋の定着長さ

- (2) 開口部は柱及び梁と接する部分又は鉄筋を緩やかに曲すことにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補筋筋を省略することができる。

14.4 壁の交差部及び端部

- 壁の交差部及び端部の交差部は、14.4 図による。

- a. 交差部補筋 $D \geq D13$ 以上、かつ壁主筋と同径とする。
 b. 壁の端部 \cup 型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。

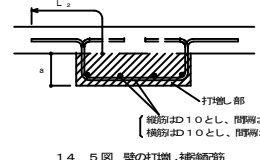


14.4 図 壁の交差部及び端部の配筋

- ※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針(同解説)」(日本建築学会)に基づき図面による。

14.5 壁の打増し要領

- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補筋は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補筋筋は、14.5 図による。
 打増し厚さの a が 50 mm 以上、 200 mm 以下に適用する。
 200 mm を越える場合は、特記による。

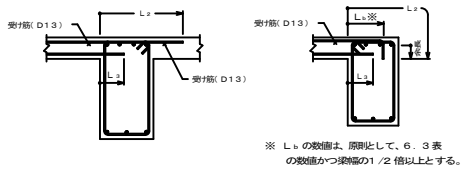


14.5 図 壁の打増し補筋筋

15 床の配筋要領

15.1 一般事項

- (1) 鉄筋の継手長さは、L とする。
- (2) 定着長さ及び受け筋は、15.1 図による。ただし、引き通すことができない場合は、15.2 図、15.3 図より案内定着する。
- (3) 基礎と床版を一体打ちとしなくて、打ち継ぎを設ける場合の補筋は図面による。

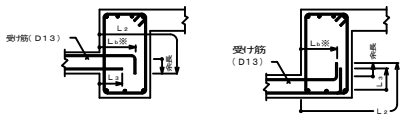


15.1 図

スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

15.2 図

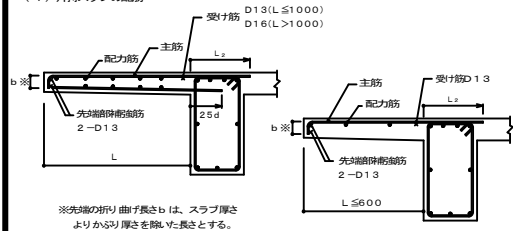
スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)



15.3 図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その3)

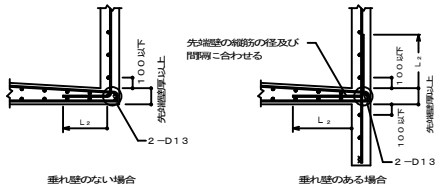
15.2 片持スラブ

(1) 片持スラブの配筋



15.4 図 片持スラブの配筋

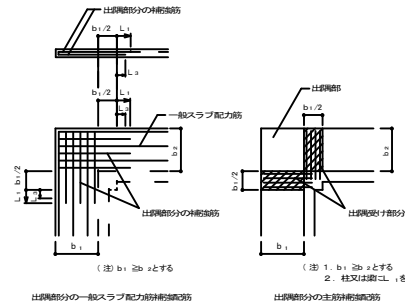
(2) 先端に小梁がなく壁が取り付く場合



15.5 図 先端に壁が付く場合の配筋

15.3 片持スラブ出隅部の補筋要領

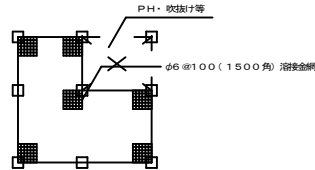
- (1) 出隅部の補筋は図面により、配筋方法は、15.6 図による。
- (2) 出隅受け部分(図のワチ部分)の補筋は、図面による。



15.6 図 片持スラブ出隅部の補筋要領

15.4 地上部最上階の屋根床版

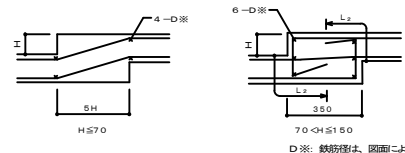
- (1) 出隅及び入隅部分には、15.7 図より、補筋(溶接金網)を上端筋の下側に配筋する。
- (2) 陸屋根、勾配屋根共通とする。



15.7 図 出隅及び入隅部分の補筋要領

15.5 段差床版の補筋

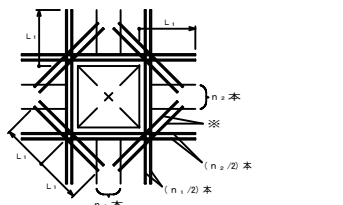
- 同一床版に段差がある場合、15.8 図の配筋を行う。ただし、H>150 の場合は、小梁を設ける事を原則とする。



15.8 図 段差のある床版の補筋要領

15.6 床版開口部の補筋

- (1) 開口の最大径 ≤ 700 の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上・下筋の内側に配筋する。(15.9 図) 開口の最大径 > 700 の場合は図面による。



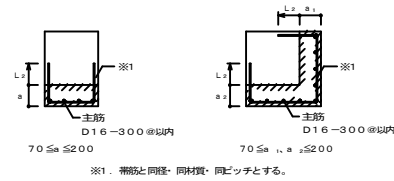
15.9 図 床版開口部の補筋要領

- (2) 床版開口の最大径が同方向の配筋間隔以下で、鉄筋を縦や横に曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補筋を省略することができる。

16 柱及び梁の増し打ち要領

16.1 柱

- (1) 増し打ちコンクリートの補筋は、16.1 図による。ただし、 $a < 70$ mm の場合、補筋は行わない。200 mm $< a$ の場合は、図面による。

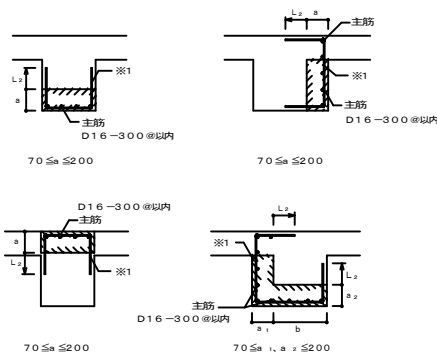


16.1 図 柱の増し打ち補筋要領

- (2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。
- (3) 増し打ち部分の帯筋の定着長さは、L 以上とする。
- (4) 増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。

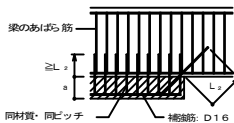
16.2 梁

- (1) 増し打ちコンクリートの補筋は、16.2 図による。ただし、 $a < 70$ mm の場合、補筋は行わない。200 mm $< a$ の場合は、図面による。



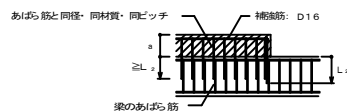
16.2 図 梁の増し打ち補筋要領

- (2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。
- (3) 増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、L 以上とする。
- (4) 増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。
- (5) 梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合



16.3 図 梁の上下の増し打ち配筋補強(途中で終わる場合)

(6) 梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合



16.4 図 梁の側面の増し打ち補筋要領(途中で終わる場合)

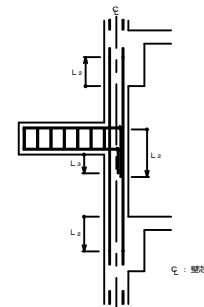
福山市上下水道局

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	S-05	縮尺	—
構造細目共通図(建築構造物)(5)			

18 階段の配筋要領

18.1 階段の配筋要領

- (1) 壁筋は、図面による。
- (2) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。

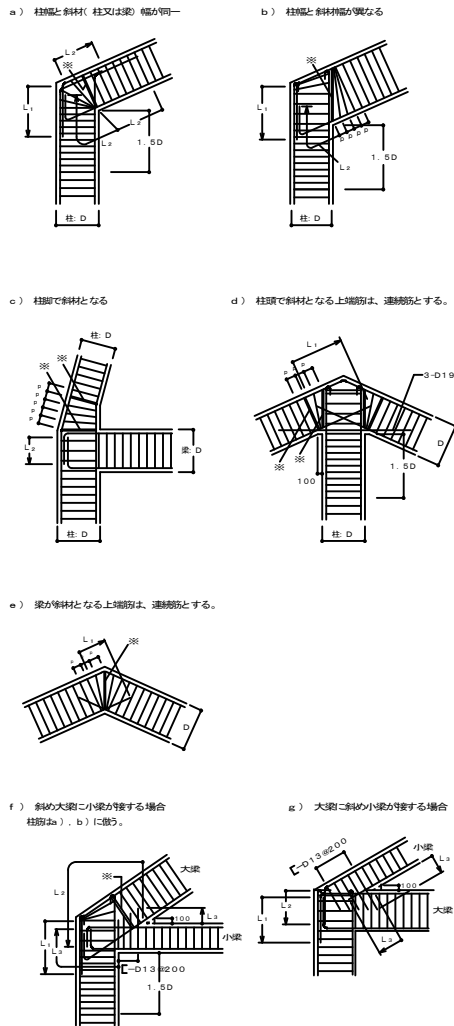


18.1 図 片持スラブ形階段配筋の定着

19 勾配屋根の取り合い

19.1 斜め柱・斜め梁の取り合い

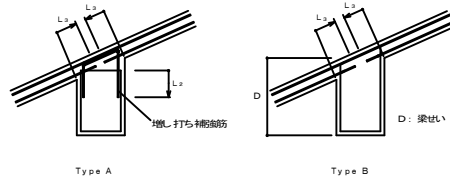
- (1) ※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。
- (2) 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段大きいものか、またはダブル巻きとし①100以下とする。
- (3) 柱の取合い部における斜め梁のせん断筋筋節中心間隔は、当該梁筋節材のせん断筋筋節中心間隔以下とする。



19.1 図 斜め柱・斜め梁の取り合い電筋

19.2 梁と床版の取り合い

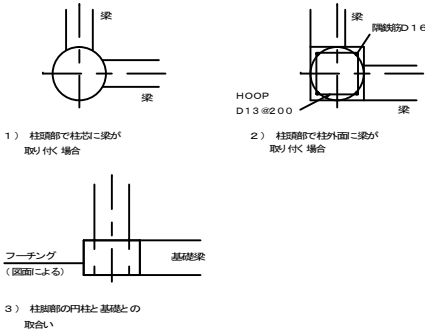
増し打ち補強要領は、16.2による。



19.2 図 梁と床版の取り合い電筋

19.3 円柱の取り合い

円柱と梁の取り合い

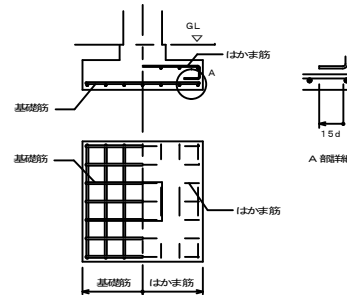


19.3 図 円柱の取り合い電筋

20 基礎及び基礎梁の電筋

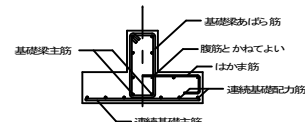
20.1 直接基礎の電筋

(1) 独立基礎



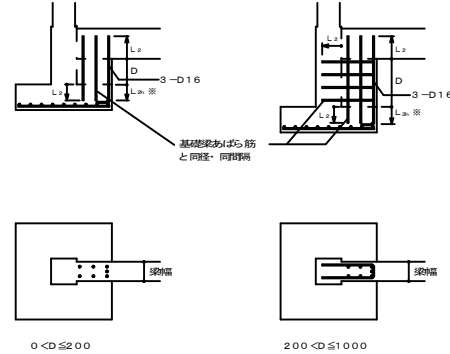
20.1 図 独立基礎の電筋

(2) 連続基礎



20.2 図 連続基礎の電筋

20.2 基礎接合部の沖筋電筋

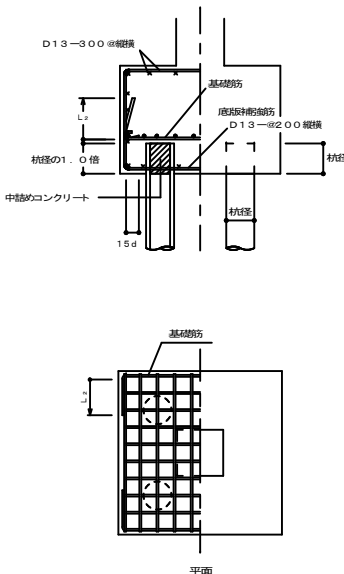


※ ①を確保できない場合は、欄柱(5.3.4(e)(2))によることができる。

21 杭基礎の沖筋

21.1 杭基礎の電筋

- (1) 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
- (2) 既設コンクリート杭以外の場合は、特記による。



21.1 図 杭基礎の電筋及び片頭部部の沖筋電筋

21.2 基礎接合部の沖筋

基礎接合部の沖筋は、20.2による。

福山市上下水道局

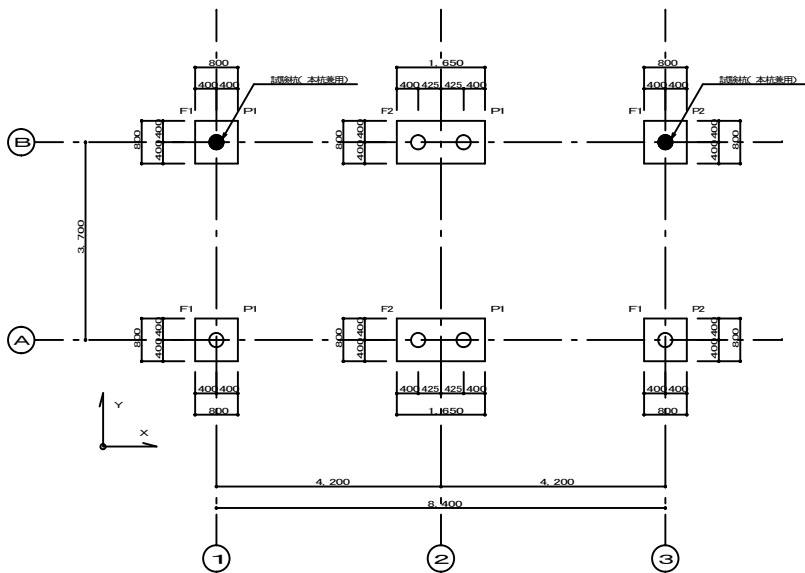
工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	S-06	縮尺	—

構造細目共通図 (建築構造物) (6)

工事名称	新選ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
図面番号	S-07	縮尺	1/30 1/50 1/100

地下燃料タンク 杭リスト・杭伏図・基礎リスト

設計年月：2026年4月



杭伏図 1/50

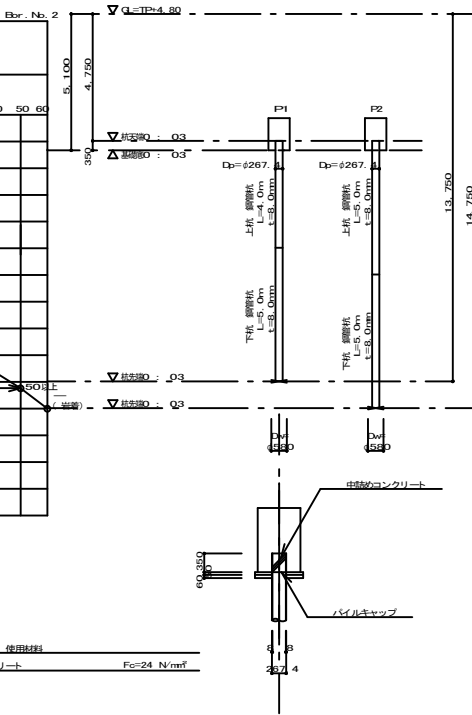
特記なき限り、以下とする。
 ・ 杭径 $D_p = \phi 267.4$ (先端埋深 $D_w = \phi 580$)
 ・ 杭工法 先端埋付付き鋼管杭
 ・ 杭本数 8本
 ・ 杭材 杭リスト図参照
 ・ 支持力 $F_a = 462\text{ kN/本}$ (先算平均値 = 35)

$$F_a = 1/3 \{ \alpha N \cdot A_p + (\beta N_s \cdot L_s + \gamma \cdot I_{qu} \cdot L_c) \}$$

$$\alpha = 300, \beta N_s = 15 \text{ 層に対する}, \gamma_{qu} = 15 \text{ 層に対する}$$

杭リスト図 1/100

標高	土質名	N 値	
		0	10 20 30 40 50 60
$\nabla TP=1.03$	礫層り砂	0 10 20 30 40 50 60	
$\nabla TP=0.77$	砂	0 10 20 30 40 50 60	
$\nabla TP=1.97$	シルト質砂	0 10 20 30 40 50 60	
$\nabla TP=4.77$	地下燃料タンク	0 10 20 30 40 50 60	
$\nabla TP=6.27$	礫層り砂	0 10 20 30 40 50 60	
$\nabla TP=9.67$	風化土	0 10 20 30 40 50 60	
	流紋岩	0 10 20 30 40 50 60	

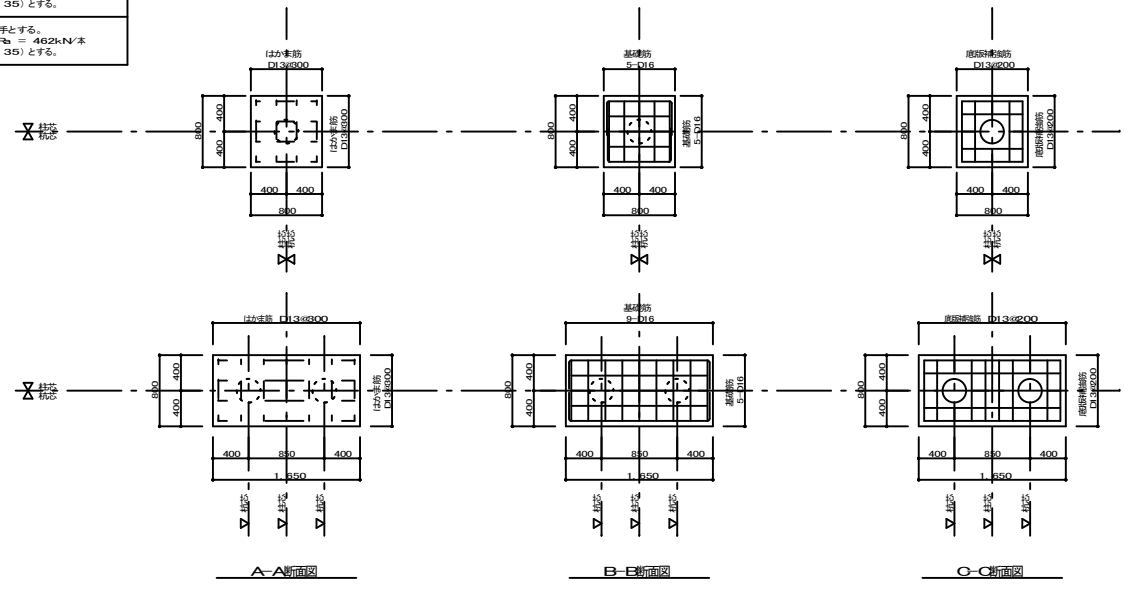
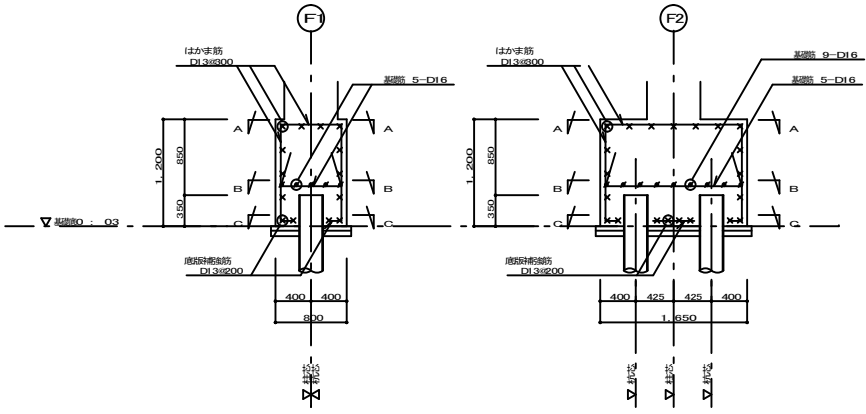


杭頭部詳細重要図 1/50

杭リスト

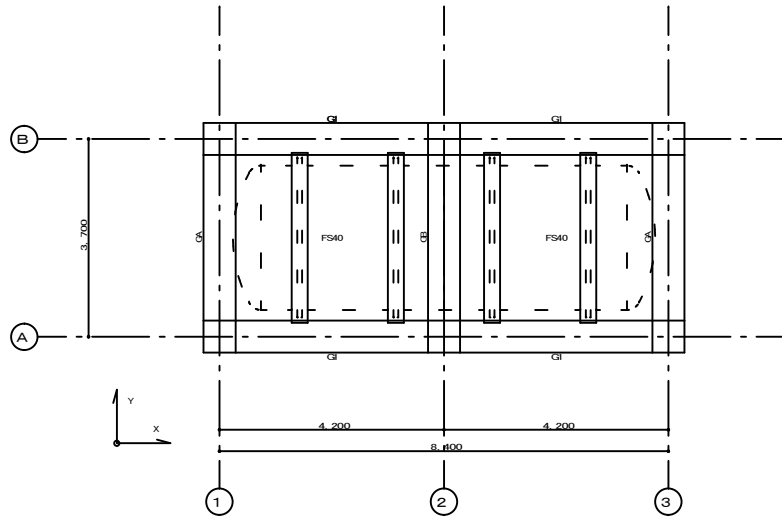
杭符号	基礎下端(標高)	杭径(D _p)	先端埋深(D _w)	杭材		杭先深(標高)	杭先深(標高)	杭長さ(L)		杭本数(本)	施工長(㎡)	備考
				上杭	下杭			上杭	下杭			
P1	TP-0.30	$\phi 267.4$	$\phi 580$	鋼管杭 t=8.0mm STK490	鋼管杭 t=8.0mm STK490	TP-0.05	TP-8.95	4.00	5.00	6	13.75	※継手は機械式継手とする。 ※杭支持力、高層 $F_a = 462\text{ kN/本}$ (先算平均N値 = 35)とする。
F2	TP-0.30	$\phi 267.4$	$\phi 580$	鋼管杭 t=8.0mm STK490	鋼管杭 t=8.0mm STK490	TP-0.05	TP-9.95	5.00	5.00	2	14.75	※継手は機械式継手とする。 ※杭支持力、高層 $F_a = 462\text{ kN/本}$ (先算平均N値 = 35)とする。

基礎リスト 1/30



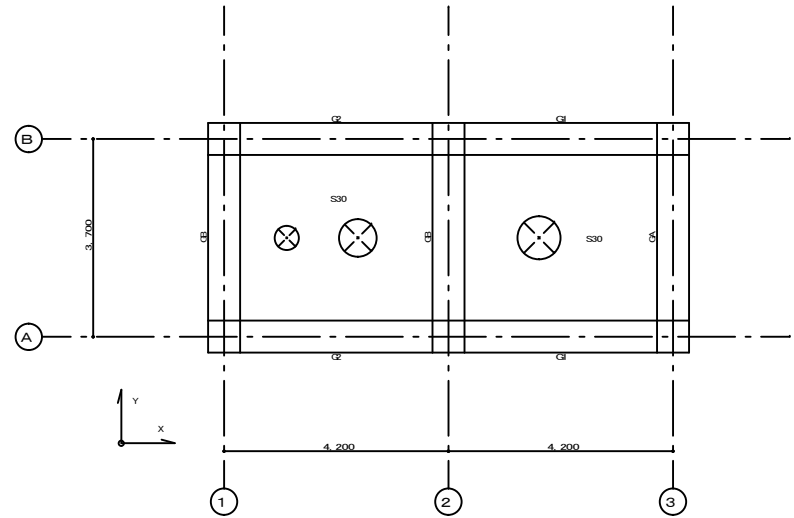
福山市上下水道局			
工事名称	新灌ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新灌町二丁目及び新灌町四丁目地内		
図面番号	S-08	縮尺	1/50
地下燃料タンク		伏図	

設計年月：2026年4月



下部伏図 1/50

特記なき限り、以下とする。
 ・梁天端及びスラブ天端はSL±0とする。
 (SL = TP+0.900)



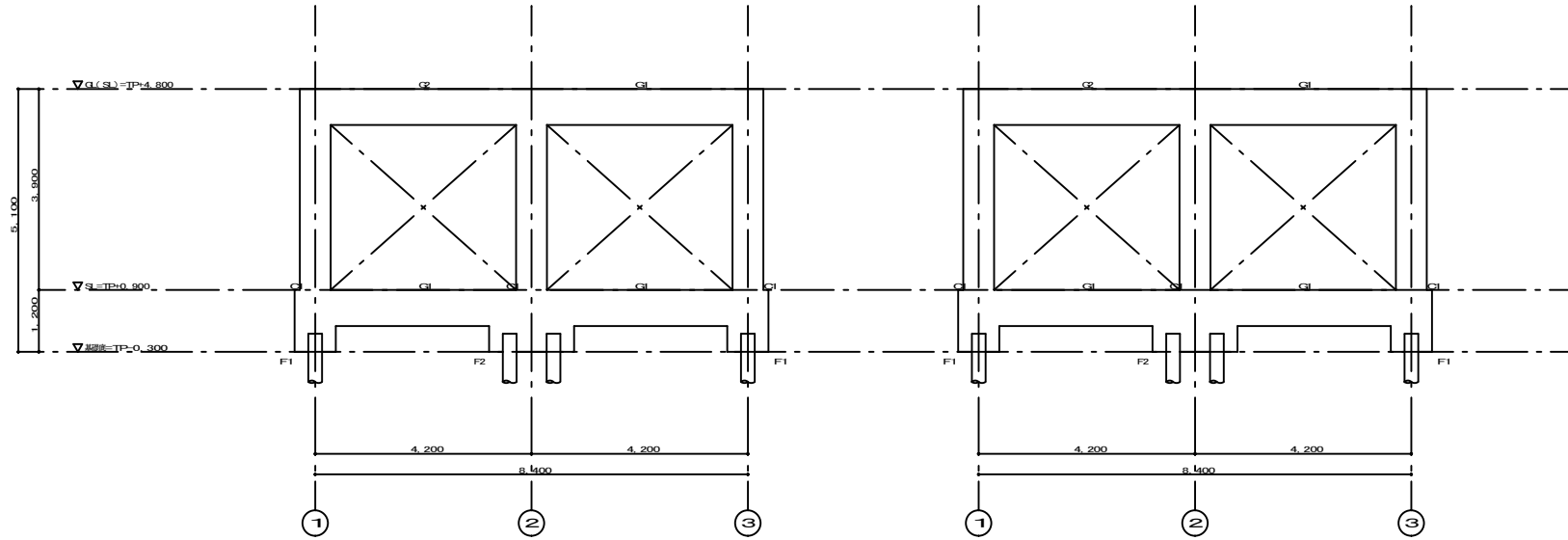
上部伏図 1/50

特記なき限り、以下とする。
 ・梁天端及びスラブ天端はSL±0とする。
 (CL, SL = TP+4.800)
 ・開口位置及び開口寸法は、FMとの照会の上決定すること。

工事名称	新灌ポンプ場ポンプ設備取替工		
工事場所	福山市新灌町二丁目及び新灌町四丁目地内		
図面番号	S-09	縮尺	1/50

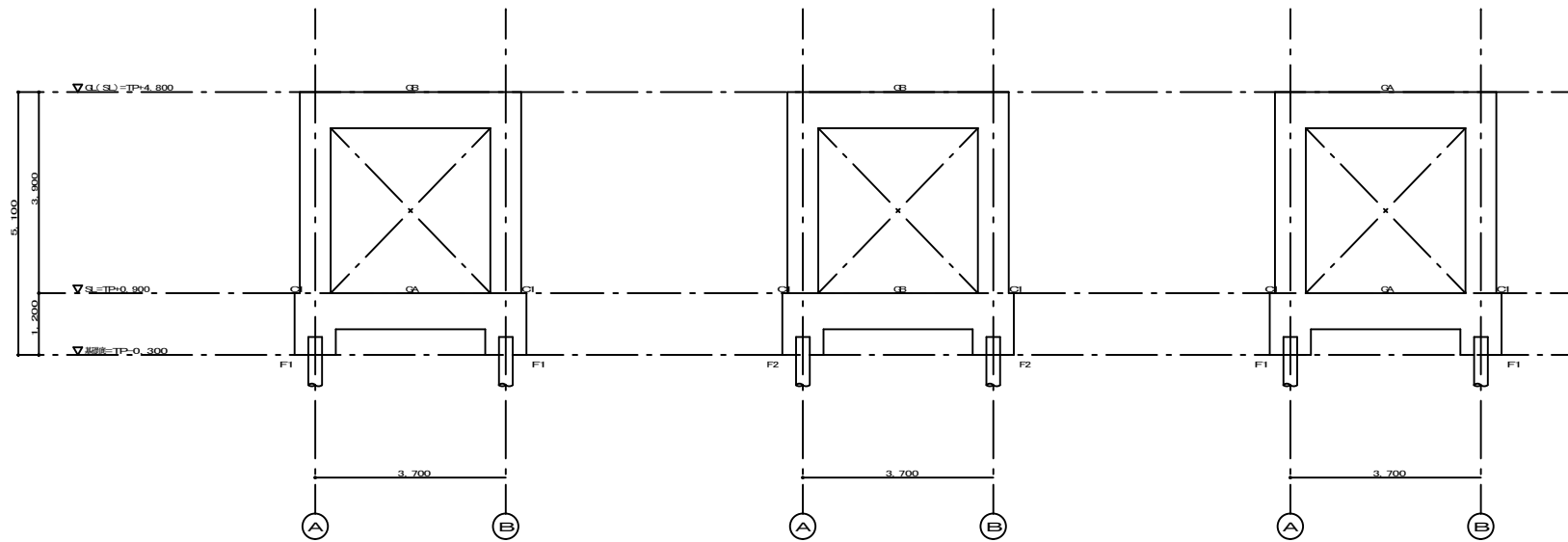
地下燃料タンク 軸組図

設計年月：2026年4月



A 透軸組図 1/50

B 透軸組図 1/50



1 透軸組図 1/50

2 透軸組図 1/50

3 透軸組図 1/50


工事名称	新漣ポンプ場ポンプ設備取替工事		
工事場所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内		
図面番号	S-10	縮尺	1/50

地下燃料タンク 部材リスト

設計年月: 2026年4月









柱リスト 1/50

共通事項 巾止筋は、D10@100とする。

符 号	C1	
Dx × Dy	600×600	
断 面		
主 筋	12 - D19	
フープ	□ - D10 @100	
備 考	仕口フープ: □ - D10 @100	

大梁リスト 1/50

共通事項 巾止筋は、D10@100とする。

階	符 号	C1	C2	GA	CB
上部	位 置	全断面	端部 中央	全断面	端部 中央
	B × D	600×700	600×700	600×700	600×700
	上 端 筋	5 - D22	5 - D22 5 - D22	5 - D22	5 - D22 5 - D22
	断 面				
	下 端 筋	5 - D22	5 - D22 8 - D22	5 - D22	5 - D22 8 - D22
	スターラップ	□ - D13 @200	□ - D13 @200	□ - D13 @200	□ - D13 @200
	腹 筋	2 - D10	2 - D10	2 - D10	2 - D10
下部	位 置	1, 3 邊端 中央 2 邊端		全断面	端部 中央
	B × D	600×700		600×700	600×700
	上 端 筋	5 - D22 5 - D22 7 - D22		5 - D22	7 - D22 7 - D22
	断 面				
	下 端 筋	5 - D22 5 - D22 5 - D22		5 - D22	5 - D22 7 - D22
	スターラップ	□ - D13 @200		□ - D13 @200	□ - D13 @100
	腹 筋	2 - D10		2 - D10	2 - D10

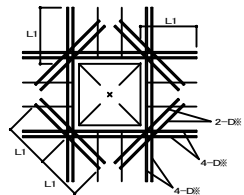
スラブリスト

共通事項 巾止筋は、D10@100とする。

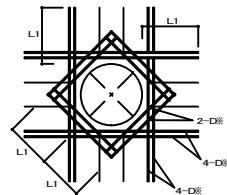
符 号	版 厚	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	開口補筋			備 考
					縦 筋	横 筋	斜 筋	
S30	300	上端筋	D13 @150	D13 @150	D16	D16	D13	
		下端筋	D13 @150	D13 @150				
FS40	400	上端筋	D16 @200	D16 @200				
		下端筋	D16 @200	D16 @200				

スラブ開口部の補筋配筋

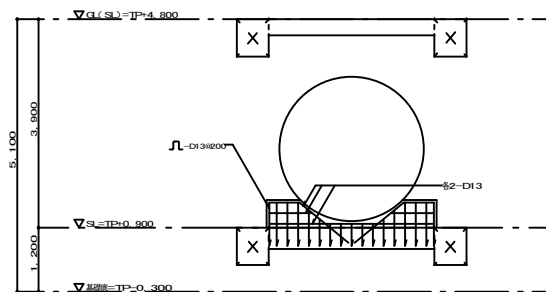
- (1) 開口の最大径>700の場合は下図による。
- (2) ←→でも700を超える場合に適用する。



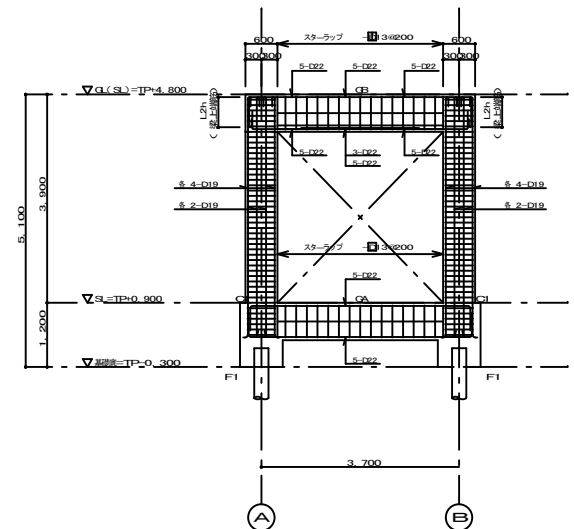
注 ※ は、リストの斜線とする。



注 ※ は、リストの斜線とする。



タンク基礎図 1/50



架構図 1/50

特記なき限り、以下とする。

- 柱 フープ □ - D10@100
- 仕口フープ □ - D10@100
- X Y 方向に連続する場合は仕口筋とし、仕口筋間は柱に
取り付く全ての筋は100%配筋とする。それ以外はフープ
と同様、同ピッチとする。

参考数量書

§ 工事名称 新涯ポンプ場ポンプ設備取替工事

§ 工事場所 福山市新涯町二丁目及び新涯町四丁目地内

特記事項

- 1 この数量書は、福山市建設工事請負契約約款第1条に定める「設計図書」ではなく参考数量です。従って、契約後の変更等を含意するものではありません。
- 2 数量の算出は次の基準によっています。
 - ※ 「建築数量積算基準・同解説」(建築工事積算研究会制定)
 - ※ 「建築設備数量積算基準・同解説」(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
- 3 本工事内のプラント機械設備工事 (PM) には適用しません。

工事名称 新涯ポンプ場ポンプ設備取替工事(建築工事)

工事場所 福山市新涯町二丁目及び新涯町四丁目地内

(工事価格)

ポンプ設備取替工
2. A (建築工事)
地下タンク室 (基礎杭含む) × 1 式

場内復旧整備		場内復旧整備		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
アスファルト舗装	A-5-10 再生密粒 再生クランツァレン 500㎡未満	172.	建改監 ㎡			
既存スライド式門扉 復旧	鋼製 L=6,000 H=1,300	1.	建改監 か所			
D P 塗り	鉄鋼 1級 素地ごしらえ及び下塗り別途	18.	建改監 ㎡			
下地調整 改修仕様	鉄鋼面 RB種(塗替え面)	18.	建改監 ㎡			
錆止め塗料塗り	鉄鋼面(屋内外) 工程B種 塗料As種(鉛・クロムフリー種) 工場1回目 素地別途	18.	建改監 ㎡			
フェンス復旧		10.2	建改監 m			
砂利地業	再生クランツァレン	0.7	建改監 m3			
捨てコンクリート	Fc=18 N/mm2 S=15cm	1	建改監 式			
コンクリート打設手間		1	建改監 式			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D13	0.1	建改監 t			
鉄筋加工組立 (基準単価)	RC壁式構造 階高2.8m程度 形状単純	0.1	建改監 t			
鉄筋運搬費 (基準単価)	4 t 車 30km程度	0.1	建改監 t			
普通コンクリート	JIS A5308 呼び強度18 S15 粗骨材20	3.9	建改監 m3			
コンクリート打設手間		1	建改監 式			
コンクリートポンプ 圧送		1	建改監 式			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1.	建改監 回			
コンクリートポンプ 圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	3.9	建改監 m3			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金		1	建改監 式			
型枠 (基準単価)	普通合板型枠 - 基礎部 -	9.4	建改監 ㎡			
型枠運搬費	4 t 車 30km程度 往復	9.4	建改監 ㎡			

地下燃料タンク新設		地業		地業		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
捨てコンクリート	Fc=18 N/mm ² S=15cm	1	式			
普通コンクリート	JIS A5308 呼び強度18 S15 粗骨材20	7.4	m ³			
計						
コンクリート打設手間		1	式			
コンクリート打設手間	捨てコンクリート ポンプ打設 30m ³ /回程度 S15~S18 - 圧送費、基本料別途	5.2	m ³			
コンクリート打設手間	捨てコンクリート ポンプ打設 30m ³ /回程度 S15~S18 - 圧送費、基本料別途	2.2	m ³			
計						
コンクリートポンプ 圧送		1	式			
コンクリートポンプ 圧送	30m ³ 以上 50m ³ /回未満 基本料金別途加算	5.2	m ³			
コンクリートポンプ 圧送	30m ³ 以上 50m ³ /回未満 基本料金別途加算	2.2	m ³			
計						
コンクリートポンプ 圧送 基本料金		1	式			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金	30m ³ 以上 50m ³ /回未満	1.	回			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金	30m ³ 以上 50m ³ /回未満	1.	回			
計						

地下燃料タンク新設		コンクリート		躯体		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
コンクリート打設手間		1	式			
コンクリート打設手間	基礎部 ポンプ打設 50m3/回未満 S15~S18 - 圧送費、基本料別途	25.8	m3			
コンクリート打設手間	躯体 ポンプ打設 50m3/回未満 S15~S18 標準階高 圧送費、基本料別途	6.9	m3			
コンクリート打設手間	躯体 ポンプ打設 50m3/回未満 S15~S18 標準階高 圧送費、基本料別途	18.	m3			
計						
コンクリートポンプ 圧送		1	式			
コンクリートポンプ 圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	25.8	m3			
コンクリートポンプ 圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	6.9	m3			
コンクリートポンプ 圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	18.	m3			
計						
コンクリートポンプ圧送 基本料金		1	式			
コンクリートポンプ圧送 基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1.	回			
コンクリートポンプ圧送 基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1.	回			
コンクリートポンプ圧送 基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1.	回			
計						

場内復旧整備		場内復旧整備		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
捨てコンクリート	Fc=18 N/mm2 S=15cm	1	式			
普通コンクリート	JIS A5308 呼び強度18 S15 粗骨材20	0.6	m3			
計						
コンクリート打設手間		1	式			
コンクリート打設手間	小型構造物 人力打設 工作物の基礎等 S15~S18 - -	0.6	m3			
計						
コンクリート打設手間		1	式			
コンクリート打設手間	基礎部 ホンプ打設 50m3/回未満 S15~S18 - 圧送費、基本料別途	3.9	m3			
計						
コンクリートホンプ 圧送		1	式			
コンクリートホンプ 圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	3.9	m3			
計						
コンクリートホンプ圧送 基本料金		1	式			
コンクリートホンプ圧送 基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1.	回			
コンクリートホンプ圧送 基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1.	回			
計						

參考資料

1. 施工単価表
2. 数量表

施工単価表

コンクリート

SPK25040157

単第0 -0002 表

無筋・鉄筋構造物 24-12-25(20)BB

コンクリートポンプ車打設

1

m3 当り

機械構成比: 3.88% 労務構成比: 16.39%

材料構成比: 79.73%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

27,663.00000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートポンプ車 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m3/h	3.85%		コンクリートポンプ車 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m3/h		MTPC00050 MTPT00050
その他(機械)			その他(機械)		EK009
普通作業員	8.53%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	2.91%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
特殊作業員	2.76%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
運転手(特殊)	1.75%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度24,スランプ12,粗骨材20(25) W/C(55%),種別(高炉)	78.96%		生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%		TTPC00343 TTPT00343
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	0.77%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013

施工単価表

モルタル工

SPK25040158

単第0 -0003 表

普通

1

m3 当り

機械構成比: 0.00%

労務構成比: 82.04%

材料構成比: 17.96%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

102,720.00000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	54.42%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	27.46%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
セメント(袋) 普通ポルトランド 25kg/袋	12.48%		セメント 高炉B 25kg袋入		TTPCD0094 TTPT00063
コンクリート用砂 細目(洗い)	5.48%		砂 細目(洗い)		TTPC00066 TTPT00066
積算単価			積算単価		EP001
A=2 普通			B=1 -(全ての費用)		

施工単価表

型枠

SPK25040159

単第0 -0007 表

一般型枠

鉄筋・無筋構造物

1

m2 当り

機械構成比: 0.00%

労務構成比: 100.00%

材料構成比: 0.00%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

10,100.00000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	46.66%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	25.14%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	9.51%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 一般型枠 C=1 -(全ての費用)			B=1 鉄筋・無筋構造物		

施工単価表

側溝土工

V9999

単第0 -0008 表

頁0 -0009

1 式 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
舗装版切断 コンクリート舗装版 コンクリート舗装版厚15cm以下	33	m			単第0-0009 表
舗装版切断 アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下	48	m			単第0-0010 表
舗装版破碎 コンクリート舗装版 障害等無し 舗装版厚15cm以下	18	m2			単第0-0011 表
舗装版破碎 アスファルト舗装版 障害等無し 舗装版厚15cm以下	28	m2			単第0-0012 表
床掘り 土砂 上記以外(小規模)	23	m3			単第0-0013 表
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離1.5km以下(1.0km超)	23	m3			単第0-0014 表
埋戻し 土砂 上記以外(小規模)	7	m3			単第0-0015 表
クラッシュラン 30~0mm	10	m3			
下層路盤(車道・路肩部) 全仕上り厚100mm 1層施工 RC-30	24	m2			単第0-0016 表
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 18-8-25(20)BB 人力打設	1.0	m3			単第0-0017 表
基層(車道・路肩部) 平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) 1層当り平均仕上厚50mm	14	m2			単第0-0018 表
表層(車道・路肩部) 平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) 1層当り平均仕上厚50mm	14	m2			単第0-0019 表

施工単価表

舗装版切断

SPK25040307

単第0 -0009 表

コンクリート舗装版

コンクリート舗装版厚15cm以下

1

m 当り

機械構成比: 13.11%

労務構成比:

50.94%

材料構成比: 35.95%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,264.80000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッター バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径 56cm	8.92%		コンクリートカッター バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径 56cm		MTPC00164 MTPT00164
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	17.37%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	9.50%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員	7.79%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
コンクリートカッターブレード 自走式切断機用 径45cm(18インチ)	32.35%		コンクリートカッターブレード 径18インチ		TTPC00394 TTPT00394
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	2.45%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
その他(材料)			その他(材料)		EZ009

施工単価表

頁0 -0013

舗装版切断

SPK25040307

単第0 -0010 表

アスファルト舗装版

アスファルト舗装版厚15cm以下

1

m 当り

機械構成比: 15.05%

労務構成比:

58.43%

材料構成比: 26.52%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

700.44000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッター バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径 56cm	10.24%		コンクリートカッター バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径 56cm		MTPC00164 MTPT00164
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	19.96%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	10.88%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員	8.92%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
コンクリートカッターブレード 自走式切断機用 径45cm(18インチ)	22.39%		コンクリートカッターブレード 径18インチ		TTPC00394 TTPT00394
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	2.81%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
その他(材料)			その他(材料)		EZ009

施工単価表

舗装版破碎

SPK25040306

単第0 -0011 表

コンクリート舗装版

障害等無し 舗装版厚15cm以下

1

m2 当り

機械構成比: 12.85%

労務構成比:

81.24%

材料構成比:

5.91%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

217.37000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>後方超小旋回バックホウ(クローラ型) 山積0.45m3(平積0.35m3) 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	12.85%		バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型] 山積0.45m3(平積0.35m3)		KTPC00066 KTPT00066
土木一般世話役	29.54%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊)	27.52%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	24.18%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	5.91%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 C=1 F=1 コンクリート舗装版 騒音振動対策不要 積込作業有り			B=1 D=1 G=1 障害等無し 舗装版厚15cm以下 -(全ての費用)		

施工単価表

舗装版破碎

SPK25040306

単第0 -0012 表

アスファルト舗装版

障害等無し 舗装版厚15cm以下

1

m2 当り

機械構成比: 12.85%

労務構成比:

81.24%

材料構成比:

5.91%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

217.37000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>後方超小旋回バックホウ(クローラ型) 山積0.45m3(平積0.35m3) 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	12.85%		バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型] 山積0.45m3(平積0.35m3)		KTPC00066 KTPT00066
土木一般世話役	29.54%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊)	27.52%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	24.18%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	5.91%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 アスファルト舗装版 C=1 騒音振動対策不要 F=1 積込作業有り			B=1 障害等無し D=1 舗装版厚15cm以下 G=1 -(全ての費用)		

施工単価表

床掘り

SPK25040015

単第0 -0013 表

土砂 上記以外(小規模)

1 m3 当り

機械構成比: 18.73% 労務構成比: 74.16% 材料構成比: 7.11% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 2,247.40000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・排2 山積0.28/平積0.2m3	18.73%		バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・排2 山積0.28/平積0.2m3		MTPC00083 MTPT00083
運転手(特殊)	40.26%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	33.90%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	7.11%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂 E=1 -(全ての費用)			B=5 上記以外(小規模)		

施工単価表

土砂等運搬

SPK25040002

単第0 -0014 表

小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む)

DID区間無し 距離1.5km以下(1.0km超)

1

m3 当り

機械構成比: 26.52% 労務構成比:

61.90%

材料構成比: 11.58%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,143.90000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	26.52%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00017T1 MTPT00017T1
運転手(一般)	61.90%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	11.58%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 小規模 C=1 土砂(岩塊・玉石混り土含む) F=9 距離1.5km以下(1.0km超)			B=5 バックホウ山積0.28m3(平積0.2m3) D=1 DID区間無し		

施工単価表

埋戻し

SPK25040020

単第0 -0015 表

土砂

上記以外(小規模)

1

m3 当り

機械構成比: 8.87%

労務構成比:

87.15%

材料構成比:

3.98%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

4,063.80000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・排2 山積0.28/平積0.2m3	8.27%		バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・排2 山積0.28/平積0.2m3		MTPC00083 MTPT00083
タンパ及びランマ ランマ 質量60~80kg	0.60%		タンパ及びランマ ランマ 質量60~80kg		MTPC00048 MTPT00048
普通作業員	50.03%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	19.35%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
運転手(特殊)	17.77%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	3.14%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	0.84%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
積算単価			積算単価		EP001
A=5 D=1	上記以外(小規模) -(全ての費用)		B=1 土砂		

施工単価表

頁0 -0021

下層路盤(車道・路肩部)

SPK25040235

単第0 -0016 表

全仕上り厚100mm 1層施工

RC-30

1

m2 当り

機械構成比: 5.72%

労務構成比:

18.33%

材料構成比: 75.95%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,289.30000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
モータグレーダ 土工用・排2014 ブレード幅3.1m	3.95%		モータグレーダ 土工用・排2014 ブレード幅3.1m		MTPC00176 MTPT00176
<賃>ロードローラ(マカダム) 質量10~12t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)	0.49%		ロードローラ [マカダム]質量10t~12t		KTPC00047 KTPT00047
<賃>タイヤローラ 質量13~14t 排出ガス対策型(2014年規制)普通・超低騒音	0.49%		<賃>タイヤローラ 質量13~14t		KTPC00074 KTPT00074
その他(機械)			その他(機械)		EK009
運転手(特殊)	8.06%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	2.95%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	2.63%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	2.16%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009

施工単価表

下層路盤(車道・路肩部)

SPK25040235

単第0 -0016 表

全仕上り厚100mm 1層施工

RC-30

1

m2 当り

機械構成比: 5.72% 労務構成比: 18.33%

材料構成比: 75.95%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,289.30000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
再生クラッシャー 30~0mm	74.21%		クラッシャー 40~0mm [標準数量]全仕上り厚150mm		TTPCD0018 TTPT00346
軽油 パトロール給油, 2~4KL積載車給油	1.50%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=100 全仕上り厚(mm) D=1 -(全ての費用)			B=3 RC-30		
【路盤材単価】 全仕上り厚(mm)/1000*路盤材単価(円) 全仕上り厚(mm):100.000(mm)					

施工単価表

コンクリート

SPK25040157

単第0 -0017 表

無筋・鉄筋構造物 18-8-25(20)BB

人力打設

1

m3 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比:

28.68%

材料構成比: 71.32%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

30,615.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	12.85%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	7.30%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	6.58%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度18,スランプ8,粗骨材20(25) W/C(60%),種別(高炉)	71.32%		生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%		TTPC00003 TTPT00343
積算単価			積算単価		E9999
A=1 無筋・鉄筋構造物 C=3 18-8-25(20)BB H=2 現場内小運搬無し K=1 -(全ての費用)			B=3 人力打設 F=2 一般養生 J=1 -		

施工単価表

頁0 -0024

基層(車道・路肩部)

SPK25040242

単第0 -0018 表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)

1層当り平均仕上厚50mm

1

m2 当り

機械構成比: 0.49% 労務構成比:

49.04%

材料構成比: 50.47%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,614.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5~0.6t	0.27%		振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5~0.6t		MTPC00047 MTPT00047
振動コンパクト 前進型 運転質量40~60kg	0.15%		振動コンパクト 前進型 運転質量40~60kg		MTPC00049 MTPT00049
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	21.64%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	15.54%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	4.74%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
再生加熱アスファルト混合物 再生粗粒度(20)	45.26%		再生粗粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm		TTPC00023 TTPT00281
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-3プライムコート用	4.96%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-3プライムコート用		TTPC00026 TTPT00026

施工単価表

基層(車道・路肩部)

SPK25040242

単第0 -0018 表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)

1層当り平均仕上厚50mm

1

m2 当り

機械構成比: 0.49% 労務構成比:

49.04%

材料構成比: 50.47%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,614.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	0.18%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	0.04%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=1 平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) C=8 再生粗粒度アスコン(20) G=2 小型車割増有 I=1 -(全ての費用)			B=50 1層当り平均仕上り厚(mm) E=2 PK-3 H=1 -		
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):50.000(mm)					

施工単価表

頁0 -0026

表層(車道・路肩部)

SPK25040244

単第0 -0019 表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)

1層当り平均仕上厚50mm

1

m2 当り

機械構成比: 0.45% 労務構成比:

45.70%

材料構成比: 53.85%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,805.60000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5~0.6t	0.25%		振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5~0.6t		MTPC00047 MTPT00047
振動コンパクト 前進型 運転質量40~60kg	0.14%		振動コンパクト 前進型 運転質量40~60kg		MTPC00049 MTPT00049
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	20.17%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	14.48%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	4.41%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
再生加熱アスファルト混合物 再生密粒度(20)	52.05%		密粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm		TTPCD0038 TTPT00284
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用	1.57%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用		TTPC00027 TTPT00027

施工単価表

表層(車道・路肩部)

SPK25040244

単第0 -0019 表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)

1層当り平均仕上厚50mm

1

m2 当り

機械構成比: 0.45% 労務構成比:

45.70%

材料構成比: 53.85%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,805.60000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	0.17%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	0.03%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=1 平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) C=6 再生密粒度アスファルト混合物(20) G=2 小型車割増有 I=1 -(全ての費用)			B=50 1層当り平均仕上り厚(mm) E=1 PK-4 H=1 -		
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):50.000(mm)					

施工単価表

殻運搬

SPK25040155

単第0 -0025 表

Co(鉄筋)構造物とりこわし

DID区間無し 運搬距離1.6km以下

1

m3 当り

機械構成比: 40.77% 労務構成比:

44.82% 材料構成比: 14.41%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,158.60000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	40.77%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	44.82%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	14.41%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 Co(鉄筋)構造物とりこわし C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=7 運搬距離1.6km以下		

施工単価表

殻運搬

SPK25040155

単第0 -0026 表

Co(無筋)構造物とりこわし

DID区間無し 運搬距離1.6km以下

1

m3 当り

機械構成比: 40.77% 労務構成比:

44.82% 材料構成比: 14.41%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

947.92000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	40.77%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	44.82%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	14.41%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 Co(無筋)構造物とりこわし C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=7 運搬距離1.6km以下		

施工単価表

殻運搬

舗装版破碎

機械構成比: 20.25% 労務構成比: 71.03%

SPK25040155

DID区間無し 運搬距離1.5km以下(1.0km超)

材料構成比: 8.72%

単第0 -0027 表

1
標準単価:

m3 当り

2,591.70000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	20.25%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	71.03%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	8.72%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=3 舗装版破碎 C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=4 機械積込(小規模土工) D=6 運搬距離1.5km以下(1.0km超)		

数量一覧表

表1: 据付数量

※端数処理の都合上、設計書数量と異なる場合があります

項目	仕様	仕様	仕様	数量	単位	
機器	No.1排水ポンプ	φ1800	立軸斜流	(想定重量47.0t/基)	1	基
	No.1吐出弁	φ1800	蝶型	(想定重量6.62t/基)	1	基
	No.1逆流防止弁	2600×1800	フラップ	(想定重量2.86t/台)	1	台
	No.1減速機	比: 6.207	直交軸歯車	(想定重量5.0t/基)	1	基
	No.1原動機	539kW	ディーゼル	(想定重量11.56t/基)	1	基
	No.1燃料貯留槽	40kL	二重殻地下タンク	(想定重量7.1t/槽)	1	槽
	No.1～2燃料移送ポンプ	0.4kW	ギヤ	(想定重量32kg/基)	2	基
	No.3～4燃料移送ポンプ	2.2kW	ギヤ	(想定重量79kg/基)	2	基
	No.1燃料小出槽	800L	鋼製角型	(想定重量7.1t/槽)	1	槽
	No.1～2空気圧縮機	3.7kW		(想定重量0.13t/基)	2	基
	No.1～2冷却水ポンプ	5.5kW	水中	(想定重量0.149t/基)	2	基
	高架水槽	0.7m3(有効)	FRP組立式	(想定重量0.248t/槽)	1	槽
	大口径鉄管	異形管Ⅲ類	φ1800	(屋内)		4090
異形管Ⅲ類		φ1800	(屋外)		8160	kg
異形管Ⅹ類		φ1800	(屋内)		4760	kg
異形管Ⅹ類		2600×1800	(水中)		4140	kg
フランジ接合材(SS)		φ1800	JIS7.5K		10	組
フランジ接合材(SUS)		2600×1800	JIS7.5K		1	組
可撓管(100mm偏心)		φ1800	L1,100mm		1	個
大口径鋼管	STPY 90°ロングエルボ(SS)	400A			1	個
	フランジ(SS)	400A	JIS5K		3	枚
	フランジ接合材(SS)	400A	JIS5K		2	組
小配管弁類	SGP(黒)	300A		付属材料率含む	24	m
		65A		付属材料率含む	51.9	m
		50A		付属材料率含む	57.5	m
		40A		付属材料率含む	8.32	m
		32A		付属材料率含む	121	m
		25A		付属材料率含む	112	m
		20A		付属材料率含む	20.9	m
	SGPW	100A		付属材料率含む	115	m
		80A		付属材料率含む	2.21	m
		50A		付属材料率含む	14.9	m
	SGP-VA	50A		付属材料率含む	1.21	m
	SGP-VD	65A		付属材料率含む	44.1	m
		50A		付属材料率含む	45.7	m
SUS304TP	100A	Sch20S	付属材料率含む	2.19	m	
	80A	Sch20S	付属材料率含む	19.4	m	
	25A	Sch40	付属材料率含む	22.8	m	
電動ホール弁	仕切弁	100A	FC/SUS	JIS10K	2	個
		80A	FC/SUS	JIS10K	2	個
		50A	FCMB	JIS10K	2	個
		32A	FCMB	JIS10K	7	個
		25A	FCMB	JIS10K	1	個
		20A	FCMB	JIS10K	6	個
		65A	SCS	JIS10K	1	個
		25A	SCS	JIS30K	2	個
	逆止弁	80A	FC/SUS	JIS10K	2	個
		32A	FCMB	JIS10K	3	個
		20A	FCMB	JIS10K	2	個
		25A	SCS	JIS30K	2	個
	電動ホール弁	上水用	50A	JIS10K	1	個
	バルブボックス	50A			2	個
	埋設標識シート	150mm			14	m
伸縮継手	300A	SUS	JIS5K	4	個	
	65A	SUS	JIS10K	5	個	
	50A	SUS	JIS10K	3	個	
	32A	SUS	JIS10K	4	個	
	25A	SUS	JIS10K	2	個	
オイルストレーナ	複式	50A	JIS10K	1	組	
	複式	25A	JIS10K	1	組	
鋼製架台類	鋼製加工品	SS400	架台類	フタル酸塗装	1900	kg
		SS400	蓋類	フタル酸塗装	118	kg
		SS400	サポート類	フタル酸塗装	84.7	kg
		SS400	蓋類	塗装なし	580	kg
		SUS304	蓋類	塗装なし	24.9	kg
		SUS304	サポート類	塗装なし	139	kg
	グレーチング	FB25×3			4.16	m2

複 合 工	鉄筋コンクリート工	24N/mm2			23.7	m3	
	モルタル工	配合1:3			1.47	m3	
	鉄筋工	D13			0.987	t	
	型枠工				47.4	m2	
	構造物とりこわし工	Co鉄筋				0.016	m3
		Co無筋				1.056	m3
	舗装切断	Co			33	m	
	舗装切断	As			48	m	
	舗装破碎	Co			18	m2	
	舗装破碎	As			28	m2	
	掘削				23	m3	
	運搬処分	残土			23	m3	
	埋戻し	RC30			7	m3	
	路盤工	RC30			24	m2	
	舗装工	Co			1	m3	
	舗装工	As			14	m2	
	U型側溝	300A	グレーチングT-25		29.5	m	
	U型側溝	400A	グレーチングT-25		11.0	m	
	鑄鉄管塗装	アクリル系塗装	第3・4層	屋内	22.3	m2	
			ポリウレタン樹脂系塗装	第4・5層	屋外	37.9	m2
			エポキシ樹脂系塗装	第4・5層	水中	6.16	m2
	耐油塗装	エポキシ樹脂系			5.18	m2	
	ロックウール保温材充填	配管貫通部			0.17	m3	
	被覆工	給水50A			0.5	m	
排気管(400A,300A)		t=75mm		17.7	m2		
Znメッキ				0.58	t		

表2: 撤去数量

※端数処理の都合上、設計書数量と異なる場合があります

項目	仕様			数量	単位	
機 器	No.1排水ポンプ	φ1800	立軸斜流	(想定重量38.6t/基)	1	基
	No.1吐出弁	φ1800	蝶型	(想定重量7.4t/基)	1	基
	No.1逆流防止弁	2600×1800	フラップ	(想定重量4.2t/台)	1	台
	No.1減速機	比:6.43	直交軸歯車	(想定重量17.0t/基)	1	基
	No.1原動機	610kW	ディーゼル	(想定重量9.0t/基)	1	基
	No.1消音器	2連式		(想定重量4.0t/式)	1	式
	No.1空気槽	2槽式		(想定重量629kg/式)	1	式
	No.1燃料貯留槽	15kL	一重殻地下タンク	(想定重量3.4t/槽)	1	槽
	No.1~2燃料移送ポンプ	1.5kW	ギヤ	(想定重量57kg/基)	2	基
	No.1燃料小出槽	600L	鋼製角型	(想定重量155kg/槽)	1	槽
	No.1~2空気圧縮機	3.7kW		(想定重量105kg/基)	2	基
	No.1~2冷却水ポンプ	11kW	水中	(想定重量230kg/基)	2	基
	No.1~2高架揚水ポンプ	3.7kW	水中	(想定重量90kg/基)	2	基
	高架水槽	5m3	FRP 丸型	(想定重量1.2t/槽)	1	槽
大 口 径 鑄 鉄 管	異形管	φ1800	(屋内)	8,850	kg	
	異形管	φ1800	(屋外)	8,300	kg	
	異形管	2600×1800	(水中)	6,500	kg	
	フランジ接合材(SS)	φ1800	JIS7.5K	9	組	
	フランジ接合材(SUS)	2600×1800	JIS7.5K	1	組	
可撓管(100mm偏心)	φ1800	L1,100mm		1	個	
小 配 管 弁 類	SGPW	200A		弁類含む	9.9	m
		100A		弁類含む	90.95	m
		80A		弁類含む	7.6	m
		65A		弁類含む	57.7	m
		50A		弁類含む	36.8	m
	SGP	350A		弁類含む	15	m
		65A		弁類含む	9.35	m
		40A		弁類含む	33.2	m
		32A		弁類含む	37.8	m
		25A		弁類含む	11.5	m
Cut	25A			23.55	m	
排気逆止弁	350A		(想定重量230kg/個)	1	個	
鋼 製 架 台 類	鋼製加工品	SS400		1.746	t	
		SUS304		85.94	kg	
複 合 工	モルタル工			0.52	m2	
	型枠			0.733	m2	
	構造物とりこわし工	鉄筋Co			27.7	m3
		無筋Co			0.195	m3
	殻運搬	鉄筋Co殻			27.7	m3
		無筋Co殻			1.70	m3
No.1燃料貯留槽等清掃	As殻			4.13	m3	
廃 棄 物 処 理	再資源化施設受入費	地下タンク(15kL)	小出槽(600L)	燃料配管	1	式
		鉄筋Co殻			27.7	m3
		無筋Co殻			1.70	m3
		As殻			4.13	m3
	処分費	残土			23	m3
	スクラップ	鉄屑	へビーH1		86.5	t
鉄屑		へビーH2		29.1	t	
ステンレス		18-8		85.9	kg	
	銅くず			16.3	kg	